

14.27

267

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



14.24
267

拓殖局報第三十四

一九二〇乃至
一九二一年

獨逸殖民地狀況一斑

拓殖局

フランタフイルトドクトル、シナイダー氏ノ逐年編輯
ニ係ル獨逸殖民地年報第五卷（一九一二年）エツセン書
肆ベエデカ出版中ヨリ參考ニ資スベキ數篇ヲ譯出
セシメ之ヲ一九一〇乃至一九一一年獨逸殖民地狀況一班ト題シ印行シ
テ騰寫ニ代フ

大正二年三月二十日

拓殖局

大正
2. 4. 26
寄贈

寄贈本

一九一〇乃至一九一一年 獨逸殖民地狀況一斑

目次

第一	一九一〇年度獨逸殖民地發展ノ回顧	一
	ドクトル、ロールバツハ	
第二	一九一〇年以降獨逸殖民地々理的調査ノ進程	三〇
	「アーヘン」教授ドクトル、マクス、エツケルト	
第三	一九一一年獨逸殖民地ノ現在	六三
	「ケーニツヒスベルヒ」教授ドクトル、マクス、フライシマン	
第四	一九一一年獨逸殖民地經濟	七一
	同上	
第五	一九一一年獨逸殖民地ト外國	七九
	同上	
第六	一九一一年獨逸熱帶殖民地ニ於ケル歐洲人ノ栽培業	八一
	目次	一

第七 獨逸殖民地ノ衛生狀況

「カメルン」駐屯軍々醫監、フオン、フキリツプ、クーン

一二五

漢堡、ドクトル、ワルツ

二

一九二〇乃至一九二一年

獨逸殖民地狀況一斑目次

終

一九二〇年乃至一九二一年

獨逸殖民地狀況一斑

一九二〇年度獨逸殖民地發展ノ回顧

ドクトル ロールバツハ

一九二〇年一年ノ拓殖年度ハ其前年度ノ如ク危急ノ年ナリキ、當時南西阿弗利加事件就中「ダイヤモンド」政策ノ成行ガ大臣「デルンブルヒ」氏辭職ノ原因ヲナシタリシガ、今又氏ノ後任大臣「フオン、リンデキスト」氏モ亦稍ヤ演劇的事情ノ下ニ其椅子ヲ棄ルニ至リタリ、而シテ「デ」氏辭任ノ原因ガ、獨逸ノ拓殖ニ重要ナル關係アル内國ノ殖民政策的及經濟的問題ニ關シタルヤ勿論ナリト雖モ同時ニ亦前年ニ於ケル國家ノ大政策ト最モ緊密ナル關係アル事件即チ摩國問題ニ存シタルヤ疑フベカラズ、故ニ吾人ハ獨逸拓殖政策ノ回顧ナル章ニ於テ、「マロツコ」問題ニ付キ聊カ論ズル所アラントス、抑々此問題ハ直接ニハ獨逸殖民地ノ領域ニ積極的大變更ヲ與ヘ間接ニハ恐クハ遠カラザル將來ニ於テ更ニ大ナル變更ヲ阿弗利加ノ地圖面ニ加フル動機トナルベキ性質ヲ有スルヤ必セリ。

我國輿論中ノ硬派ハ當初ヨリ極力獨逸殖民地トシテ南「マロツコ」ヲ獲得センコトヲ主張シ、而シテ之ニ關スル運動ハ甚ダ熱烈ヲ極メ、外務省ガ「マロツコ」ニ於テ土地ノ割讓ヲ受クルコトヲ放棄シ單ニ「マロツコ」ニ於ケル我國ノ經濟上ノ權利ノ確認及佛國「コンゴ」ニ於ケル例ノ補償ノ確保ヲ以テ満足シタルトキ、獨逸外交政策ヲ非常ノ失態ナリトシテ劇甚ナル攻撃ノ火ノ手ヲ擧ゲタリ、然レドモ吾人ハ我政府ガ此點ニ關シテ失策ヲ演ジタリト云フニ與スルコトヲ得ズ、何人ト雖モ、若シ「ボリア」戰爭ノ間ニ於ケル無責任ナル獨逸ノ公衆ノ態度ヲ回想スル者ハ必ズヤ一九一〇年及一九一一年ノ間ニ於テ或ル類似ノ點ヲ發見スルナラン、當時輿論否寧ロ輿論ノ有力ナル大部分ハ戰鬥シツ、アル「ボリア」人ノ爲メニ干涉センコトヲ政府ニ要求シタリ、然レドモ如何ナル方法ニテ干涉スベキカニツキテ説明ヲ與ヘザリキ、唯一ノ實行スベキ方法ハ「ボリア」人ノ諸國ニ獨立ヲサシムベキコトヲ英國ニ諷告スルニ在リシナラン、而シテ此ノ如キ要求ハ今日何人モ知レルガ如ク是レ一時英國及佛國トヲ相手ニ戰爭ヲ意味スルナリ、翻テ我國ヲ見レバ當時我國ノ海軍ハ未ダ英國ト交戦ヲ交ユルノ實力ヲ具ヘザリシナリ、然ルニモ拘ラズ輿論ハ政府ノ軟弱ヲ痛撃シテ餘ス所ナカリキ、摩國問題ノ事情ハ全ク之レト類似ス、「ボリア」ガ南阿弗利加ニ於テ政事的獨立ヲ保チナバ獨逸ニ利益ナルベカリシナラント同様ニ、「マロツコ」ニ獨逸領ヲ有スルコトハ單ニソレノミヲ考フレバ希望スベキコトナリシナラン、輿論中更ニ一步ヲ進メテ、若シ我國ガ佛國ヲシテ摩國ノ殘餘ニ對スル自由手腕ヲ差控シメ得タリシナラバ「アルゲシラス」ノ會議以

前ニ佛國ハ我國ニ「マロツコ」ノ一部ヲ提供シタリシナラント主張スルモノスラアリキ、然レドモ此ノ如キ考ハ是レ昔譚ノミ假想ノミ、事ノ真相ハ已ニ佛國ハ當時獨逸ト直接ニ默契アリテ此會議ヲ爲シタリシナリ、見ヨ當時獨逸ハ此會議ニ於テ今回ノ形式的ナル「マロツコ」ノ獨立竝不可侵ノ宣言及佛國ノ目的ヲ不定時迄延期スルコトヲ豫見シタルニアラズヤ、佛國ノ我國ニ爲スベキ提供ハ之ヲ「マロツコ」ニ於テセズシテ當時已ニ中部亞弗利加ニ於テ爲スコトニ定マリタリシナリ問者或ハ何ガ故ニ我國ハ一九一一年ノ協約ヲ「アルゲシラス」條約以前ニ締結セズシテ今日ニ追ヒ爲メニ其後ノ「マロツコ」トノ商業交通ノ發達ヲ停メタリヤト詰ラバ吾人ノ之ニ對スル答辯ハ至テ簡單ナリ、曰ク、其後土國ニ於テ「アルゲシラス」及「アガチール」ノ間ニ事情ノ變化アリ、此變化ガ土耳其人ヲ強制シテ吾人ノ要望ヲ容易ニ達スルコトヲ得セシメタルガ故ナリト、此點ニツキテハ此以上詳細ナル説明ヲ必要トセザルベシ、而テ吾人ハ其後「ボスボラス」ニ於テ該變更ニヨリテ獨立「マロツコ」ノ爲メニ立入ルベキ、政事上ノ難問題ヲ幾分カ免レ得タリ、於是吾人ハ我國ノ利益ヲ保持スルガ爲メニ「マロツコ」ヲ其保護國タラシメントスル佛國ノ希望ヲ利用セルハ蓋シ當然ナルヲ知ル、若シ我國ノ利益ヲ確保スルニ全然南「マロツコ」ヲ占領セザルベカラズトナスモノアラバ、是レ政治上ノ洞見力ヲ缺如セル妄論ナランノミ、假リニ南「マロツコ」ヲ獨逸ガ占領シタリトセバ其影響果シテ如何先ヅ佛國ニトリテハ、獨逸ト交戦ノ場合ニ於テ獨逸ハ摩國ヨリ武器軍資金及將校ヲ回々教徒タル土人ニ供給シ得ベキヲ以テ全佛領北阿弗利加ヲ紛

碎セラル、危険アリ、次ニ英國ニトリテモ亦南米ヨリ食料品ノ輸入ヲ杜絶セラル、危険アリ、而シテ「アルゲンチン」ヨリ肉類及穀物ヲ搭載シタル船舶ノ航路ハ「アガデー」ニ接シテ通セルヲ以テ獨逸ガ此所ニ自國海軍ノ碇泊地ヲ作ラザルヲ保障スル旨ヲ如何ニ固ク聲言スルトモ、英國ハ決シテ之ニ信ヲ措ク能ハザルベシ、畢竟スルニ獨逸ハ則チ豫定ノ如ク行動シ、單ニ自己ト反對ノ利害ヲ有スル佛國及英國ノ致命ヲ冷然武裝セル手ヲ以テ抑壓シ去ルベキノミトナラン、又斯ル場合ニ到ラバ獨逸ハ全部「マロツコ」ヲ奪ヒ取り、其上更ニ獨逸ノ利用シ得ベキ二三ノ土地ヲ英國領及佛國領ヨリ取ルヲハ猶一層容易ノ業トナラン、噫如何ナル獨逸ノ愛國者ガ「マロツコ」商業ノ動機ヨリ世界ノ大禍亂ヲ惹キ起スベキ絶大ナル責任ヲ眞面目ニ招致シ得ルヤ、戰亂ヲ起スハ萬止ムヲ得ザル場合ニ限ル、而シテ其時初メテ吾人ハ決然トシテ蹶起スベク又蹶起セザルベカラザルノミ、然レドモ戰亂ノ避クベカザルガ如キ場合ハ「マロツコ」問題ニ關シテハ存スルコトナカリキ、假リニ若シ獨逸ガソレニモ係ラズ強テ戰爭ヲナサント欲シタリトセヨ、是レ獨逸ノ大軍艦ガ北東海ノ運河ヲ利用シ得、「ヘルゴランド」ノ要砦ガ竣成シ而シテ「バグダッド」鐵道ノ尖端ガ「アレツボ」ニ達シ、其所ヨリ、「ダマスカス」鐵道及「メツカ」鐵道ノ補助ヲ以テ土耳其ノ誘撃軍ガ英國ニ對シテ埃及ノ方向ニ向テ侵入シ得ルニ至ルニ先立ツト二年ナリシヲ想ハザルベカラズ、果シテ然ラバ是レ無謀モ亦甚シト謂ハザルベカラズ、凡テ此等ノ事情ハ僅少時日ヲ經過セバ今日ヨリモ遙ニ獨逸ニ好都合トナルベク其時ニ及テ戰ヲ交ユルモ決シテ遲シトナサ

ザルナリ、斯ノ如ク前述ノモノ及猶二三ノ他ノ切リ札(骨牌)ガ吾人ノ手中ニ缺ケ居ル間ニ勝負ヲ争ヒ初ムルハ却テ敵國ニ満足ヲ與フルニ過ギズシテ吾人ノ敢テナサザル所ナリ。

佛國ハ摩國ヲ其保護國トナスニ付キ獨逸ノ同意ヲ得ントシテ三重ノ代價ヲ支拂ヒタリ、第一ニ、佛國ハ可及的外國人ヲ排斥セムトスル其殖民地經濟政策ヲ「マロツコ」ニモ及スヲ拋棄シタリ 第二ニ佛國ハ其「コンゴ」殖民地ノ二七五、〇〇〇方基米突ヲ獨逸ニ讓與シタリ、我國ハ之ニ對シテカメルンノ一二、〇〇〇方基米突ヲ佛國ニ讓與シタリ、此獨逸ノ獲得シタル土地ノ中ニハ良好ナル土地モ價值少キ土地モ混入シ居レリ、然レドモ此獲得地ヲ無價值ナリト云フハ之レ單ニ先入ノ妄斷ニシテ我國ニ割讓セラレタル地方ガ不良ノ土地ナリト云フ眞實又ハ自稱佛國通ノ言ガ世人ニ斯ル妄見ヲ抱カシメタルノミ、佛國人ハ彼等ガ已ニ爲シタル仕事ノ價ヲ甚ダシク下落セシメザランコトヲ欲シ其悽惻ト愛國心トヨリシテ巧ニ言説ヲナスモ之ニ反シテ我獨逸人ニ於テハ新聞雜誌及輿論ハ出來ザル限リ外交事件ニ關シテハ政府ヲ無知ナルモノトシ果サバ止マザル見地ナルガ如シ、最後ニ第三ノ代價ハ阿弗利加ニ於テ歐洲諸強國ノ將來ノ占領地整理ノ端ヲ開カシムルノ希望ナリ、而シテ之ヲ理由トシテ「マロツコ、コンゴ」協約ヲ全然非難スルハ誤ナリトス。

將來新「アフリカ」時代ナルモノガ一九一一年ヨリ開始ストセラル、ヤモマタ知ルベカラズ、吾人ガ斯ノ如キ言ヲ爲ス所以ハ獨佛條約ノ結果比較的些々タル領土ノ擴張ヲ指シテ云フニアラズ又條約ニ附隨

シテ獨逸ノ爲メニ「スバニツシ、ギネア」及「フェルナンドオ、ボー」獲得ノ緒ヲ開クガ如キ猶一層狭小ナル直接ノ希望ヲ指シテ云フニアラズ、吾人ノ着眼スル所ハ實ニ獨英佛ノ三國ガ互ニ妥協シテ殖民地ノ現状ヲ全然一變セシメンコトノ必然的ニシテ重大且ツ一般的ナル希望ニ在リ、英國側ニ於テハ已ニ此ノ如キ希望アリ而テ獨逸ハ自ラ進デ英國自身ノ費用ヲ以テ又ハ英國ノ補助ノ形式ノ下ニ葡萄牙ノ占有地ヲ買潰スノ交渉ヲナサント欲スルコトハ此間ノ事情ニ精通シタル者ニハ決シテ秘密ノコトニアラズ、唯獨逸ガ英國ノ期待スル代償物ヲ出シ得ベシト考フルヤ否ヤガ問題ノミ、如何ナル方向ニ英國ノ希望ニ從テ動クベキヤハ阿弗利加ノ地圖ノ一瞥及「セシル、ローズ」ガ「ウイエルヘルム」二世陛下ニ謁見以來ノ「カイロ」岬計畫ノ沿革ヲ見バ即チ明ナラン、更ニ佛國ニ付テ見ルニ多ク世人ノ注意ヲ引キ且ツ迂餘曲折シテ説明セラレタル佛國首相ノ議會ニ於ケル「マロツコ」ニ關スル條約ノ承認ヲ得ント力メタル演說ニ於テモ亦同様ノ點ニ言及シタリ、即チ「該條約ハ恐クハ阿弗利加ノ土地ニ於テ將來起ルベキ更ニヨリ多クノ變更ノ端ヲ開クモノナラン」ト！然レドモ時機未ダ熟セザル間ハ事ノ性質上詳細ニ之ヲ説明スルコトヲ得ズ、故ニ吾人ハ寧ロ早マリタル説明ニヨリテ將來ヲ推斷スルノ危險ヲ避ケントス、而モ一九一一年ノ殖民政策上ノ事件ニ起因シタル殖民地將來ノ發達ニ關シ、アル程度ノ推測ヲ下スハ此重要ナル事件ヲ一般ニ了解スル一部分ナリト云ヒ得ベカラシ乎「マロツコ」協約ノ締結セラレタル瞬間ニ國務大臣、「フオン、リンデキスト」ノ辭職セルコトハ該協約ヲ以テ獨逸ノ屈從ナリト誤解シタル輿論ノ

狂瀾ヲシテ猶一層澎湃タラシメタリ、リ」氏 辭職ノ動機ハ種々アリシガ如シ、第一ニ同大臣ハ稍關係ヲ有セル汎獨逸論者ノ一派ニ於テ不人望トナリタリ然ドモ之ノミヲ以テ辭職セルコトハナカルベシ、第二ノ理由ハ疑モナク外務省ガ佛國トノ商議ニ於テ拓殖務行政ヲ度外シタル侮蔑ナルベシ、拓殖務省ヲ輕視セルコトハ夙ニ早キ以前ヨリ外務省ノ意見ガ佛國ト談判ノ際佛國ノ「コンゴオ」殖民地ノ一部ヲ「カメルン」ニ代ヘテ獲得スルコトヲカムルヲ可トセルニアリシニ徴シテモ明カニ瞥見スベシ、此他外務省ハ初メハ拓殖務省ニ報告ヲ請ヒタレドモ拓殖務省ヨリハ一モ特別ナル材料ヲ得ルコト能ハザリキ、然ルニモ係ラズ明々白々ニシテ且ツ幾分カ尤モナル不人望ヲ避クルガ爲メニ何等ノ方式ヲモ講ゼザリシヲ遺憾トス、併シ乍ラ毎々辭職センカセザランカト惑ヒタル、「リンデキスト」氏ハ確カニ自ラ充分ノ價値ナシト思料セル獲得地ニ對シ之ニ必要ナル行政費及開發ニツキ議會ノ承認ヲ得ルコトハ、成功シ難カルベキコトヲ憂慮シタリ、「リ」氏ノ辭職ト同時ニ表面上マタ獨逸ノ拓殖ニ新時期ヲ畫シタリ。

我國殖民政策ノ發展ニツキテハ今迄ニ四期ヲ畫シ得ベシ、第一期ハ阿弗利加及南洋ニ獨逸ノ旗ガ翻ヘレル時ヨリ一九〇〇年殖民大臣「ドクトル、ステユベル」氏ノ就任マデノ間ナリ、此期ノ特色ハ我國ノ輿論ガ殖民地ニ對シテ甚シキ冷淡ナルト共ニ本國ニ於ケル主ナル當局者モ亦甚ダシク無能力ナリシ事是ナリ、第二期ニ於テ「ステユベル」氏ハ從前ノ前任者ヨリモ後任者ヨリモ長ク五年間殖民地ヲ統轄シタリ、氏ノ時代ニ至リ始メテ國民的並ニ經濟的ノ必要ニ對シテ殖民地ノ重要ナルコト了解セラレ從テ殖民

地ニ資本ヲ注入セシムルニ付キテ必要ナル鐵道布設及移民問題ニツキ將來ノ成功ノ大半ハ此時代ニ其基礎ヲ置キタリ、然レドモ内益々増加スル國民中ノ誤解及阿利弗加ニ於ケル反抗トガ功績アル氏ニソノ功績ヲ認識セラル、ノ幸福ヲ失ハシメタリ、第三期ニ入り「デルンブルヒ」氏ハ更ニ大規模ニ拓殖ノ利益ヲ獎勵シ議會及新聞雜誌ヲ鞭撻シ引續キテ殖民地ニ人氣ヲ集中スル方法ヲ會得シタリ、之ヲ以テ決シテ其將來ノ發展ヲ計ルニツキテ從前ノ如ク資本ノ缺乏ニ苦ムコトナカリキ、然レドモ氏ハ殖民政策ニ於ケル國民主義ノ明白ニ國民ヲシテ之ヲ自覺セシムルコトヲ努メ且ツ海外ニ於ケル白人ト協力ノ能力或ハ意思ヲ缺キタリ「デ」氏ノ辭職ト同時ニ第三拓殖期ハ終了シタリ、第四期ニ於テハ一九一〇年五月ヨリ一九一一年ノ十一月迄一箇年半在職シタル「デ」氏ノ後任者「フオン、リンデキスト」氏ノ業績ニツキテ之ヲ述ベザルベカラズ、「リ」氏ハ當初ヨリ拓殖國民的ノ必要ヲ十分ニ力言スルナラント一般ニ期待セラレ、南西阿及東阿ニ於ケル白人就中本來ノ移民タル農夫及栽培者ハ拓殖務省ニテハ爾後移民問題ノ取扱ニツキテ根本的ノ變更ヲ加フルナラントテ氏ノ行政ニ多大ニ望ヲ囑シテハラ歡迎シタリ。

先ヅ東阿ニ付テ述ベンニ知事「フライヘルフオン、レツヘンベルヒ」氏ハ大體ニ於テ其從來ノ主義ヲ改メザリキ、此知事ハ移民ノ事項ニ關シテハ少クトモ消極的懷疑的ノ意見ヲ抱懷シ又自治問題ニツキテハ原則トシテ白人ノ凡テノ希望ヲ顧ミザリキ、海岸ニ於ケル大地方ニ幾分カ自治體類似ノ組織ヲ施行セント試ミタレドモ、人民ハ純然タル假想的計畫ニタヅサハルコトヲ拒絶シタルヲ以テソノ計畫破毀セラレタリ斯ノ如キ計畫ハ東阿ニ於ケル意見ノ衝突ヲ除外シテ之ヲ公平ナル批判ヨリ見ルモ人民ヲシテ自治ノ觀念ノ實現ニ一歩近カシムルノ外觀ノ下ニ實際ニ於テハ自治ノ觀念ヲ排除セシムルガ如キ印象ヲ彼等ニ與ヘタルニ相違ナシ、労働者問題ノ經過ハ左迄惡シカラザリキ「契約労働者」ヲ相當ニ待遇スル耕地ニ在リテハ労働者ニツキテ直接ノ不足ヲ聞カザリキ、然レドモ底止スルコトヲ知ラザル労働者ノ騰貴ハ經濟上ノ憂患タリ、供給ニ對シテ需用ノ過大ナルニ因リ労働者ハ直接危懼スベキ程度ニ昂騰シタリ、而シテ「レツヘンベルヒ」氏ノ下ニ立テル官廳ハ耕地地方ニ於ケル黑人ノ労働者ガ不當ニ多大ナル所得ヲ有スルニモ拘ラズ土人稅ヲ相當ニ引上グルコトヲ決定シ得ザリシハ甚ダ歎ズベシ。

知事ノ土人政策ニ關スル直接ニ危險ナル處置ハ一九〇五年ニ於ケル土人ノ大叛亂ニ當リ、此一役ニ火藥ノ密輸ヲナシタル多數ノ印度人ヲ恩赦シタルコト是ナリ、言フ迄モナク此ノ如キ叛逆人ハ軍事裁判ニ附シテ絞首スルガ當然ナリ、然ルニ宋襄ノ仁ヨリ唯彼等ヲ長期ノ禁獄ニ處シタル後一九一一年獨皇帝誕辰ノ日ニ恩赦シタリ、是レソノ結果ヨリ見レバ恰モ彼等土人間ニ次ノ機會ニ於テ更ニ同様ノコトヲ敢テセンコトヲ獎勵スルニ等シカルベシ、若シ刑罰ガ三四年ノ禁獄以下ニ止ルコトヲ豫想セバ印度人ハ前後ノ考ナク輕々ニ彈藥密輸入ノ如キ甚大ノ利得アル仕事ヲ敢テスルナラン、反之栽培者ノ多クノ者ガ豫期シタルヨリハ栽培地々方ニ於テ地方事務官ヲ設置シタルコトガ好果ヲ見ハシタルガ如シ、此事務官ハ

白人ノ雇主ト黒人ノ勞働者トノ間ノ關係ヲ整理スベキ職務ヲ有ス而シテ彼等ハ直チニ土人ノ辯護人トナルコトヲ恐レラレタリ一九一〇年ノ官ノ年報ガ東阿ニ於ケル勞働者事情ニ關スル章ニ於テ、栽培者ニ對シ驚クベク不親切ナル記事ヲ掲ゲタレドモ、栽培者側ヨリ特ニ地方事務官ニ關シテ何等公ニ抗議ヲナサマリキ、從テ同事務官ハ公平ニ職務ヲ執レルガ如キ外觀ヲ呈セリ、「リンデキスト」氏ハ曾テ一九〇八年九年次官トシテ、東阿弗利加ヲ詳細ニ旅行視察シタル後拓殖務省ニ報告ヲナシタルコトアリ大臣ニ就任後一度ハ大報告ヲ世ニ出スナラント期待セラル、ニモ拘ラズ今ニ於テ何等之ニ關スル消息ナキハ驚歎スベシ、世人ハ當時大臣ノ東阿ニ就キテ得タル印象ハ甚ダ良好ニシテ殊ニ東阿運河ノ西側ニ於ケル北方ノ和蘭人ニ對シテ其移民能力ヲ賞揚シタリシヲ知ル、然レドモ氏ハ其在職中東阿ニ於ケル拓殖問題ニ對シ政府ガ一層積極的施設ヲ爲スベキコト一言モ及バザリシナリ、但シ「リンデキスト」氏ハ其旅行中氏ニ特有ナル根本的ニシテ且ツ精勵ナル視察ヲ爲シ而シテ東阿ニ在リテスラ數回繰返シテ北方ニ於ケル牧場草原ガ經濟上價值ナシテ考ノ誤謬ヲ指摘シタルコトハ聊カ例外トスベシ、東阿人ノ古老中ニハ近來迄此ノ如キ考ヲ有セルモノアリキ、而シテ南阿ノ事情ヲ見慣レタル者ノ眼ニハ、最モ危惧セラレタル水ノ缺乏モ大體ニ於テ南西阿ニ於ケルヨリハ甚シカラズ且ツ低地ヨリ汲上グルニモ容易ナルベキコト及牧場ノ性質ハ南阿ノ牧場ヨリモ大ニ優レルコトヲ認ムルナラン。

南西阿弗利加ニ於テハ新大臣ノ施設ハ大ニ繼續的好成績ヲ收メ始メタリ、即チ稍遲延ノ嫌アリシトハ

云へ、目下ノ所十分ニ自治活動ノ發達ノ當初ニ於テ必要缺クベカラザル土地及其他ノモノヲ自治體ニ供與シタリ拓殖務省ハ「ビユッケンブルヒ」ノ市長、「ドクトル、キユルツ」氏ガ政府ノ囑託トシテ南西阿弗利加ニ於テ自治體ノ設立ニ從事セル當時ノ設計ヲ其儘襲用スルコト能ハズト考ヘタルガ如シ、「ドクトル、キユルツ」氏ハ全然南西阿弗利加ノ人々ト妥協シテ仕事ヲ爲シタリ而シテ氏ノ此地方ニ滯在中政府ハ氏ノ當時立テタル計畫ヲ唯責任ナキ資料ト認メント欲シタルニ過ギザルガ如シ、然レドモ南西阿ノ人々ハ「デルンブルヒ」氏ノ下ニ曾テ財政上ノ都合ニヨリ其額ニ過ギザル附與金ヲスラ全然拒マレタルニ、今ヤ少クトモ自治體ニ對シテ十分ナル生存條件ガ確保セラレタルヲ喜ビタリ。

自治主義ノ發達ノ爲メニハ南西阿佛利加ニ於ケル自治制ノ實施モ亦甚ダ必要ナリト雖モ是レ未ダ以テ殖民地ノ本來ノ死活問題ト見ルベカラズ、本來ノ死活問題ハ實ニ懸リテ農園經濟ノ確立ニ在リ、茲ニ農園經濟ノ確定ト云フモ吾人ハ強チ南西阿ノ農園狀態ガ大體ニ於テ不健全ナリト云フニアラズ、即チ經濟ノ基礎ヲ立ツル困難ニ打勝チテ強大ナル發達ヲ爲サントシツ、アル企業モ亦少キニアラズ、然レドモ大多數ノモノハ然ルコト能ハズ、此等ノ企業ハ數年前ヨリ相當ノ資本ヲ以テ創始セラレ今ヤ其經濟上ノ狀況ハ南阿弗利加ノ如キ事情ノ下ニ在ル凡テノ農園ガ一度ハ經過セザルヲ得ザル困難ナル階段ニ在リ、斯ル困難ナル時代ニ於テハ牧畜ノ收入ノ如キモ設備ノ欠缺又ハ經營方法ノ不當ニ基カズシテ尙未ダ業務ノ費用及所有主ノ生活費ヲ償フニ足ラザルヲ常トス、南西阿ニ於テモ現在見得ルガ如キ憐レ

ナル牧畜業ニ於テハ一年間ノ支出ハ收入ヨリモ多ク從テ初メ買入レタル種群ガ非常ニ増加シタルトキニ至リテ始メテ相當ノ利廻リヲ得ザルニ至ルベキハ當然ノコトナリトス、南西阿ニ於テハ農園ノ堪ヘ得ル限リノ巨額ノ營業資本ヲ直ニ投下シテ家畜全部ヲ當初ニ買入ル、ハ經濟上合理的ニアラズ、又實際上實行シ得ベカラザルヲ以テ、時日ノ經過ト共ニ必然信用ノ缺乏ヲ來スコトヲ免ル、能ハズ、南西阿ト性質ヲ同クスルモ拓殖ノ能ク永キ繼續ニヨリテ一般ノ經濟狀態一段進步シタル地ニ於テハ（英領南阿弗利加、澳洲等）此等信用ノ問題ハ自ラ容易ニ調整セラル、殊ニ此等ノ地ニ於テハ稠密ナル移住及大ナル資本力ニヨリテ土地ノ價ハ非常ニ騰貴シ居ルヲ常トス、之ニ反シテ南西阿ニ於テハ政府ノ土地ハ甚ダ廉價ニシテ、一「ヘクター」ノ賣價一乃至二麻克ナリ、加之支拂ノ條件好良ナルヲ以テ農業創始ノ際ニ於ケル土地獲得ノ費用ハ左迄大ナルヲ要セズ、然レトモ農作地ヲ有セント欲シテ而モ充分ノ資金ヲ投ジ得ザル者ハ鐵道ノ直接附近カ或ハ大ナル住宅地ノ附近ニ之ヲ求メザルベカラズ此等ノ附近地ニ於テモ農作地タルベキモノニ乏シカラザルヲ以テ容易ニ政府ノ廣大ナル所有地中ヨリ買入ル、ヲ得ベシ、而モ政府ハ代價ノ支拂殘額ニ付キ第一次ノ抵當權ヲ其農地ノ上ニ設定セシムルヲ以テ、ソレ迄ハ實ニ全然荒地タリシモノ、上ニ新タニ價值ヲ生ゼシメザルベカラザルヲ以テ幼穉ナル農夫ニ對シテハ其所有地ヲ對物信用ノ基礎ニ利用スルコトヲ不可能ナラシム、農業ヲ最早舊式ノ「ホツテントット」若ハ「ヘロス」人ノ方法ノ如クナラズシテ合理的原則ニ依リテ營マント欲セバ、農園ノ各所ニ

井泉及灌溉裝置ヲ設ケザルベカラズ、先ツ少クトモ一部ヅツニテモ、籬籬ヲ繞ラシ園圃の作物ノ爲メニ灌溉裝置ヲ設ケザルベカラズ、是皆凡テ金錢ヲ必要トス、中程ノ大サヲ有スル一箇ノ坡堤ハ普通ノ坡堤トシテモ五、〇〇〇麻克以下ニテ之ヲ作ルコト能ハズ、若シ之レガ墻壁ヲ積ミテ作ラント欲セバ猶數倍ノ費用ヲ要ス、風力機或ハ其他ノ揚水機ハ夫々相當ノ費用ヲ要シ加之農夫ハ衣食、勞銀、家屋建築、其他ノ費用ヲ負擔セザルベカラズ、農地ガ建造物、坡堤、井泉、唧筒及灌溉裝置ヲ以テ初メテ設備セラレタルトキハ、南西阿ニ於テモ勿論實際ニ事業ヲ營ムコトヲ得ベキ良好ナル仕掛トナル、蓋シ新渡來者中ニモ亦此ノ如キ設備ヲ當初ヨリ据付ケ以テ直チニ着手シ得ベキ農園ヲ設置スルニ足ル資本ヲ擁セル者ナキニ非ズ、斯クシテ農業ヲ經營セント欲セバ農民ハ或ハ之ニ當初ヨリ鉅額ノ資本ヲ投ズルカ或ハ所謂改良信用ヲ必要トス、若シ此ノ如クシテ多額ノ資金ヲ要スル農業ノ設備ヲ直チニ調フルニ足ル丈ケノ資本ヲ有セザル者ハ全然南西阿ニ在住スベカラズテフ簡單ノ見地ヲ探ラント欲セバ、殖民地ヨリ價值アル移民ヲ排斥セザルベカラザルコト、ナルベシ、サナクトモ家畜ノ購入農具及簡單ナル家屋、庭園、井戸等ノ裝置ノミニツキテモ約二五、〇〇〇麻克ノ最低資本ヲ要スルコトハ已ニ歎ズベキコトニ屬ス、何トナレバ我獨逸ニ於テハ斯ノ如キ資金ヲ有セザルモ我海外ノ獨逸領ニ對シ優秀ナル殖民ヲ供給スルニ足ル多數ノ強壯ナル青年存スルヲ以テナリ！南西阿ノ移住ニ對シ、如何ニシテモ缺ク能ハザル資金ノ限界ヲ、今ヨリモ高クセリ上グルコトハ即チ是レ全然富者ノミ彼ノ地ノ農夫タリ

得ベシト云フニ異ラズ。

實際ノ事情上當然ニシテ且ツ最近諸年ニ於ケル經驗上明白ニ確メラレタル如クンバ、南西阿ニ於テ農業改良信用ヲ授與スル機關タルベキ銀行ノ設立ヲ私人ノ資本金ニ勸誘スルコトハ不可能ナリ、何トナレバ南西阿ニ於テハ私人ノ收益業ニ付テハ何人ト雖モ充分ナル擔保ナクシテハ資金ヲ貸與セザルベケレバナリ、然レドモ擔保タルベキモノ即チ農園ニ於ケル不動産ノ價值、農事ノ改良ハ農夫ガ之ニ要スル資本ヲ前拂シテ後初メテ得ラルベキモノタリ、故ニ之ニ付キテハ國家ノ資金ニ依ル信用ノ授與以外ニ道ナキコト明白ナリ、殖民地ノ農業ヲ發達セシメント欲セバ之ニ資金ヲ投ゼザルベカラズ即チ英國ノ「ケーブコロニー」ニ於テ爲シタルガ如ク、移住者ニ彼自ラガ改良ノ目的ニ使用シ得ル丈ケノ金額ヲ政府ノ補助基金ヨリ附與スルコトトシ、而シテ設備ノ進ムニ從ヒ其金額ノ一部分宛テ前拂ノ方法ニ依リ與フルコト、スルカ或ハ其他ノ實行セラルベキ方法ニ於テ資金ヲ投ゼザルベカラズ、政府ガ資金ヲ出セバトテ必要ノ擔保權ヲ放棄シタルニ非レバ事ノ實行ハ簡單ナラズ、然レドモ此手數ニ打勝チ難キモノニアラズ、土地信用ノ組織ニ於テ農業者ヲ補助セザルベカラザルコトハ凡テノ殖民地農業ヲ實際ニ營ム者ノ皆等シク當然了解スル所ナリ、然ルニ彼ノ南西阿ニ於テ利害關係ヲ有セル者ガ一ハ箇人的ノ競争心ニヨリ一ハ彼等ノ經驗ニ乏シキガ爲メニ、困難ナル農業組織ノ問題ニ關シ、箇々ノ點ニツキテ妥協シ能ハズトモ是レヲ以テ緊急事ヲ其儘ニ抛擲シ置ク理由ト爲スコトヲ得ザルナリ。

「フォン、リンデキスト」其職ヲ退クニ當リ其行政ニツキテ何等決斷モ創見ヲモ示サザリシテ幾分カ峻酷且ツ無作法ニ非難セラレタリ、此非難ハ前ニ述ベタルガ如ク南西阿ノ地方團體ニ對スル同氏ノ施設ニ就キテハ當ラズ、然レドモ農業信用問題ニツキテハアル程度マデ非難ヲ理由ナシトセズ、「好意ヲ以テセル考慮」調査及商議、果シテ何ヲカナサン、問題ハ之ニヨリテ何等必要ニ應ズル裁決ヲ得ザルナリ、新大臣「ドクトル、ゾオル」氏ハ正鴻ヲ得ル施設ヲナサンコトヲ決意シタリ、即チ氏ハ第一ニ南西阿ニ於ケル農業ノ土地信用ニ對シテ一年度ノ金額ヲ豫算ニ組入レ而シテ地方政廳ヲシテ可及的人民ノ代表者ト妥協シテ信用制度ノ設立ニツキテ特定ノ提案ヲナサシムルコト、ナシタリ、此ノ如クシテ著著歩ヲ進ムルナラン、若シ南西阿ノ經濟活動ノ最モ重要ナルモノハ、農園經濟ナリトカ、其利害ハ最モ注意ヲ要ストカ云フガ如キ單純ナル空論ハ之ニツキテ實行ノ手段方法ヲ講ズルコトナクンバ、何等殖民地人民ニ寄與スル所ナカルベシ。

「リンデキスト氏」ノ治下ニ於ケル金剛石問題ニツキテモ亦同様ナリキ、直接ニ且ツ洞見シ易キ必要目前ニ横ハレドモ拓殖務省ハ何等ノ裁定ヲモ與フルニ至ラザリキ、南西阿産金剛石ノ專賣ヲ「デルンブルヒ」氏ヨリ引受ケタル伯林ノ「レギー」組合ニ於テ管理側ノ人々ノ無能ガ明白トナリ、「リュエドリツツ」灣ニ於ケル利害關係人ヨリ毎々苦情ヲ申出デタレドモ、拓殖務省ハ何等「レギー」ニ對シテ積極的ノ干渉ヲ試ミタルコトナク、益々下落ニ下落ヲ重ネタル金剛石ノ價格ヲ引上グコトヲ講ゼズ却テ苦情ヲ唱フ

ル者ニ對シテ其訴フル所理由ヲ缺クコトヲ明カニ會得セシメントシタリ、然レドモ是レ全然實際ニ反セルコトハ拓殖務省ノ新首長ガ自ラ彼ノ商務官ト共ニ販路改善ノ可能ニ付キ探知スル爲メ「ロンドン」、「アントワープ」、「バナウ」、「イダーレ」等ニ赴キ、而シテ其干涉ニヨリテ漸ク好結果ヲ收メ得タルノ事實ニ依リ今ヤ明白トナレリ、「ダイヤモンド」問題ノ内部ニ於ケル最大ノ弊害ハ「レギー」ノ行動ニアラズシテ寧ロ課稅方法ノ宜キヲ失シタルニ在リ、「デルンブルヒ」氏ノ下ニテハ、金剛石ノ總賣價ヲ標準トシテ課稅スルコト、シタリ、即チ「レギー」ガ定メタル賣價ノ三分一ノ額ニ當ル輸出稅ヲ徵收シタリ、其他同様ニ總價額ニツキテ徵收セラル、國ノ租稅及會社稅ヲ之ニ合算スレバ、「ダイヤモンド」生産ノ負擔額ハ「レギー」ガ一九一〇年一一年ニ取得スルコトヲ得タル賣價ノ平均約五〇「パーセント」ニ上リタリ、茲ニ一九一一年ノ末頃迄ハ見込ミタル價額ハ引續キテ下落シメルコトヲ注意セザルベカラズ、已ニ課稅法ヲ規定スル際ニ若シ採掘ニ就キテ生産費ガ非常ニ増加スルトキハ稅率ヲ引下グルコトヲ見越シタリ、生産費ノ増加ハ實ニ非常ノ程度ニ於テ一九〇年中ニ實際生ジタリ、而シテ終ニハ富有ナル大會社ノミガ猶採掘ヲ繼續シ得ルニ至レリ、——一時ニ「ダイヤモンド」ガ南西「アフリカ」ニ絶エタル如クナレルニアラズシテ、其實益々採掘費ガ増大シ、總價額ニ對スル課稅ガ賣得金ヨリ稅金ヲ控除シタル殘餘ヲ耗盡シタルヲ以テ甚シキニ至リテハ遠隔ナル採掘場又ハ「ダイヤモンド」ヲ含ムコト少キカ或ハ其他ノ不便ナル採取狀態ノ下ニ在リテハ直接ノ損失ヲ招キタリ、此結果ハ當然生産額ノ減少ニ於

テ見ハレタルノミナラズ又「ダイヤモンド」ノ收入ガ其大部分ヲ占ムル南西阿會計ノ大缺損ニ於テ見ハレタリ、此會計ニ大缺損ヲ生ゼシメタル原因ハ南西阿ヨリ當初「レギー」ノ營業方法ニ對シ苦情ヲ訴ヘタル際及總價課稅主義ヲ純益課稅主義ニ改メラレ度シテフコトヲ請求スルニ際シ極力援引シテ以テ主張シタルモ容レラザリシ所ナリ、拓殖務省ノ職員等ハ「ダイヤモンド」生産者ノ利害ノミニ止ラズ同時ニ國家ノ收入ヲ直接ニ危殆ナラシムル虞アル此問題ニツキテスラモ、解シ難キ遲緩ヲ以テ働ケリ、畢竟スルニ殆ド働カザリシナリ、新大臣ガ就任スルヤ否ヤ又此點ニツキテモ進捗ヲ示シタリ、短時間ノ中ニ新租稅主義ノ草案脱稿シタリ、此草案ハ目下猶大藏省ト南西阿拓殖會社トノ交渉纏マルニ至ラズ、然レドモ此草案ハ要スルニ一種特別ノ性質ヲ有スル南西阿「ダイヤモンド」採掘ノ必要ニ關スル洞察ヨリ生ジタルモノナリ、改正新主義ノ立案ガ主トシテ南西阿ノ行政及財政ニ對シ及一般礦業ニ對シテ拓殖務省ノ商務官(報告官)ノ功績ヲ示スナラント想像スルモ強チ當ラザルニアラズ、然レドモ最良ノ意見ト雖モ、若シ決裁ヲ與フル者ニ理會ノ迅速ト判斷ノ敏速ト確實トヲ缺カバ最良ノ仕事ヲナシ遂グルコト能ハザルベシ、大藏省及拓殖會社トノ交渉ニ於テ豫想セザル障礙現ハレザル場合ニ於テハ、凡テノ正常ノ場合ニ存立スルコトヲ得ル「ダイヤモンド」業ハ今後又其採掘ニ於テ收支相償フニ至ルベキコト及從來營業ノ困難ナリシ會社ノ利益ハ再ビ高メラル、ニ至ルベキヲ豫想シ得ベシ、獨逸拓殖會社モ亦其公共ノ利益ノ爲メニナシ來リタル許容ニ對シ將來會社ニ流入スル賦課金ノ絶對ノ増加及永

續ニヨリテ損害ヲ償フテ餘アラン。

已ニ述ベタルガ如ク其責ノ大半ハ之レヲ拓殖務省ノ不決斷ニ歸スベキ「ダイヤモンド」收入ノ減少ト創始後日尙ホ淺キ大多數ノ農業者ノ苦境トハ、若シ本報告年度内ニ施行中ノ鐵道工事ニヨリテ巨額ノ金ガ殖民地ヲ潤スコトナカリシナラバ、南西阿ノ一般ノ情況ニ對シ猶一層甚シキ慘狀ヲ及ボシタルナラン、然レドモ此等ノ大事業ハ今ヤ將ニ終ヲ告ゲントシ同時ニ農業用家畜ノ増加ニ伴ヒ且ツ從來鐵道労働者ニ對シテ肉ノ供給ノ多カリシニヨリテ保タレタル家畜ノ價ガ下落スル時節ハ今ヤ間モナク來ルナラント想像セザルベカラズ、南西阿ハ内地ノ消費ニヨリテ消費セラレ得ルヨリモ多クノ家畜ガ生産セラル、而モ生産シタル肉ヲ輸出シテ世界ノ市場ニ販路ヲ求ムルニハ猶暫時ノ過渡期ヲ經ルヲ免レザルベシ、而シテ新ナル且ツ豫期セザル礦物發見ニヨリテ再ビ内地市場ノ繁榮ヲ見ルコトナクンバ、已ニ是ガ爲メニ本年ニ於テ現ハレタル大多數ノ農民ニ對スル信用ノ欠缺ハ一層劇甚ナルモノアラントス、然レドモ移民ニツキテハ大體ニ於テヨリ進歩セリト丈ケハ云フヲ得ベシ、農園業ノ數ハ一年間ニ一五〇丈ケ増加シタリ、土人ノ一揆後ノ初ノ間ハ政府ハ無資力ナル購買者ニ「クロインランド」ヲ甚ダ輕卒ニ且ツ無暴ニ賣渡シタリ、此等ノ購買者ハ間モナク倒レ或ハ其利用ヲ徒ニ遲引シタルガ之ニ對スル政府ノ責任ハ免ル、コト能ハザルナリ、然レモ最初ノ時ト反對ニ今ヤ大體ニ於テ新シキ農場ノ平均ノ投資額ハ年々増加シ而シテ益々確實ニ新タニ渡來スル農民ノ社會上ノ地位ハ高上シツ、アリト云フコトヲ得

ベシ、以前ハ移住者ノ大多數ノモノハ元ノ守備兵鐵道員及其他ノ單純ナル人々ヨリ成リタレドモ今日ハ例ヘバ「オカハンチア」ノ農園地ノ如キハ洒落^{パロニヤストリヤ}レテ男爵地ト呼バル、位ナリ。

本來ハ全ク南西阿ガ我國ノ高キ階級者ノ殖民領域トナルコトハ望マシキコトニアラザルベシト雖モ、又社會的關係上移民分子ノ健全ナル混合ハ有利ナルベシ、是ヨリモ猶重要ナルコトハ勿論各農園ノ坪數ノ測定ガ小ニ過ギザルコトハ官廳側立場ヨリ見テ其最モ大切ノ責務ナリ、「レオン、シユツクマン」氏ノ後繼者タル知事「サイツ」氏ハ當初ヨリ直チニヨリ大ナル業務資金ヲ有スルコトヲ疏明スル場合ニ於テハ中庸ノ土地ニ於テ五、〇〇〇、ヘクター^{ヘクタール}ヲ標準トセル農園ノ大サノ制限ヲ越エシムル主義ニ傾ケリト稱セラル。

南西阿弗利加ハ今モ猶以前ノ如ク礦山業ニツキテハ唯一ノ重要ナル獨領殖民地ナリ、「ダイヤモンド」探掘ガ一九一〇年以來危急ニ陥レルコトハ已ニ述ベタリ、然レドモ課稅方法ノ合理的變更ニ因リテ探掘ニ對スル新基礎ガ作ラル、ヤ間モナク景氣ハ能ク立直リタルガ如シ、「ツメブ」「オタビ」ノ地方ニ於ケル銅ノ產出ハ一九一〇年ニハ猶少シク増加シタリ、然ルニ一九一一年中ニハ主タル礦山タル「ツメブ」ニ於テ礦石ガ或ル地點ニ於テ影ヲ没シタルヲ以テアル程度ノ沈靜ヲ招キタリ、次ニ又地下ノ礦石ヲ藏セルコトニツキ吉報ノ公ニセラレタルモノアルモ未ダ其真相ヲ詳カニスルニ至ラズ、殖民地ノ西方ノ部分ニ於ケル黃金及錫ノ發見ハソノ存在スル場所ガ探掘スル價値アリヤ否ヤニツキ未ダ全然判斷ヲ

許サズ。

我國ノ他ノ西阿兩殖民地タル「カメルン」及「トウゴウ」ニ於テハ商業ノ非常ニ繁盛ニ赴ケルコト及議會ノ承認ヲ經タル鐵道布設ノ進捗ヲ措キテ他ニ特ニ擧グベキモノナシ、「カメルン」ニ於テハ鐵道ガ、白人ガ恐クハ移住シ得ベキ北西ノ高地、土人ノ土地トシテ比較的發達シタル「アダマウアス」及佛國トノ條約ニヨリテ獨領ニ歸シタル地方ニ於ケル「コンゴ」ノ流域ニ達スル曉ニハ全ク其本來ノ發展時期ニ入ルナルベシ、此新タニ得タル領地ニツキテ今日已ニ之レヲ論ズルハ獲得ガ此報告年度中ニ在ラザルト加之未ダ其地ノ經濟上ノ狀態並將來ノ見込モ詳カナラザルヲ以テ早計ニ失スルナラン。

又南洋地方ハ已ニ一九一一年ノ夏起リタル「カロリネン」島ニ於ケル一揆ヲ除キテハ特ニ擧ゲテ述ブルニ足ルモノナシ、「サモア」ニ於テハ今猶以前ノ如ク同島ノ土人ノ狀態ガ幾分不穩ニ見ユルガ故ニ土人等ガ眞ニヨク政府ノ手中ニ歸服シテ背叛ニヨル不意ノ襲撃ヲ全然ナカラシムルコトヲ得ルヤ否ヤハ疑問ナルガ如シ、最モ困難ナルハ混血兒問題ナリ、何所ニテモ同ジク、混血兒ハ其父母タル兩種族ヨリ主トシテ缺點ノミヲ遺傳スルモノナルガ此「サモア」島ノ半白人ニ對シテハ政府ニモ又白人ノ一部ニモ種族ニ關スル確乎タル一定ノ意見ヲ缺ケルガ如シ、而シテ混血兒ノ婦女ガ公然ト白人ニ對シテ敢行スル破廉恥ハ之レニ嚴峻ナル禁制ヲ加フルヲ相當トス、近來白人ト有色人トノ間ノ通婚ハ「サモア」島ニ於テ禁止セラレタルコトハ喜ブベシ、然レドモ是レ第一ニ今少シク禁止ヲ早クスベカリシナルベク

第二ニハ此ノ如キ種族問題ニ於テハ單ニ禁止スルノミニ止メズシテ白人多數ノ意見ナルトキハ南西阿土人ノ一揆後ニ直チニ行ハレシト類似ノ私制裁ヲ附加スルヲ必要トスベシ。

吾人ハ南洋ニ於ケル領地ニ就テハ恐クハ「ノエギネア」ヲ除キテハ一概ニ非常ノ殖的價値ヲ有セリテフ考ヲ抱カザルコトヲ肝要トス、主タル島ニ於ケル獨逸領ノ部分タル「ノエギネア」及「ビスマルク」群島ハ、ナル程其肥沃ナル原始林地ノ廣大ナル面積丈ケハ恰モ和蘭ノ東印度ニ於ケル「スマトラ」島ノ如ク價値ニ富メル熱帶地ナリ、之レニ缺乏セルモノハ勞働者及開發ナリ、然レドモ二者イヅレモ、適當ノ手段ヲ講ズルニ於テハ之ヲ招來スルコト難キニアラザルベシ、之ニ反シテ小島ハ「サモア」モ此中ニアリ、經濟的ニ大ニ發達センニハ土地ノ面積狹少ニ失セリ、例令バ「ナウル」ノ磷酸或ハ「サモア」ノ「カオ」生産地ニ於ケルガ如ク箇々ニツキテハ可ナリノ收益ヲ見ルナランモ獨逸拓殖ノ全體ニ對シテハ唯十分ノ廣袤ナル重點ヲ有スル領域ノミガ眼中ニ置カルベキナリ。

此原則ニ唯一ノ除外例ヲナスモノハ青島ナリ此我國海外占有地中最小ナル土地ガ一九一〇年一年ニハ取引上ノ數字ハ輸出入ニ於テ約一億三千萬麻克ニ達シタリ——若シ之ヲ一九〇〇年一年ニ於ケル取引ノ總價額約二千萬麻克ヲ數ヘタルヲ顧ミレバ確カニ誇稱スルニ足ル發達ト謂フベシ、元來青島ハ之レヲ獲得シタルハ政治上ノ考慮ニ基キタルモ其獲得後直ニ又商業上ノ足溜地トシテ考ヘラレタリ、而シテ此考ヲ實現セシムル爲メ可及的迅速ニ新設港灣ヲ支那ノ海岸ナル丘後ノ地ト連絡スル山東鐵道ガ

布設セラレタリ、之ニヨリテ初メテ輸出及輸入ヲ可能ナラシムルコトヲ得タリ、已ニ其創設後十年ニシテ青島ハ山東半島ノ北岸ニ於テソレ迄其地方ノ唯一ノ開港場ニシテ約四〇年間商業地トシテ過ギ來リタル芝罘ノ貿易ヲ凌駕シタリ、最近ニ至リテ青島ハ舊ニ經濟上ノ關係ニ於テ東亞細亞ニ於ケル獨逸ノ足溜ヲ成セルノミナラズ又今日起リツ、アル支那事情ノ一般的變革ニ對シテ獨逸文明ノ勢力ノ中心トシテ活動シ得ルコトヲ示シタリ、一九一〇年ニ其授業ヲ開始シタル青島ノ獨逸ニ那高等學校ハソノ設置セル最初ノ兩年ニ於テ直チニ可ナリニ繁盛ニ赴キ而シテ今ヤ豫備校ヲ算入シテ三〇〇名以上ノ生徒ヲ有セリ、而シテ一時理事者側ト教職員ノ一部トノ間ノ衝突ノ下ニ行キ惱ミタル組織問題ニ付キテモ困難ヲ感ズルコトナク、且ツ又學校創立ノ際ニ充分ノ科學及獨逸語ノ平準ヲ目的トセル豫備校ヲ之レト同時ニ設立スルノ止ムヲ得ザラシメタル生徒ノ不充分ナル素養ニツキテモ最早困難ヲ感ゼザルニ至レリ。

我國殖民地ノ總商業中一九一〇年ハ實ニ其頂點ニ達セリ、最近至十年間ニ於ケル獨逸殖民地ノ商業統計ヲ比較シテ目前ニ示スモ興味ナキニ非ルベシ、唯膠州ヲ除キ凡テノ殖民地相互ノ總計數字ハ左表ノ如シ。

(單位 百萬 麻 克)

年 次	輸 入	輸 出	計
一九〇〇	四一、一	一七、〇	五八、一
一九〇一	三八、二	一九、四	五七、六
一九〇二	四二、九	二二、一	六五、〇
一九〇三	四一、八	二五、六	六七、四
一九〇四	四六、四	二四、七	七一、二
一九〇五	七一、三	二七、八	九九、二
一九〇六	一一一、九	三一、二	一五三、一
一九〇七	八八、七	四一、二	一二九、九
一九〇八	九一、八	四六、四	一三八、三
一九〇九	一〇七、四	六九、六	一七七、〇
一九一〇	一二九、七	一〇〇、八	二三〇、五

此表ニ於テ一九〇五年及一九〇六年ノ間ノ輸入數字ノ膨大ガ特ニ眼ヲ惹クハ南西阿ニ於ケル軍隊ニ軍需品ヲ輸入シタルニ因ル、ソレニモ拘ラズ吾人ハ總取引ノ益々進歩スル平和的發達ニヨリテ一九〇九年ノ數字ハ已ニ其年ニハ軍事輸送ノ許多ノ分量ヲ包含セル一九〇六年ヨリ高キヲ見ル、即チ一九一〇年ニハ輸出ハ二億萬「麻克」ノ額ヲ超エタリ、吾人ハ膠州ノ取引數字ノ一億三千萬麻克ヲ之ニ加算スレバ三億六千萬麻克強ノ總計額ヲ生ズ、一九〇九年ヨリ一九一〇年迄ニハ阿弗利加及南洋ノ殖民地ノ

取引ノ増加額ハ五千萬麻克ヲ超ユ（二億三千〇五十萬麻克、ニ對スル一億七千七百萬麻克）然ルニ兩年ニ於ケル膠州ニ對スル數字ハ殆ド變化ヲ見ザリキ。

各殖民地ニ付キ一九〇一年乃至一九一〇年ノ發達ノ列序ヲ見ルヲ左ノ如シ。

南 西 阿 弗 利 加 (單位百萬麻克)

年 次	輸 入	輸 出	計
一九〇一	一〇、一	一、二	一一、三
一九〇二	八、六	二、二	一〇、八
一九〇三	八、〇	三、四	一一、四
一九〇四	一〇、一	〇、三	一〇、四
一九〇五	二二、六	〇、二	二三、八
一九〇六	六八、六	〇、四	六九、〇
一九〇七	三二、四	一、六	三四、〇
一九〇八	三三、二	七、八	四一、〇
一九〇九	三四、七	二二、一	五六、八
一九一〇	四四、三	三四、七	七九、〇

茲ニモ亦一九〇五年及一九〇六年ニ於テ軍隊ノ需用品ノ爲メニ輸入増加シ以テ戰爭ノ影響見ハレタリ、又輸出ニ於テハ一九〇八年ヨリ初メテ「ツメブ、オタビ」ノ銅ノ產出、及「ダイヤモンド」ノ發見ノ

影響見ハレタリ、一九一〇年ニ於テハ經濟上ノ進歩殊ニ礦山業ノ結果トシテ七千九百萬麻克ノ總取引高ヲ示シ一九〇六年即チ戰爭ノ年ニ比シ一千萬麻克丈ケ勝レリ而シテ一九〇六年ニ於テハ六千萬麻克以上ノ軍需品ガ南西阿ニ輸入セラレタレドモ輸出ハ殆ド零ナリキ然ルニ一九一〇年ニ於テハ同時ニ輸出ノ價額ガ輸入ノ價額ニ非常ニ接近シタリ。

「カメルン」 (單位百萬麻克)

年 次	輸 入	輸 出	計
一九〇〇	一二、四	五、九	二〇、一
一九〇一	九、四	六、三	一五、七
一九〇二	一三、四	六、七	二〇、一
一九〇三	九、六	七、六	一七、二
一九〇四	九、四	八、〇	一七、四
一九〇五	一三、五	九、三	二二、八
一九〇六	一三、三	九、九	二三、二
一九〇七	一七、三	一五、九	三三、二
一九〇八	一六、八	一二、二	二九、〇
一九〇九	一七、七	一五、七	三三、四
一九一〇	二五、四	一九、九	四五、三

「トウゴオ」

(單位百萬麻克)

二六

年次	輸入	輸出	計
一九〇〇	三、五	三、一	六、六
一九〇一	四、七	三、七	八、四
一九〇二	六、二	四、二	一〇、四
一九〇三	六、一	三、六	九、七
一九〇四	六、九	三、六	一〇、五
一九〇五	七、八	四、〇	一、八
一九〇六	六、四	四、二	一〇、六
一九〇七	六、七	五、九	一二、六
一九〇八	八、五	六、九	一五、四
一九〇九	一一、二	七、四	一八、六
一九一〇	一一、五	七、二	一八、七

東阿弗利加

(單位百萬麻克)

年次	輸入	輸出	計
一九〇二	八、九	五、三	一四、二
一九〇三	一一、二	七、一	一八、三
一九〇四	一四、三	九、〇	二三、三
一九〇五	一七、七	九、九	二七、六
一九〇六	二五、二	一一、〇	三六、二
一九〇七	二三、八	一二、五	三六、三
一九〇八	二五、八	一〇、九	三六、七
一九〇九	三三、九	一三、一	四七、〇
一九一〇	三八、七	二〇、八	五九、五

最後ノ三表中ニ於テ「カメルン」ノ取引高ガ三千三百四十萬麻克ヨリ四千五百三十萬麻克ニ劇増シ而シテ其三分ノ一ハ輸出ノ増加ニ三分ノ二ハ輸入ノ増加ニ當ルコトハ最モ注目ニ値スベシ、輸入中ニハ鐵道用ノ建築材料ガ——東阿南西阿竝「トウゴオ」ニ於テモ亦同様ナリ——包含セラレ居ルコト勿論ナリ、然レドモ吾人ノ經驗ニ徴スレバ原則トシテ或ル鐵道ノ竣成セル後ハ之ニヨリテ新タニ開發セラレタル地方ニ於テハ、其貿易總額ハ以前材料ノ輸入ヲ含ミタルモノト同額ヲ維持スルカ或ハ間モナク之ト同額ニ達スベキ程度ニ取引ノ劇増ヲ來スコト常ナルヲ見ル。

南洋殖民地ニ於ケル發達ハ比較的ニ良好ナル進步ヲ示シタレドモ其範圍阿弗利加ニ於ケルモノヨリハ

二七

遙カニ狭シ、古キ保護領タル「ノエギネア」ニ於ケル貿易額ハ一九〇一年ヨリ一九一〇年迄ノ間ニ約三百萬麻克ヨリ約六百萬麻克ニ増加シタリ「カロリネン」「マリアネン」島等ニ於テハ二百四十萬ヨリ一千百萬ニ「サモア」ニ於テハ三百四十萬ヨリ約七百萬麻克ニ増加シタリ、凡テ南洋殖民地ノ貿易總額ハ八百萬餘ヨリ二千八百萬麻克餘ニ増加シタリ、此中燐酸鹽類ノミニテモ約三分一ヲ占ム。

總體ニ於テ十年前ニ於ケル豫想高ハ來ルベキ十箇年間ニ我國ノ殖民地貿易總額ハ膠州灣ノ分ヲモ合算シテ八千萬足ラズヨリ三億六千萬麻克即チ非常ニ樂觀的ニ見テ四倍以上ニ達スルコトガ希望セラレタリシナリ、然レドモ之ニツキテ吾人ハ殖民地ノ繁榮ノ殆ド全部ヲ其恩惠ニ歸スベキ殖民地ノ鐵道ハ、我國ニ在リテハ非常ニ遅レテ布設セラレタルノミナラズ、最も重要ナル線ノ一部ハ漸ク其功ヲ竣リ一部ハ猶布設中ナルコトヲ省察セザルベカラズ、若シ鐵道ガ其經濟上ノ活動ヲ開始スルニ至ラバ之ト同時ニ吾人ハ猶我國殖民地ノ取引數字ノ全然別種ノ増加ヲ見ルニ至ラン、若シ其増加ガ同一期間内ニ同一ノ割合ヲ以テ次ノ十年間ニモ進歩スルモノトセバ、一九二〇年ニ於テハ我が殖民地ノ貿易額ハ非常ノ鉅額ニ達シ優ニ十億ヲ超過スルナラン、然レドモ青島ニ於ケル發達ハ今ヤ遲緩トナルベシト豫想セラレ、又南西阿ノ「ダイヤモンド」採掘ニ付テモ殖民地ノ内ニテ「ダイヤモンド」ヲ含メル青地或ハ其他採取スル價值アル母石ヲ發見スルコトヲ得タル場合ニ限り繼續的ノ收入額ヲ期待シ得ルノミ、斯ノ如キ制限ヲ以テシテモ猶且ツ一九二〇年迄ニ殖民地ノ今日ノ取引高ガ少クトモ二倍ニ達スヘキヲ想像ス

ルモ決シテ大膽ナル豫想トハ云フベカラザルベシ。

鐵道ノ布設ニツキテハ吾人ハ東阿中央鐵道「キリマンヂャロ」鐵道「トウゴオ」背後地鐵道、「カメルン」北中鐵道及南西阿弗利加ニ於ケル「カリビブ」ヨリ「ヴィンドウツク」ニ至ル國有鐵道ノ改築及「ヴィンドウツク、ケートマン」スホオブ」南北鐵道ヲ舉ルコトヲ得ベシ、二三ノ線路ノ完成ハ實ニ一九一一年ノ末頃カ或ハ一九一二年ノ初頃ナルベシ、東阿弗利加ニ於ケル鐵道ハ今ヤ「タボラ」迄達シタリ、而シテ議會ハ「タンガンイカ」湖畔迄此線ノ直接ノ繼續ニ對スル費用ニ協贊ヲ與ヘタリ、南西阿弗利加ニ於テハ二大建設工區ニ於ケル工事ヲ同ジク本年ノ初メ開始シタリ、「カメルン」ノ鐵道布設ハ其北部鐵道ノ線路工事ハ不熟練ナリキ、而シテ又其中部鐵道ハ困難ヲ實際以下ニ見積リタルコト明カトナレルヲ以テソレ丈餘リ好運ノ下ニ在ラズ、所謂「マネングバ」鐵道ト稱セラル北部鐵道完成ノ曉ニ於テ其終點ヨリ高地ノ上ニ適用スベキ上昇方法ヲ講ズルコトハ非常ニ困難ナルベシ、從前ノ豫想ニ於テハ稍良好ニ報ゼラレタルモ實際ノ困難甚シク爲メニ同地方中最モ肥沃ニシテ且ツ人口稠密ナル北西「カメルン」ヲ中部鐵道ヲ過リテ迂廻シ、主タル港灣「ドウアラ」ニ連結セントスル問題ガ今已ニ持上リタル程ナルガ如シ、又「キリマンヂャロ」鐵道ノ現在ノ終點ハ唯全ク豫備的ノモノトセラル、此鐵道ノ終點ハ山麓ニ在リテ此地方ノ廣キ周圍ハ猶毒蠅ニヨリテ侵サレツ、アル低窪地ナリ、此結果鐵道ニヨリテ到着シ又ハ發送セラルベキ荷物ハ牛車ヲ以テ運搬スルコト殆ド不可能ナリ、少クトモ「ラウ」河畔迄——併

シ若シ出來得ベクンバ猶約九〇「キロメートル」先ノ山麓ナル「アルシヤ」迄——鐵道ヲ延長セバ該地ハ初メテ當分良好ナル狀態トナラン、然レドモ原則トシテ東阿ノ北方鐵道ノ自然的終點ハ、大運河ノ彼岸即チ將來ノ東阿移住地ノ中心ニ於テ存セザルベカラザルコト竝ニ同地ヨリ更ニ又「ヴィクトリア」湖及中央鐵道迄南方ニ連絡セシムヘキ計畫ヲ必要トスルヤ勿論ナリトス。

我殖民地ノ外部ニ對スル經濟的活動ハ本年度中ニ於テ著シキ經濟上ノ進歩ヲ現ハシタレドモ其内部ニ於ケル自治ニ必要ナル發展ニ關シテハ凡テ依然トシテ舊態ヲ脱セザリキ、サナキダニ其權限ノ頗ル限局セラレ居ル南西阿地方會ハ、一九一一年春季ニ於ケル其第二回開會ニ際シ、政府ガ其議事ノ實際ノ重ミヲ猶幾分カ低下セシメントスル隱約ノ間ニ見レタル畫策ニ對シテ防禦ノ道ヲ講ゼザルベカラザリキ、而シテ東阿ニ於ケル自治問題ハ「デルンブルヒ」氏ノ治下ニ起リタル退歩——自治體ノ解散——ノ後ニ全ク停滞シタリ、併シ吾人ハ新大臣ガ既ニ二三ノ重要ナル問題特ニ南西阿弗利加ニ關スル問題ニ就テ示シタル其積極的政策ガ漸次期日ノ經過ト共ニ更ラニ廣キ土地ノ上ニ進歩ノ果實ヲ結ブベキコトヲ期待シ得ベカラシ乎。

第二 一九一〇年以降獨逸殖民地々理的調査ノ進程

「アーヘン」教授ドクトル、マクス、エッケルト

「マロツコ」事件ノ調停及「コンゴ」報償問題ハ昨年獨逸殖民地ニ關スル世論ノ焦點トナリ年末前ニモ猶世人ノ話題ヲ持切タリ、彼ノ演說ニ新聞雜誌ニ此問題ノ喧シク議論セラレタルハ固ヨリ言ヲ俟タズ、此問題ノ解決ニ關シテハ我國ヨリ見レバ議スベキ不滿ナキニ非ルベシト雖モ、議論多クハ感情ニ走ルニ過ギタリ、議論ハ須ク中庸ヲ得ザルベカラズ、此問題ニ付キ茲ニ何ヨリモ吾人ノ興味ヲ惹クモノハ「カメルン」ノ領域ノ擴大ナリトス。

新「カメルン」ヲ合シテ「カメルン」ノ總領域ハ七五〇、〇〇〇方基米突強ノ面積ヲ擴大シタリ、抑領地ナルモノハ政治的勢力ノ因テ來ル根源タリ、此見地ヨリ「カメルン」ナル殖民地領域ノ擴大ハ即チ著大ナル獨逸ノ領土及勢力ノ擴大ナリト論ズルモ不可ナカルベシ。

我國ハ此ノ如キ領土ノ擴張ヲ戰爭ニ依ラズ流血ヲ見ズ、平和裡ニ之ヲ遂ゲ得タリ、實ヲ云ヘバ領有テフコトハ如何ナル場合ニモ價值アルモノナリ、況ンヤ約二五、〇〇〇乃至二七〇、〇〇〇方基米突ノ面積ノ増加、即チ東普魯西及西普魯西ノ二州ヲ除ケル普魯西王國ト等シキ廣袤或ハ「バイエルン」王國ノ四倍ノ面積ヲ保有スル領域ノ増加ニ於テオヤ、茲ニ唯遺憾ナルハ今日我國ノ有ニ歸シタル「ウバンギ」及「コンゴ」ヘ向ヒ斗出セル二條ノ細長キ形ノ地ノ稍確ナルコト及ビ「ウバンギ」河ガ「バンギ」ヨリ「ゴンゴ」ニ注グ河口迄ノ境界ヲ成サザルコト是ナリ、吾人ハ又優良ナル「ムスグ」地方ノ半分ヲ佛國ニ讓與セザルヲ得ザリシヲ悲ム、此讓與ノ爲メニ「ロゴネ」河ガ「チャツド」湖畔地方ニ於ケル境界

トナリ爲メニ鷺島ノ嘴形ヲナセル地ハ其嘴ノ根本ヲ喪ヒタリ、蓋シ此土地其物ハ已ニ一九〇八年ニ境界整理ニヨリ佛國ニ與フルコトヲ約シタルモノナリシナリ。

新領域ノ地理ニ關シテハ吾人殆ド知レル所ナシ、佛國及我國ノ貧少ナル資料ハ僅カノ解明ヲ與フルノミ、此資料ニヨレバ最モ價值ニ富メル部分ハ「カメルン」ノ南境ニ接セル地方ナリ、該地方ハ佛國ノ特許會社ガ從來未ダ極力經營ヲ加ヘタルコトナク、土人ハソノ數モ多カラズ且ツ懶惰ナルヲ以テ猶殘レル「ゴム」樹林多シ、土人ハ最モ性質ノ惡キ盜伐ヲナスト云フ、新地方ハ「ゴム」ノ外象牙ヲ産ス。

「サンガ、コンゴ」岬ヲ境スル兩「リクアラ」ノ土地ハ卑濕ニシテ收益ヲ得ル見込少シ、睡眠病ハ「ウバング」河ノ兩岸ニ於ケルガ如ク此地ノ住民ヲ疎ナラシメタリ、東部ニ於ケル我國ニ歸屬シタル佛國ノ特許會社ハ「ゴム」ニテ已ニ鉅額ノ收益ヲ得タリト云フ、「ゴム」ヲ産スル植物ハ北方北緯五度ニテ止マリ特許會社ノ占有地域モ亦之レト共ニ止ム、土地ハ遙カ北方ニ於テハ甚ダ山岳ニ富メドモ各所良好ナル牧場地ヲ有ス、「ラーメ」附近ノ地ハ棉花栽培地トシテ將來大ニ矚目ノ値アリ。

新「カメルン」ノ境界ハ不日從事セントシツ、アル境界測定委員ニ依リ現ニ地圖上ニ見ハレ居ルモノニ比シ一層ヨリ地理的ニ區劃セラルベシ、然レドモ吾人ハ已ニ各方向ヨリ希望セラレタル如キ過多ノ變更ヲ期待スルモノニアラズ、新「カメルン」境界整理ニツキ此際獨逸ノ測量部ニ専門ノ地理學者一名ヲ參加セシメラレンコトハ吾人ノ希望ニ堪ヘザル所ナリ、是レ我國ニテハ從來カ、ル慣例ナカリシモ他

國ニアリテハ久シキ以前ヨリ行ハル、所ナレバナリ。

「メクルンブルヒ」「アドルフ、フリードリツヒ」侯ノ第二回探檢ハ、主トシテ茲ニ吾人ガ特殊ノ興味ヲ有スル「カメルン」及佛國「コンゴ」ノ一部ヲ過リタリ、侯ハ「レオボルドウキル」ヲ過ギテ「コンゴ」及「ウバング」河ヲ進ミ、最近著シキ發達ヲナシタル「バンギ」迄ハ汽船ニ搭ジテ進入スルコトヲ得タリ、夫ヨリ「ナナ」ヲ過ギテ「シャリ」ニ進ミ次ニ「シャリ」ニ沿フテ「チャツド」湖マデ進ミタリ、侯ノ報告ニヨレバ象牙及「ゴム」ヨリ成レル南方地方ノ天産物ハ最早非常ニ多クハ存セズト云フ、侯ハ「ウバング」河ノ兩側ノ土地ハ睡眠病ノ爲メニ荒廢セシメラレタリト雖モ之ヲ價值ナシトナサズ、又地質上ヨリ考察シテ東部新「カメルン」ニ於ケル或ル一帯ノ土地ヲ探掘ノ價值アル錫鑛牀ヲ有スルナラント云ヘリ、多クノ小隊ニ分レテ州ノ内部ニ進入シタル侯ノ「内部阿弗利加探檢」ノ科學的ノ調査ハ、ソノ報告書公刊ノ後ニハ獨領新「カメルン」ノ各地方ニツキテ價值アル解明ヲ吾人ニ與フルナルベシ。

昨年吾人ハ教授「クルト、ハツサート」博士ノ「カメルン」ノ山岳ニ關スル興味アル詳細ナル地理學的記述ヲ手ニスルコトヲ得タリ、此單行本ノ主タル調査ノ二三ヲ次ニ其儘掲ゲン。

強大ニシテ多ク分岐ヲ有スル火山彙タル「カメルン」山岳ハ獨逸ノ「チロール、アルプス」ノ巔ト伯仲ノ高サヲ有シ海ニ近ク屹立セリ、其頂ハ四、〇七〇「メートル」ノ高サヲ有シ西阿ノ最高峯トシテ森林境界ノ上ニ聳ユ、南南西ヨリ北北東ニ向テ、「ギネア」諸島ノ分布スル方向ニ於テ連互スル「カメルン」山岳ノ

長軸ニハ長サ五〇「キロメートル」ニシテ垂直ニ其上ニ立ツ約ボ同一ノ大サヲ有スル横徑アリ、全體ニテ二、〇〇〇方「キロメートル」強ノ平面ヲ蔽ヘリ、故ニ「カメルン」山岳ハ殆ド「ハルツ」山ト相如ク廣キ基底ノ上ニ立テリ、是レ「ハツサート」氏ガ「カルメン山」ト呼ブコトヲ排シテ「カメルン山麓」ナル名稱ヲ擇ビタル所以ナリ、蓋シ此語ハ其巍然タル連互ヲ現ハスニ適セリ、吾人ノ今日知レル所ニヨレバ「カメルン」山岳ハ全然玄武岩ヨリ成リ而シテ甚ダ單一ニシテ且ツ一様ナル地質的構造ヲナセル近時代ノ火山體ナリ。

頂上ニ降下スル雨量ハ毎年降雨ノ續キタル後固結シテ雪トナルヲ常トス、即チ「カメルン」山岳ハ其最高巔ニ聳立シテ正ニ降雪圏内ニ在リ、然レドモ大氣甚ダ乾燥シ降雪ヲ見ルヲ稀ニ其量モ亦多カラズ、暫時ノ後再ビ消失シテ痕跡ヲ留メズ、故ニ「カメルン」山岳ノ雪ハ他ノ高山ニ於ケルガ如ク夏季ニ濕潤ノ源泉ヲナサズ、又山岳ノ高地ニ於ケル水ノ缺乏ヲ濟フコトナシ、尙ホ水ノ缺乏ヲ來ス原因ハ空氣ノ濕度小ニシテ降水量ノ少キコトノ外特ニ疎鬆ナル灰土層及多孔質ニシテ空虛多キ玄武岩ノ甚シキ滲透性ニ在リ、他ノ多雨ノ山地ニ於テハ夢ニダモ知ラザル井泉及流水ノ缺乏ニ由ル苦痛ハ、高峻ナル地方ノ移民境界内ニ於テ猶一層甚シク不快ヲ感ゼシメ、而シテ水ノ存ス所ノ深サヲ知ルコトヲ得ズ、海岸ニ沿ヒタル山麓ノ下方ノ傾斜ニ於テ初テ井泉ノ多數ヲ見ルコトヲ得ベシ。

「カメルン」山岳ノ氣候ガ熱帶的低地帯ヨリ不斷ノ氷雪地帯マデヲ包括スルガ如ク、氣候ト密接ニ關連

スル植物ハ之ト類似ノ諸帶ニ互レリ、即チ鬱葱トシテ四時綠濃カナル原始森林ヨリ山嶺ノ萎へ細レル可憫ナル隱花植物ニ至ル迄ヲ包含セリ、植物ノ分布ハ帶狀ヲナシテ「カメルン」山岳ヲ繞リ、以テ明カニ其大體ノ景色ヲ別ニスルニ大植物地方ヲナセリ、即チ天氣晴朗ナルトキハ已ニ遠隔ノ地點ヨリ、暗綠色ノ原始森林ト、又高丘ノ後方ニ當リテ「エングラ」氏ノ所謂「高牧地」ナル明綠色ヨリ黃褐色迄ノ草菌トヲ判別スルコトヲ得ベシ、森林ノ形態ニツキテハ、斧斤未ダ入ラザル初期ノ原始森林ト多少人カニ依リテ變更ヲ加ヘラレタル第二期森林トノ二者ノ間ニハ非常ノ差異ヲ存ス。

「カメルン」ニ産スル高山植物ハ其種類多カラズト雖モ歐洲及南阿ニ産スル或ル種類ノ外「アビシニヤ」「キリマンチヤロ」及舊島嶼タル「マタガスカー」ノ植物界ト近似ノ特色ヲ有セル多クノ植物ヲ見ルハ興味アル點ナリトス、其理由ハ之ヲ暗黒大陸ノ今日ノ氣候ノ有様ニテハ説明スルコトヲ得ズ、此現象ヨリ推セバ今日ニ比スレバ濕氣ニ富ミ且ツ寒冷ナリシ彼ノ所謂多雨紀時代ニ於テ高山植物ハ今ヨリモ一層廣ク分布セラレタリシコト殆ド疑ヲ容レズ、而シテ氣候ガヨリ溫暖且ツ乾燥トナリタルトキ此等ノ植物ハ「當時ノ遺物」トシテ最モ寒冷ニシテ且ツ最モ高峻ナル山地ニ「救助島」ヲ求メテ退却シタルナラシ。

「カメルン」山岳ノ動物界ニハ鹿類多シ、概シテ言ヘバ此山岳ノ動物ハ一種特別ニシテ且ツ獨立ノ特質ヲ有セリ、沿岸ノ傾斜及崖阪ニシテ人煙ナク人跡未ダ到ラザル原始森林ハ尙ホ象、羚羊、猪等ノ栖息ス

ル廣大ナル野獸ノ巢窟ヲナセリト雖モ野獸ガ此山岳ニ特ニ多シト云フベカラズ、其大部分ガ已ニ耕作セラレテ人類ノ居住スル山地下方ノ崖阪ニ於テハ大ナル哺乳動物ヲ見ルコト益々稀ナリ、殊ニ此ノ如キ動物ハ耕作ヲ害スルヲ以テ土人及農夫ハ力メテ之レヲ狩リ斃シツ、アリ。

鳥類及昆蟲ハ非常ニ多シ、哺乳動物及鳥類ハ雨季及乾季ニ由リテ殆ド影響ヲ受ケザルカ或ハ全ク影響ヲ受ケザレドモ昆蟲ニ至リテハ此兩季ノ影響ノ區別ハ大ニ注目ニ値ス、昆蟲ノ發達ハ花ノ開クト步調ヲ一ニシ雨季ノ終ル頃ニハ花及花ヲ求ムル昆蟲ハ著シク増加シ、而シテ漸次乾燥季ニ近クニ從ヒ再ビ減少ス。

「カメルン」ノ山地ニハ多クノ人類ノ種族栖息セリ、此等ノ種族ハ其體質及言語ニ徹スレバ阿弗利加ノ「バントン」黑人種ノ西北部族ニ屬ス、之ニツキテ主トシテ擧ゲザルベカラザルハ、「ドウアラ」種族ニ近似セ、二種族「バンブゴ」(「ボンボゴ」又ハ「ブンボゴ」トモ謂フ)及南方ト南東トノ傾斜ニ栖息スル「バクウイリ」(「バクウイリ」)、「バクウイレー」或ハ「バクウエヂ」トモ謂フナリ、彼等ハ農耕、牧畜及狩獵ヲ生業トシ同時ニ此等ノ主タル生業ハ彼等ニ主要ナル食料ヲ供給ス。

我獨逸ニ於テ馬鈴薯或ハ穀物ガ日々「バン」ヲナセルガ如ク「バンツウ」種族ニ於テハ「バナナ」ノ一種ナル植物ガ同様ノ役目ヲナセリ、此植物ハ粉末ニ富ミ且ツ滋養分多ク、生ノ儘ニテハ食スベカラズト雖モ煮熟シ蒸焼シ又ハ燻炙シ或ハ水ヲ加ヘテ捏粉所謂「フフ」ノ一種ニ作りテ食膳ニ供シ得ベシ、此植

物ハ其果實ノ外其葉ヲ種々ノ用ニ供シ若ハ他ノ食料ヲ貯藏スルニ用ユベク、又其多漿ナル幹ハ水ニ乏シキ地方ニ於テハ給水者ノ役目ヲモナス、「バナナ」ノ栽培ハ勞力ヲ要スルコト甚ダ少キヲ以テ確カニ非常ニ土人ノ懶惰ニ好都合ナリ、此植物ノ大ナル一把ハ人間一人ニ三日ノ食料ヲ與フ、故ニ一人ノ食料ハ一箇月ニ一〇把一年ニ一二〇把アレバ十分足ル勘定ナリ。

「カメルン」山地ノ窪キ所ニ於テハ氣候モ良ク地味モ良キヲ以テ農園耕作ニ甚ダ恰適セリ、海岸ニ近キ地方ハ運賃ガ低廉ナルヲ以テ目下主ナル農園地タリ、若シ鐵道ガ海岸ニ近キ丘後ノ地タル「メダ」及「ムンマ」ノ窪地ヲ開發スル曉ニ至ラバ何レノ點ヨリ見ルモ確カニ將來「カメルン」農園地ノ主要ナル土地トナルベシ、其紅土(鐵礬土)及火山ノ沖積物ト分解物トヨリ成レル風化シタル土壤ハ古キ岩床ノ露出セル所ナキ程厚ク被覆セリ、目下「カメルン」ノ栽培業ノ主ナルモノハ「カカオ」及「ゴム」ナリ、油椰子ノ栽培ハ將來之ヨリ猶多クノ收益ヲ得ル見込アリ。

「ハツセルト」教授ノ研究旅行ニ參加シタル博士、「エフ、トールベツケ」教授ハ其「マネングバ高地」ト題スル長論文ニ於テ「カメルン」ノ地誌ニツキ説明ヲ加ヘタリ、教授ノ說ニヨレバ「マネングバ」高地ハ「土塊地」ノ緩昂ニヨリテ成レル「高地體」ナリ、第二次ノ放散及強力ナル火山の爆發及投積ノ外特ニ風化及毀壞モ亦高地ノ形態ヲ變改シタリ、此地ハ「バコシラント」高地ノ一部分タリ、其氣候ハ最初ニ此地ヲ蹈ミタル宣教師ノ既ニ云ヘルガ如ク全ク歐洲人ノ堪ヘ得ル程度ナリ。

氣候ノ影響ヲ受ケタル植物ノ特質ヨリ考察スレハ「マネングバ」高地ハ明カニ海岸窪地ノ原始林ヨリ、多少内地ノ高地ナル純粹ノ草地ニ變化シ行キタル地方ナルコトヲ示セリ、山地ニハ「バコシ」族栖息ス、彼等ノ大ナル閉鎖セラレタル村落ハ、閉鎖セラレタル森林低地或ハ内部「カメルン」ノ原始林ニ蔽ハルル傾斜地ニ於ケル散在村落ト將ニ開放移民地タラントスル集團部落トノ間ノ過渡ノ形態ヲ有セリ、其村落ノ狀況ヲ見ルニ垣ハ規則正シク村ノ周圍ニ設ケラレ且ツ培養セラレ、而シテ之ニ關シテハ特定ノ意味ニ於テ之ヲ土人ノ「殖林」ト稱スルコトヲ得ベシ、其他土人ノ栽培ハ同様ニ好良ナル印象ヲ與ヘ、又家畜ハ比較的良好ナリ。

經濟上ノ見込ニ關シテハ「トールベツケ」氏ノ意見次ノ如シ。

目下移民ニアリテハ彼等ノ發達ニ必要ナル最モ初步ノ基礎的智識ヲ缺ケリ、茲ニ基礎的智識ト謂フハ獨領東阿ニ於ケル移民ガ之レニヨリテ以前ヨリ其利益ヲ享ケツ、アル「信憑スベキ規則正シキ氣象ノ觀測ニ基ケル或ル程度迄實際上用ラレ得ベキ氣象上ノ智識及土壤組成ニ關スル智識」ヲ指ス、信憑スベキ氣象上ノ基礎ナクンバ棉花、「ゴム」、煙草、纖維用植物等凡テノ栽培業ハ全然失敗ニ終ルハ必定ナリ、「トウゴウ」及東阿ニ於ケル棉花栽培ノ成功ガ此等ノ殖民地ニ於テ最モ必要ナル氣象上ノ智識ニ負フコト大ナルハ爭フベカラズ、南西阿ニ對シテ「カドローブ」氏ノ建言セル如ク「トールベツケ」氏ハ「カメルン」ニ對シテ中央氣象觀測所ヲ設クベキコトヲ建言シタリ、氏ハ此中央觀測所ハ將來直接ニ知

事ニ隸屬スル『地方地理局』ニ發達セザルベカラズトセリ。

「クールト、ストリユムベル」大尉ハ一九〇九年ニ於ケル、^{レヒダツツ}辨務官「アタムア」氏ノ東境方面ノ旅行ニ關シ詳細ナル報告ヲ爲シタリ、其旅行シタル地方ハ主トシテ「インゼルベルヒ」地方ニシテ茲ニハ唯疎ラニ連絡シタル山岳アルノミ。

其多クノ岐河ヲ有シソノ一部分ハ大ナル岐河ヲナセル「ベヌエ」ニ流込ム、「マオ、ライ」及「ウイナ」河(西「ロゴネ」河)ハ此地方ヲ充分ニ灌溉ス、叢林(濶葉樹叢林)ハ種々ノ密度ニテソノ地方ヲ蔽ヘリ、密生シタル低キ藪ハ唯所々ニ僅少ノ樹木ヲ見ルノミナル廣大ニシテ卑濕ナル草生地ト交代ス、河筋ハ密生セル「ガレリー」樹ノ林ヲ以テ蔽ハル。

境界地方ニ栖息スル偶像教ヲ奉ズル蠻族ハ、「フラ」人ニ敗レ其政治上ノ獨立ヲ喪ヒ爾來「フラ」人ニ隸屬セリ、然レドモ彼等ハ兎ニ角其古ノ慣習風俗ヲ保存シテ勝者ノ宗教ヲ採用セントセズ、「ダマ」種族ヲ除キテ彼等ハ「モノ」、「ダリ」、「ラツカ」及「ムブム」種族ニ分カル、「獨領殖民地報告」中ニ「ストリユムベル」氏ハ彼ノ諸種族ニ付キ價值アル報告ヲ爲シタリ、氏ハ「ラツカ」種族ノ部落ニツキ正確ナル梗概、及「ムブム」種族ノ小屋ノ内部ノ設備ヲ描キ更ニ土器、革具、編細工、及木彫細工ヨリ進テ狩獵、捕魚ニツキテ紹介シタリ、毒蠅ニ襲ハル、ハ僅少ノ場所ニ過ギズ、部分的ニ能ク灌溉セラレ、地方ニ於テ大ナル牧場ヲ有スルニモ拘ラズ家畜ハ非常ニ少シ、北方ノ「アダマウア」ニ於テハ牧場ニ乏キ

モ茲ニハアリ餘レリ。

四〇

政府ノ地質學者「オットオ、マン」博士ハ「一九一〇年五月」カメルン」ノ地質調査ノ狀況」ニツキテソノ大綱ヲ叙シタリ、主トシテ「カメルン」ノ地質的構成ノ一部ヲナセルモノハ結晶板石ナリ、新古ノ噴出岩ハ唯限局セラレタル一地方ニ廣キ積層ヲ作レルノミ、沈澱岩ハ唯海岸ニ於ケル「十字河」地方及「ベヌエ」河畔ニ於テ結晶板石地方ニ深ク簞入シアルノミ、又新古ノ沖積地ハ限局セル僅カノ場所ニ之ヲ見ルノミ。

「カメルン」ノ結晶石地方ハ之ヲ分チテ、南北兩「アダマウア」南「カメルン」「バメレダ」ノ高地、「チャン」及所謂結晶岬角ノ各部分トナス。北「アダマウア」ハ「バツサルゲ」氏ノ所謂「アダマウア」ノ「土塊地」ト稱セル地方ト約ボ同一ナリ、此地方ハ平波的丘陵地ヲナシ、全然灰色ノ片麻岩ヨリ成レル平原中ニ花崗石ノ參差タル山岳及丘陵一群聳立セリ、二、〇〇〇「メートル」以上ノ高サヲ有シ而モ其大半險峻ナル大山岳ハ「マンダラ」山麓「ホツセレ、ヘリ」「サリ」諸山、「ブバンデタ」諸山並ニ「アランチカ」及「チエブチ」諸山等ナリ、北「アダマウア」ニ對シテ、南「アダマア」ハ「ニアウンデレ」丘陵及「ゲンデロ」諸山ニ於ケル「チャツベ」道ニ通ズル此峻阪ノ連續ニ依リテ境界ヲ劃セラレ、南方ニ於テ一部分梯級形ニ截所セラレタル高原ナリ、大波濤形ノ丘陵地ニ聳立セル數箇ノ峻山ハ即チ「ゲンデロ」「ガリム」諸山「メオテ」「チアウロ」「ゴチル」「マンピラ」諸山「バンジオ」諸山等ナリ、其最モ多キヲ占ムル岩石ハ片

麻岩ニシテ間々數米突ノ鐵礫土ノ風化セル巨大ナル被覆ニ蔽ハル、山岳及大岩石丘陵ノ脊梁ハ主トシテ花崗岩ヨリ成ル、「ギールマン」氏ハ「ゲンデロ山」モ亦此種ノ廣キ巨大ナル岩石ヨリ成レルコトヲ認メタリ、「ニヤウンデレ」附近ニ於テハ數多ノ玄武岩ノ釘頭形ノ山ヲ見ル、南「カメルン」即チ「サナガ」ノ南ニ當ル地方ニツキテハ其地質ニ關シテ吾人ハ毫モ知ル所ナシ、然レドモ將來僅少ノ發見ハ等シク主ニ片麻岩及花崗岩ヲ見ルナラント想像セラレ、「バメンダ」及「チャン」ノ高地ハ、花崗岩ヨリ成レル山岳ヲ有スル巨大ナル丘陵的ノ古結晶ノ高地ナリ、時代ノ近キ火山岩ヨリ成レル溶岩ノ被覆及噴火口ハ各地ニ之ヲ見ルヲ得ベシ、「エツシ」氏ノ所謂結晶岬角ハ「ハツサート」氏及「トオルベツケ」氏ノ所謂南方ノ土塊地ト一致ス、北ニ當レル平丘地ハ一部分宛臺地ノ形ヲナシテ隆起セリ、時代ノ近キ噴出岩ハ甚シク此等ノ構成ヲ變ジタリ、其他「シロナコ」「マネングバ」「ムンゴ、バファラミ」山麓ハ何レモ二、〇〇〇米突以上ノ高ヲ有シ之ニ連續シテ「クーベ」「アリベルヒ」「ゲーニングツアン」「ルムビベルグ」「ヘウエツトベルヒ」「アナベルヒ」「オクリベルヒ」及「アモン」諸山連延セリ、片麻岩ハ種々ニ變形シテ主タル岩石ヲ形成シ及花崗石モ亦最モ多クノ此等ノ山容ヲ作レリ。

「カメルン」ニ於ケル有要ナル礦物ハ結晶地地方及沖積地々方ニ於テ所々ニ發見セラル、即チ黃金、銅、鐵、「マンガン」銀、鉛、亞鉛、錫、砒素、「アンチモニー」硫黃、「アルミニウム」雲母、石灰石、瀝青、石炭、食鹽及「コーバル」(假漆ノ原料ナリ)ノ如キ是ナリ、然レドモ此等ノ發見地ハ相當ノ勞働者並ニ交通道路

四一

ヲ缺キ又十分ノ礦物ヲ含マザルモノ多クソノ他ハ採掘スルニ足ルヤ否ヤ未ダ精査ヲ經ザルヲ以テ大半ハ採掘ノ價值ヲ有セズ。

「カメルン」ニ於ケル氣象ニ關スル觀測ハ主トシテ唯雨量ニ關スルノミ、同地ニ於テ一九一〇年中ニ多少十分ナル觀測ヲナシタル觀測所ノ數ハ五九ニ上レリ、一九〇九年ニ比スレバ一九一〇年ハ大體ニ於テ雨量稍少カリシモ「カメルン」山麓ノ南方及南東方ニ於ケル觀測所ノミハ多クノ雨量ヲ報告シ又殖民地ノ南方ニ於ケル二三ノ觀測所モ同様ナリキ、「バメンダ」「サクバエメ」「エポロワ」「ドウメ」「ロミー」「アコアヒム」ノ如キ各所ノ觀測所ガ降霜ヲ報告シタルハ異トスベシ。

「カメルン」山麓及其附近ハ從來「カメルン」中ノミナラズ全阿弗利加中最多雨ノ地タリ、「インデナウ」、七、二八一、「ドウアラ」四、三二一、「マリバ」五、二七一、「リオデルライ」三、九五三、「ヴィクトリア」三、七二二、「ミリメートル」山麓ノ高サニ從ヒ且ツ内部ニ入ルニ從テ雨量ハ減少ス、然レドモ「ブエア」及「オシチング」スラ猶三、〇〇〇「ミリメートル」ノ多量ヲ有シタリ、然ルニ山麓ノ雨陰ニ當ル側ニ於ケル其他ノ觀測所ニ於テハ二、〇〇〇乃至三、〇〇〇「ミリメートル」ノ降雨量ヲ示シタリ、又「エデア」「ロロドオルフ」「カンボ」及「カメルン」ノ南海岸ノ他ノ場所ハ此群ニ屬ス、南「カメルン」ナル内部ノ地ニ於テハ二、〇〇〇「ミリメートル」ニ達セズ（ドウメ、一、九九二、「アボンダ」「ムバンダ」一、六八五、「アコノ、リంగా」一、三五〇「ヤウンデ」一、七〇四「ミリメートル」）「カメルン」山麓背後ノ地及「マネングバ」山

麓ヨリ北ニ向ヘバ向フ程其地方ハ益々乾燥トナリ「クセリ」ニ於テ唯四〇〇強「ミリメートル」ノ降雨量ヲ示セルノミ、「ガルア」九一一「獨逸ビンデル」九〇三、「バンヨー」一、五九七「ミリメートル」

軍醫監「ラング」博士ハ以前「クツセリ」ニ於テナシタルガ如ク卓越セル方法ヲ以テ「チャング」ニ於テ各方面ニ互リテ繼續シテ氣象ノ觀測ヲナシタリ、此觀測ハ「バクブルヒ」(一八九一年及一八九二年)ニ於ケル舊式ノ「フツテル」氏式ノ觀測ヲ除ケバ中部「カメルン」高地ノ氣候ノ判定ニ最初ノ明確ナル基礎ヲ與ヘタルモノナルヲ以テ甚ダ重要ナリ、此觀測ニ依レバ「チャング」觀測所ノ一年ノ平均溫度ハ一八度六(攝氏)ナリ、最モ溫カキ三月ノ月ハ平均二〇度ニシテ最モ冷キ月ナル八月九月ハ一七度三ナリ、最高溫度三二度八ハ二月ニ於テ最低溫度八度七ハ十二月ニ於テ測ラレタリ、故ニ一年中ノ動搖ハ二三度一ナリ、雨量ノ額ハ一、〇〇六「ミリメートル」ヲ測リタリ。

トオゴオ」ハ前年ニ於テハ新シキ地理學上ノ研究及探檢の旅ニ關シテハ甚ダ繼子の取扱ヲ受ケタリ、茲ニハ殊ニ沿海ノ背後ノ地ニ於テ研究スベキコト多クアレドモ何等擧グルニ足ルベキ報告ニ接セズ、唯氣象ノ觀測ニツキテ今之レヲ報告シ得ルニ止マレリ。

一九〇一年以來「トウゴオ」ニ於テ規律正シキ雨量測定ガ行ハレタリ、觀測所ノ數ハ一九一〇年ニハ三

一ニ増加シタリ、一九一〇年ハ雨ニ豊ナリキ、即チ殆ド一、〇〇〇「ミリメートル」ヲ超ユル降雨量ヲ示シタルコトナキ海岸ノ觀測所ニ於テモ此限界以上ニ出デタルモノ多カリキ（「ローメ」一、一〇五「アネホ」一、一八四「クベメ」ノ耕地一、〇七四「ミリメートル」「セーベ」九四三、「アグバナクウエ」税關九三〇及「バキダ」ノ城外八九六「ミリメートル」之レニ反シテ東境ニ於ケル觀測所ハ前年ニ比スレバ大ニ減少シタリ（「アゴメ、セワ」七三〇、「トクブリ」税關九六六「テトウ」七七四、「ミリメートル」併シ殆ド凡テノ他ノ觀測所ハ北方ニ在ルモノヲ除キ皆一九一〇年ニ於ケルヨリモ多クノ降雨量ヲ示シタリ（「ノエベ」税關一、三五九、「ソーロ」一、一三二、「ソクベ」徵稅所一、四八九「ホオ」一、四二五、「アグ」樹耕地「タヒー」一、九九三「ニアムボオ」城外一、八四九、「ハーホオバルフエ」一、六二四「ヌアチエ」一、二五七「ミツサ」高地二、五七九「クバンドウ」一、五九四、「バリメ」二、〇五六「アタクバメ」一、七八、「ケテークラチ」一、七八八「クベデー」一、四〇二、「メコデ」一、三二六「バツサリ」一、三四五「エシチ」一、三二三及「サンサネ、マング」一、二〇四、「ミリメートル」「ミツサ」高地ニ於ケル年額ハ最も多雨ナリシ一九九三年（一、五五四ニ對スル二、五七九耗）ニ比シテ尙ホ稍大ナリキ。

吾人ハ再ビ眼ヲ「パウル、ランゲ」博士ノ獨領南西阿弗利加ニ關スル記述ニ轉ジ博士ノ「リュデリツツラ

ンド」全部ニ關スル概觀ヲ見ルベシ、博士ノ所說ハ博士ガ廣ク「リュデリツツラ」ヲ旅行セル後ニ著手セル幾多ノ研究ノ結果ナリ。

「リュデリツツラ」ハ大西洋及「ファイブ」高原ノ斜坂トノ間ニ在リ、此高原ハ過半地平的ナルヲ以テ動モスレバ卓子形タラントスル「ナマ」形成紀ノ地層系統ニ於ケル構成ニ屬セリ、全體ハ主トシテ一、三〇〇乃至一、七〇〇「メートル」ノ高サヲ有シ、海ヲ距ル八〇乃至一二〇「キロメートル」ニ位スル高原ナリ、然レドモ土地ノ傾斜ハ西方ニ於テ甚ダ強ク南方ニ於テモ亦「オランエ」河ノ方ニ傾斜セリ、海ニ達スル本來ノ河川系統ナルモノナク、「ナイシブ」「クイハブ」「アラサブ」「アニブ」「ウグハブ」ノ如キ諸河川ハ皆二〇乃至五〇「キロメートル」ノ間ヲ流レタル後海岸ノ荒地ノ砂中ニ没シ去ルナリ、此等ノ河川ハ上流ニ於テ毎年數日間水ヲ通ゼシムルノミ、而シテ其河筋ニ沿フテ小許ノ「アカシア、ホリダ」「アカシア、キラフエ」等ノ植物ヲ生ズ、卓子形ノ山ノ周縁ノ西方ニハ到ル所阿弗利加ノ土臺ヲ形成セル初步ノ形成（片麻花崗岩、真正ノ結晶板石、千枚岩及其他）ヲ見ル、數多ノ花崗石及其他ノ大岩塊ハ此形成中ニ突入シテ多ク獨立ニ山體ヲ爲セリ、例ヘバ「チラス」山「クブツグ」山地「チアウカイブ」諸山及「チルブ」山地等ノ如シ、此等ノ牽聯セル山岳及山嶺ノ他ニ又「ガループ」或ハ大「チーゲルベルヒ」「ホモナ」附近ノ花崗石ヨリ成レル釘頭形ニシテ點々聳立セル山岳アルヲ見ル。農業上ニハ何等價値ナキ海岸一帯ノ廣サ約一〇〇「キロメートル」ノ荒蕪地ハ地質ノ構成ヨリ見レバ、

「ダイヤモンド」ノ外猶他ノ礦物ヲモ産出スル見込ナキニ非ズ、重要ナル種々ノ金屬ハ已ニ發見セラレタリ、即チ「ボモナ」附近ノ北「サン、クレエール」礦山ニ於テハ銅ヲ産シ「ボモナ」附近並ニ「サクレール礦山」ノ北方ニテモ亦銅ヲ産シ「ボモナ」附近ハ又硫化鉛礦ヲ産ス、黃金ハ「オランエ」ノ北方ニ於ケル蠻岩（礫岩）中ニ見ルコトヲ得ベシトノナレドモ未ダ其詳細ノ報告ニ接セズ、鐵礦ノ發見ハ今後頗ル重要ノモノナルベシ、サシ當リ第一ニ大切ナルハ「ダイヤモンド」ナリ、「ダイヤモンド」ヲ産スルハ第二期中古層ナリ、「ダイヤモンド」ノ起因ニ付テハ未ダ曾テ非難ヲ容ル、餘地ナキ程ノ説明ヲ聞カズ、廣ク此地ヨリ産出スルヲ以テ確ニ其ノ採掘ガ永ク繼續スルコトヲ豫期シ得ベシ。氣候ニ關シテハ海岸ト高平原トヲ區別セザルベカラス、前者ハ一年ノ降雨量約一八「ミリメートル」以上ニシテ後者ハ約一〇〇「ミリメートル」強ナリ、海岸ノ氣候ハ大西洋ノ寒冷ナル潮水及「ペンダラ」潮流ノ影響ヲ受クルコト多シ、高原ニ於ケル一〇〇「ミリメートル」ノ降水量モ餘リ多量ト云ヒ得ザルモ之レニヨリテ毎年草痕ヲ新タニシ且ツ叢叢原野ヲ再ビ綠ト爲スニ足レリ。

海岸地方ハ荒蕪ニシテ目ヲ樂マシムルモノナシト雖モ動物ニ乏シカラズ、若シ稀ニ降雨アリテ僅少ノ食餌タルベキ草ヲ生ズルトキハ大ナル哺乳動物ハ其上ニ斷エズ淹留シ或ハ彷徨ス、「ナミツブ」ノ各所ニ「ゲムス」羚羊、及美麗ナル「スプリング」羚羊、褐色ノ鬚狗豺及匙狗栖息シ、高原ニ於ケル岩石ノ罅隙ニハ「グリツブ」羚羊、「クワ」山斑馬、馬、兔、狒々等ヲ見ルコトアリ、彪ハ幼キ仔馬ニ數々

危害ヲ加フ、「オランエ」ニ於ケル河馬ハ獨逸及英國政府之ヲ保護セリ爬蟲類及鳥類ハ（駄鳥、野雁、鳩、雉、鸚鵡）其種類甚ダ多シ。

南西阿弗利加ノ研究ニヨリテ有名ナル「フランツ、ザイナー」氏ハ一九一〇年ノ「オマヘケ」地方ニ試ミタル地理探討ノ旅行ヲ基礎トシテ「オマヘケ」ノ梗概ヲ單簡ニ紹介シタリル新著ヲ世ニ出シタリ、其總テノ學術的資料ハ猶整理中ニ屬セリト云フ、氏ハ氣象ヲ觀測シ高度ヲ測定シ及通路ヲ調査シ且ツ植物地理的及人類學的的政治的ノ調査ニ關スル報告ヲ爲シタリ、通路ノ調査ハ特ニ殖民地ニ關スル最初ノ詳述タル植物分布圖ノ著作ノ用ニ資セリ。

「オマヘケ」ハ北方ニ於テハ「オトイムボーロー」及「クングフェルド」トノ間、東方ニ於テハ「カウカウフェルド」オカワンゴ、ベツケン（「ブラウブツシベツケン」ニ政治上ノ東界ヲ接ス）ト「ハセフェルド」南方ニ於テハ「リートフォンタイン、ゴハビス、ゼーイス」ノ道路及「ダマラ」山地トノ間、西方ニ於テハ「オタウイ」ノ丘陵地及「エトシャファンネ」ニ於ケル臺地トノ間ニ位セリ、又重要ナル植物境界線タル觀ヲナセル緯度二〇度ノ線ハ「オマヘケ」ヲ南北ノ二ツニ別テリ、南「オマヘケ」ハ更ニ西方ノ水ニ富ミ多クノ農場ヲ有スル地方ト常ニ水ノ存在スル僅少ノ箇所ヲ見ルノミナル東方ノ「ドゥルスト、フェルド」或ハ「サンドフェルド」〔渴野、砂野ノ義〕トニ分カル「サンドフェルド」ハ土人ノ犯罪人及毎年時ヲ違ヘズ必ズ雨季ノ初メニ於テ群ヲナシテ雨ヲ避クル農園労働者ノ主タル避

難所トナレリ、オマヘケノ地床ヲナセル岩石ハ大半ハ河床、井泉及沼池ニ於テ露出シ、然ラザレバ砂利層(珪石ノ雜リタル王髓砂石)ニ蔽ハル、此砂利層ヲ又石灰石ガ多少疎ラニ被覆セリ、此石灰石ハ石灰砂石及沼池砂石即チ柔軟ナル石灰渣石及硬固ナル鐘乳石トニ區分スベシ、而シテ石灰石ハ場所ニ依リテハ二〇「メートル」ノ厚サニ達スルコトアリ「ザイナー」氏ハ表面ノ形ノ變化ニツキテハ繼續シテ乾燥スルヲ以テ變化ハ今モ猶急速ニ行ハレツ、アリト云ヘリ。

「ザイナー」氏ハ地質ノ表面ノ形成ニ對應セシメテ植物ヲ地理上ニ分類シテ、深キ疎鬆ナル褐色ノ「カラハリ」砂ニ於ケル植物即チ所謂「カラハリ」藪叢ト、灰褐色ナル一乃至三「メートル」ノ深サヲ有スル、多クハ石灰石平地ノ膏腴ナル砂即チ河床及石灰沼池ニ於ケル「シヨツター」砂ニ於ケル植物ト、粘土質ノ赤土ニ於ケル植物ト、及卑濕地植物及地下水植物トナシタリ、「オマヘケ」ニ特色ヲ附與シ且ツ其西方ノ部分ヲ限ル「カラハリ」藪叢ハ、一部分ハ森林的ノ樹木或ハ密生ノ倭樹ノ形ヲナシテ僅カノ草ヲ混ジ、一部分ハ優秀ナル草原ヲ有セル疎ナル藪叢或ハ灌木ヲ生ゼル草原ノ形ヲ呈ス、「カラハク」藪叢ニ於テハ土人ノ過半ノ食物ニシテ且ツ最モ漿液ニ富メル原野植物ナル「エホエ」ノ水根ト及其液汁ニ富メル球莖トハ以テ數百人ノ土人ヲシテ乾燥季節ノ間水ノナキ地方ニ栖息シ得セシムル「アスクレビアダツエー」ヲ産ス。

一九〇八年九年(七月一日乃至翌年六月)及一九〇九年一〇年ノ觀測年度ハ如何ニ南西阿弗利加ニ於

ケル、降雨ガ比年相異レルヤヲ示セリ、即チ例ヘバ「ツメブ」ハ前年ノ一九五〇ニ對シテ最近ノ觀測年度ニハ六二八「ミリメートル」ナリ、降水量ハ兩年共良好ノ程度ナリキ、實ニ一九〇八年九年ニ於テハ過ギタルハ猶及バザルガ如ク、打續キタル多雨ノ爲メニ有害ナル昆蟲夥シク發生シ又「マラリヤ」「馬殺病」及青舌病、睡眠病ハ從來此等ノ諸病ニ罹ラザル地方ナリト信ゼラレタル地ニ迄モ發生シタリ、全國ニ分置セラレタル一五ノ觀測所(「チエツスフオンタイン」、「グロートフオンタイン」、「オウトヨオ」「オマルル」、「オコムバヘ」「オカハンヂヤ」「ゴバビス」「ウインドホック」「スワコブムンド」「ナウハス」「アミスイス」「ギベオン」「ベタニエン」「ケートマンズホープ」)「リュデリツツブホット」ニ於ケル最近七年間ノ十分ナル觀測ノ結果ニヨレバ一九〇三年度乃至一九〇九年度ノ相互ノ比例ハ、假リニ正常ノ雨量ノ年度一九〇三年度ヲ一〇トセバ左ノ結果トナル、

1903-04	1904-05	1905-06	1906-07	1907-08	1908-09	1909-10
10,0	7,6	7,1	8,8	5,3	13,7	10,6

海岸觀測所ヲ除キテ北部(「オニイバ」「オルコンダ」「グロートフオンタイン」「オウトヨオ」)中部(「オカハンヂヤ」「ゴバビス」「ウインドホック」「ナウハス」)及南部(「アミスイス」「ギベオン」「ベタニエン」「ケートマンズホープ」)ニ於ケル各四ヶ所ノ觀測所ニ於ケル一ヶ年ノ雨量ニツキ一九〇三年度乃至一九〇九年度ヲ「ミリメートル」ニテ計算スレバ左ノ如キ結果ヲ得ベシ。

年度	1903-04	1904-05	1905-06	1906-07	1907-08	1908-09	1909-10
北部	536	411	567	525	351	810	560
中部	381	326	293	371	237	660	483
南部	276	159	116	193	75	224	191
	*	*	*	*	*	*	*

最近ノ報告年度中ニハ次ニ掲グル博士「ハンス、マイヤー」教授ノ探検ヲ除キテ他ニ主要ナル獨領東阿弗利加大探檢ハ行ハレザリキ、然レドモ吾人ハ漸次舊旅行ニ得タル豐富ナル學術的資料ヲ母國ニ於テ類別選擇シ研究編述シテ得タル主ナル調査ノ結果ヲ手ニスルコトヲ得ベシ、キリマンヂヤロ」研究ニ功績アル學者「ドクトル、ハンス、マイヤー」教授ハ一九一一年其第五次ノ獨領東阿探檢ヲナシタリ、氏ハ四半世紀前「カル、ペーテル」ガ最初ノ親在所ヲ創設シタリシ時已ニ阿弗利加ニ關シテ名ヲ知ラル功績ヲ立テタリ、此第五次旅行ノ眼目トセル所ハ「ルアンダ」及「ウルンヂ」ノ地理學的及經濟的調査ニ在リタリ、其東「ルアンダ」ノ中部橫斷旅行ノ最モ重要ナル地理學上ノ調査ハ從來世ニ知ラレザリシ湖水ノ發見ナリ、土人ハ此湖水ヲ「キハンデ」「キホンダ」或ハ「キホンゴ」ト呼ベリ、此湖ハ巨大ナル徑約二〇「キロメートル」ノ谷ヲ充タセリ、「マイヤー」氏ハ此新發見湖水ヲ唯丘陵地ニ侵入

シタル「カゲラ」ノ逆水ニ過ギズトナセリ、其委細ハ「チラー」大佐「ブコバ」經由ノ探檢旅行ノ調査報告ニヨリ詳ニセラルヘシ、「マイヤー」氏ハ伯林地學々會ニ於ケル講演中已ニ「キハンダ」湖ヲ以テ確カニ「カゲラ」ノ逆水ナリト斷言シタリ、此探檢者ノ重要ナル經濟上ノ觀察及其他獨領東阿經濟上ノ發展ニ關スル意見ヲ茲ニ絮説スルハ紙幅及本年報目的以外ニ屬ス

一九〇六年七年「ドクトル、フリッツ、エーゲル」氏監督ノ下ニ、北部獨領東阿ナル河流ノ出口ナキ地方ニ進入シタル政府ノ探檢隊ノ主タル調査ハ、已ニ美麗ナル二葉地圖ト成レリ、其一葉ハ三十萬分一ノ測尺ヲ以テ「エラムバ」「ニアラサ」湖「ウムブクウエ」及「ウフィオメ」ノ間ナル水ノ流出口ナキ沼澤土塊地ヲ示シ、他ノ一葉ハ前者ノ二倍大ノ測尺即チ十五萬分一ヲ以テ前者ノ一部分ヲ其儘ニ示セルモ、大ニ北方ニ擴張シ以テ大噴火口高地ヲ一目瞭然タラシメタリ、此地方ハ「形容線」ニテ更ニ同一ノ圖形ニ示サレタリ、此地理學的思想ニ成レル線形ハ「ニヤラササース」及「ラワヤ、ムウエリ湖(マンヤラ湖)ノ北方ニ於ケル高地ノ人目ヲ惹ク構造ヲ一目瞭然タラシム、「エーゲル」氏ハ又前述ノ湖水ノ南方ニ於テ人類ガ栖息シ耕作セル頗ル複雑ナル地方ヲ非常ニ留意シテ地圖ニ記入シタリ、故ニ此地圖ハ亦研究セラレタル地方ノ耕作ノ狀況ヲモ能ク之ヲ窺フコトヲ得ベカラシム。

獨領東阿ニ於テハ一九〇九年ニ四七ノ觀測所ニ於テ天候ヲ觀測シタリ、雨ニ乏キ地ハ中央ノ卓子地(「タボラ」ニ二九一耗降水量)、北東ノ「マサイ」草原、「マンヤラ」湖及「ナトロン」湖(「コンドア、イラン

キ、二六九、「キリマンチンデ四九二」、「ムバブア」三二四六、「ミリメートル」ト共ニ大「東阿運河」ヲ包含
 スル北東ノ水ノ流出口ヲ缺ケル地方ナリ、海岸ニ於テハ一、〇〇〇耗ノ雨量アリシ所ナク、「ダツスサ
 ラム」七八一、「バガモヨ」九一三、「キルワ」七〇六耗米)又「タンガンイカ」湖畔ノ地方モ亦一、〇〇〇耗
 ヲ有シタルモノナシ(「ウスムブラ」七三二、「ウチヂ」九〇〇、「カレマ」六三〇、「ムビムブウエ」五二九、
 「シムバ」六九六、「ビスマルクブルグ」六九三耗米)、「グイクトリア」湖地方ハ豊富ニ灌水セラレタリ
 (「ノエウイド」一、二二二、「ムアンサ」九二九、「ブコバ」二、二四二耗米)、「ルアング」モ亦同様ナリキ
 (「ルアサ」一、三九四、「イツサリ」一、〇〇八耗米)、「ニヤツサ」ノ河岸地方モ多雨ナリキ(「ノエラングン
 ブルヒ」二、〇四〇、「ルーテンガニオ」一、七一九、「タンダラ」一、五四九、耗米)、「最後ニ「ウサムバラ」山
 地(「アマニ」二、三八三耗米)及「キリマンジャロ、メル」地方(「モシ」一、二七一、「アルシャ」一、一〇三
 耗米)ヲモ忘ルベカラズ。

* * * * *

近來獨領南洋地方ハ各種ノ地理學的研究及探檢旅行ノ目標トナリ、五六年前ニ比スレバ之ニ關スル報
 告書ノ續出スルニ至レルハ喜ブベシ、「ノエギネア」ニ於ケル「カイゼルウイヘルムスランド」即チ獨
 領「ノエギネア」ハ從來獨領殖民地中最モ獨逸ガ探檢ヲ閑却シタル地方ナリ、此地方ガ地理學的、人

類學的ノ問題ノ多量ヲ包藏スルコトハ醫學博士「エル、ノエハウス」教授之ヲ指摘シタリ、氏ノ獨領「ノ
 エギネア」ニ關スル著書ハ行文上拙劣ニ最上級ノ形容詞ヲ使用シタルト、及内容ニ往々偏見ヲ挾メルト
 ニモ拘ラズ從來獨逸語ニテ出版セラレタル著書中ノ白眉トシテ推サル、今後モ尙ホ暫クノ間ハ此書ハ
 人類學上ノ觀察ニ對シ發見坑タルナラン「ノ」氏ハ亦獨領「ノエギネア」ノ地理ニ關スル報告ヲモナシ
 タリ、四半世期前ニ已ニ(一八八四年)此探檢者ハ南洋ニ永ク滞在シ而シテ一九〇八年十月下旬ヨリ一
 九一〇年六月ノ上旬マデ引續キ「カイゼルウイヘルムスランド」ニ滞留シ、海岸地方ヲ旅行セシノミ
 ナラズ各地點ニ於テ深ク内部ニ立入りタリ、第一ニ「ノ」氏ハ獨逸「ノエギネア」ガ港灣ニ富メル沿岸ヲ
 有セリテフ一般ニ信ゼラレタル說ヲ排斥シタリ、氏ハ此土地ノ確確ナルニ加ヘテ實際使用ニ堪ユル港
 灣ニ乏シキコトハ我國殖民地ノ發達ニ大障礙ヲ與フルモノナリト云ヘリ、「ベルリンハーフェン」及「ボ
 ツダムハーフェン」スラ季節良キ時ニ之ニ船ヲ碇泊シ且ツ荷卸シ得ルニ過ギザル憫ムベキ碇泊所ノ
 ミ、同地ノ所謂港灣ナルモノハ珊瑚暗礁アリテ之ニ接到ヲ碍グルカ或ハ海底ガ海岸ノ附近ニ於テ急劇
 ニ深ク陥没シ以テ碇ヲ定着シ難カラシム、唯英領沿岸附近ニ於ケル「アードルフ」港ノミハ良港灣タル
 凡テノ條件ヲ具備セリ、即チ此港ハ廣クシテ深ク、良好ナル投錨地底、使用シ得ベキ海岸ノ背後地及十
 分ナル風防障ヲ有セリ、近來政府ハ此所ニ停船所ヲ設ケ「シンガポール」ヨリ「ノエギネア」ニ航行スル
 汽船ヲ二ヶ月置キニ之ヲ過ギラシムルコト、ナシタリ。

偉大ナル中央ノ山體ハ原始岩ヨリ成ル、蘭領ヨリ見テ吾人ハ雪界ハ約四、五〇〇「メートル」ノ高サニ存スルヲ知ル、故ニ最高ノ山巔ハ五、〇〇〇米突以上ニ達スルナラン、即チ「アルプス」山ノ高サヲ超過スルコト猶大ナリ、高峻ナル地方ニハ從來未ダ進入シタルモノナシ、同様ニ「ピスマルク」諸山ト英領ノ境トノ間ノ地方ハ未ダ詳カナラズ、「カイ」半島ハ全面荒レタル山地ニシテ此諸山ハ我國ノ地圖ニハ從來餘リ低ク表ハシ居タルガ「ノ」氏ハ少クトモ二、〇〇〇米突ノ高サアリト云ヘリ、氏ハ又「ブカウア」ノ北方地方ニ於テ吾人ガ地圖ニ記入シタルモノハ凡テ空想的ニシテ誤謬ナルコトヲ指摘シタリ、又氏「マルクハム」谷ニツキ變更ヲ加ヘ且ツ補遺ヲナシタリ、ト部ニアル白堊ノ沈渣岩及昂起シタル珊瑚礁ハ「カイゼルウイルヘルムスランド」ノ北海海岸ヲ作レリ、昂起セル珊瑚礁ハ「クロシウエール」山ノ斜面ニ於ケル維廉王岬ノ周圍ノ地ニアリテ著シキ地壇ヲ形成セリ。

石灰石山及白堊山ハ洞窟ニ富ミ、其洞窟ノ一部ハ鐘乳石ヲ着ク、「フリードリツヒ、ウイルヘルム」港ノ附近及「ザツテルベルヒ」山ニ於ケルガ如ク甚ダシク夥多ノ洞窟アル所ハ他ニ決シアラザルベシ、「ノ」氏ハ洞窟ヲ以テ此地ノ地震ノ多キ原因トナセリ、砂丘ハ何所ニモ之レヲ見ズ、温暖ナル氣候ニ依リ僅少ノ時日中ニ繁茂セル植物ハ砂ヲ被覆シ以テ風ノ爲メニ砂ノ飛散スルコトヲ防グ、同原因ニヨリテ「ノ」ニギネア」ハ又殆ド塵埃ヲ見ズ、土地ハ到ル所粘土ニ富メドモ陶器ニ適スル種類甚ダ少キヲ以テ陶器ハ主トシテ外國ヨリ輸入ヲ仰グリ、各地方ニ於テ例ヘバ「ザツテルベルヒ」シツサス」地方ニ於テハ美

味ナル鐵氣ヲ含メル甘キ粘土アリテ土人ハ之ヲ嗜好品トシテ賞味セリ、此粘土ハ其味良カラザルニアラザレドモ何等營養上ノ價值ヲ有セズ。

「ケラ」半島（「バルシ」岬）ニ於テ海濱迄達セル往古ノ氷河ノ痕跡ヲ存セルハ驚嘆スベシ、「フランチスカ」河谷ニ於テ出來タル氷塊「ケラ」半島ノ北部ヲ流下シ、其途中ニテ散在セル可ナリ大ナル花崗岩塊ヲ拾上ゲ以テ海迄持行キタルモノノ如シ、「ノ」エハウス」氏ハ又此氷河ノ遺物ハ海上ニ高ク堆積シタレドモ數千年ヲ經過スル中ニ漸々沈下シテ磯トナリシニ非ズヤト云ヘリ、「フランチスカ」河ノ河口ヨリ南方約二十「キロメートル」ニ於テ「ノ」氏ハ海ニ接シテ粘土及砂ノ雜リタル巨大ナル岩塊ヲ發見シタルガ此岩塊ハ大ナル破片トナレル石英、雲班石、蛇紋石及其他此地ニ不似合ナル岩石ヲ包含シ居タリ、凡テ此等ノ發見ハ未ダ熱帶ノ附近ニ於ケル海濱ニツキテハ往古ノ氷河ニ關スル觀察ヲナシタルコトナキト、又今日迄他ノ探検者及旅行者ガ已ニ此地方ヲ旅行シタルモノ甚ダ多キモ氷河ノ痕跡ヲ觀察シタルモノナカリシトニ因リ、ソレ丈ケ世ノ注意ヲ惹ク價值アリ、此點ニツキテハ或ハ異常ニ強烈ニ作用スル熱帶地ノ腐蝕ノ一種特有ノ形態ガ誤認セラル、コトモアラン！何レニモセヨ兎ニ角「ノ」エハウス」自身モ亦考フル如ク如何ナル場合ニ於テモ精細ナル地質學的ノ探究ニヨリテ後始メテ所謂氷河ノ痕跡テフコトヲ斷定シ得ベキモノナリ。

土地ヲ卓子形ナラシムルニツキ、氷ノ作用ニ依ラズシテ水力ニ依ル腐蝕ガ専ラ作用シタル、「カイゼル

ウイルヘルムスランド」ニ「熟シタル」山岳地テフ語ガ當レルヤ否ヤ、熱帶ニ於ケル腐蝕ノ作用ハ特ニ迅速ニ働クモノナルヲ以テ疑ヲ存セザルヲ得ズ、「成熟シタル山地」^{ライフエグゼヒルグ}「強食セル平原」^{フアストゴイベチ}ト云フガ如キ形態學ノ近世語ヲ用ユルニハ甚ダ注意セザルベカラズ、何トナレバ此等ノ語ハ唯全然標本的ノ例ニノミ使用シテ不可ナキノミナレバナリ、又「ノエギネア」ガ著シク湖水ニ乏シク且ツ瀑布ノ稀ナルコトハ「成熟シタル山地」ナル範圍内ニ適合スルカ如シト雖モ、此ノ如キ現象ハ「成熟シタリテフ前提」ノ助ヲ借ラズシテ猶十分ヨク説明シ得ラザルニアラザルベシ、「ノエハウス」氏ノ云ヘルガ如ク「カイゼルウイヘルムスランド」ニ於テハ吾人ノ古キ大地ノ鞏固ニ對スル信賴ヲ喪フ、蓋シ歩行毎ニ地震ガ跟隨スレバナリ、此地ニハ多クノ地震ノ中心ヲ擧グルコトヲ得ベシ、即チ例ヘバ「ザツテルベルヒ」、「ヒンシハーフェン」ノ附近及「ホウオン灣」ナル「サモア」港ノ周圍等ナリ、地震ノ中心ノ周圍ニハ遠近河レニモ活火山ヲ見ザルモ、惟フニ其餘波ヲ全然遮斷シ得ル程非常ニ遠ク活火山ト離隔シ居ラザルナルベシ、「ザツテルベルヒ」ニ於テハ平均一週ニ一度ノ地震ヲ計ル程頻繁ナリ、大地震ハ歐洲迄波動ヲ及スコトアレドモ被害ソノモノハ主トシテ廣キニ及バズ。

「カイゼルウイヘルムスランド」ニ於ケル諸河流中最モ大ナルモノヲ「アウグスタ」河トナス、其水量略ホ我ガ「エルベ」河ニ匹敵セリ、二十餘年以前ヨリ此ノ河舟筏ヲ通ジ得ルコト及其河岸ニ能ク移民セラレタル大平原アルコトガ知ラレタルニモ拘ラズ、漸ク今日ニ至リテ始メテ「アウグスタ」河ハ經濟

的及學問的開發ノ領域内ニ入ルコトヲ得タリ、此河ハ實ニ不知案内ノ土地ニ入ル立派ナル關門ノ一タリ、此河ノ支流ニツキテハ吾人何等ノ知ル所ナシ、「アウグスタ」河畔ニハ栽培ニ關シテハ遙カニ「バブア」人ヲ凌駕セル比較的稠密ノ「甚ダ伶俐ナル」人民住居セリ、「ノエハウス」氏ハ此地方ヨリ出デタル人種學上ノ標本ニツキテ「ノエゼーランド」ニ於ケル「マリオン」人ノ彫刻ト珍シクモ一致セル點ヲ發見シタリ。

「ノエギネア」ノ土人ハ自身ニ對シテモ其國土ニ對シテモ一般ニ通用スベキ名稱ヲ知ラズ、「バブア」ナル語ハ何ノ意味ナルヤヲ知レルモノナシ、然レドモ是レ馬來人ガ「ノエギネア」ノ住民ヲサシテ呼ベル侮蔑ノ名稱ナルガ如シ、「ノエギネア」ニ於テハ言語ノ差異ヲ作り而シテ頑固ニ之レヲ把持スル強キ慣習アリ、然レドモ又言語ノ紛雜甚シキヲ以テ相互ノ交通ヲ便利ニスル爲メ土人ハ最モ簡單ナル方法ヲ採リ其子供ヲ交換ス、此子供等ハ隣地ノ外國語ヲ十分ニ學習セルトキニ其故郷ノ村ニ歸來シテ通譯者トナリ兼テ交通ノ媒介者トナル、即チ歐洲ニ於テ文明ノ最近ノ進歩トシテ賞揚セラレ、方法ヲ「バブア」人ハ已ニ數世紀以來實行シ居レリ、「バブア」語ハ直覺的ニシテ比喩的ナリ、即チ例ヘバ「バブア」人ハ何カヲ尙ホ未タ了解セザルコトヲ言現ハサント欲スルトキハ次ノ如ク言フナリ「予ハ尙ホソレヲ手ニ持チ、未ダ之ヲ網隠袋ニ入レズ」ト

「ノエハウス」氏ハ其特有ナル人類學研究ノ領域ニ於ケル主要ナル問題即チ「ノエギネア」ニ於ケル侏

儒問題ヲモ説明セリ、氏ハ往昔ノ住民ニツキテスラ材料ヲ蒐集シタリ、氏ノ「バブア」人ノ法ノ觀念ニ關スル講究ハ白人ヲシテ此蠻人ノ取扱振ヲ變更セシムルニツキ大ニ參考トナルナラン、而シテ氏ハ數々政府ニ「カイゼルウィルヘルムスラント」ニ於テハ將來彈丸ト硝藥トヲ用ユルコトヲ力メテ避ケザルベカラザルコトヲ勸告シタリ、然レドモ多クノ他ノ者ノ意見ニ依レバ政府ハ此點ニ付テ從來十二分ニ鉛ト火藥トヲ使用スルコトヲ慎ミ居レリト。「ノ」氏ハ從來頗ル恐怖セラレカル蠻地「レー、ウオムバ」ニ自ラ進ミ入ルコトニ依リ土人ノ取扱ニ關スル美シキ實例ヲ示シカリ、「アウグスチン、クレーメル」氏及其他ノ人々ガ熱心ニ唱道セルト同様ニ、氏モ亦歐洲人が土人ニ衣服ヲ着用セシメントスル意見ニ反對セリ、何トナレバ彼ノ地ノ氣候ノ下ニ在リテハ何か衣服ヲ纏ヘバ其爲メニ却テ土人間ニ疾病ヲ進ムルニ過ギザルベケレバナリ。

「ノエギネア」ノ原始林ハ鳥類ニ豐富ナルモ哺乳動物ニ乏シ、其原因ハ之レヲ陸蝨ノ災厄ニ歸スベシ、蓋シ山地ニ登レバ登ル程益々陸蝨ハ猖獗トナリ、無慮數百萬匹地ヲ蔽ヒ人類ノ立入ルヲスラ大ニ障礙スレバナリ、蝶類ハ瑰麗ニ發達シ「ゴリアート」蝶及他ノ巨大ナル鱗翅類例ヘバ「ブリアムス」ハ其飛行甚ダ迅速ニシテ且ツ靜肅ナルヲ以テ著ハル、初メテ之ヲ見タル者ハ鳥ノ飛行ト謬ルナルベシ。

土地ノ膏腴ナルコトハ「ヤムス」芋ノ球莖之ヲ證明ス、此球根ハ特ニ良ク生成シタルモノハ半「チェン」トネル」ノ重量ニ達ス、「ヤムス」ニ並ビテ種々ノ「タロオ」芋ガ黑人ノ重要ナル食料ヲ成ス、大河ノ河畔椰子ノ栽培ハ最モ有望ナリ。

一九〇八年九年ニ漢堡科學協會ハ專ラ人種學上ノ目的ヲ以テ南洋探檢ヲナシタリ、先ツ探檢隊ハ最初北方ノ諸島即チ「ザンクトマチアス」「セントマシアス」「エミラウ」「スクオーリーアイランド」「テ」ニ「ノエギネア」ノ各地ヲ探檢シタリ、此探檢隊ニ同伴シ數多ノ見取圖及圖書ヲ持チ歸リタル畫工「ハ」ンス、フオゲル」氏ハ探檢ニ實驗セル所ヲ記シタリ、此旅行記ハ地理學上何等ノ新事實ヲモ寄與セザレドモ經妙ニシテ興趣ヲ引キ且ツ其圖說甚ダ佳ナリ、此書ハ殊ニ其木炭筆ヲ使用シテ強ク表現セル新技術ノ圖說ニヨリテ讀者ニ最モ愉快ナル印象ヲ與フ、其少許ノ線ヲ以テ多クヲ現ハセルノ點ハ人ヲシテ漫ロニ「フオン、リーベルマン、コリン」及「スレフォグ」等ガ創始シタル繪畫ノ如キ新シキ插畫ノ技術ヲ俾バシム「フオゲル」氏ハ此書ニヨリテ此手法ハ又未開人社會ニ「ケル」耕牧ノ狀況ヲ表現スルニ甚ダ恰適セルヲ證明シタリ、氏ハ亦多クノ南洋旅行者ノ云フガ如ク南洋ノ島人が憫レニモ滅亡ノ運命ヲ有スルヲ記シタリ、人民ノ一部ハ疾病ノ爲メニ亡ビ他ノ一部ハ文明ノ競争ノ犠牲トナルナ

リ、歐洲人ノ開拓ハ歩一步進ミツ、アリ、而シテ歐洲化ハ即チ新地方ノ開發ヲ意味スルト同時ニ舊文明ノ迅速ナル衰滅ヲ意味ス、多クノ博物館或ハ圖書館ニ於テノミ、南洋ノ滅亡シ且ツ世人ニ忘レラレタル原始住民ノ俤ヲ見ルコトヲ得ル時ハ、遠カラズシテ到來スルナラン

「ノエギネア」ニ於ケル獨蘭境界委員ノ一行ノ目的トセル主タル調査ハ「アウグスタ」女皇后一名「セビツク」河ノ調査ナリキ、此河ハ九六〇基米突ノ長サノ水路ヲ調査セラレタリ、「セビツク」ノ未詳ナル源泉地ハ「ヴィクトル、エマヌエル」山ノ南方ニ在ルモノ、如シ、此調査旅行ニ於テ少クトモ三四ノ重要ナル諸點ガ定メラレ而シテ之ヲ基礎トナスコトヲ得タリ、此基礎ニ依リ少カラザル費用ヲ要スレドモ「アウグスタ」女皇后ノ上流中央ノ高山及其丘陵地ヲ探討シ得ルナラン、汽船「コロニアールゲゼルシャフト」ニ搭ジタル獨領「アウグスタ」女皇后新探險隊ハ此問題ノ解決ヲ吾人ニ提供センコトヲ切望ス、和蘭ノ探險者ニハ猶其下流ニ於テ一部分ハ獨領及蘭領ノ間ノ新境界ニ基礎ヲ與フル^{ウレキルツム}回歸河川ナル「ケローム」河ノ未詳ノ部分ヲ確定スベキ重要ナル任務アリ、「ケローム」河ノ河谷ハ如何ニシテモ蘭領「ノエギネア」ノ北半部ノ入口ノ關門ヲナスモノトシカ思ハレザルナリ、和蘭探險隊ノ護衛隊長「エフ、ジエ、ビー、ザクス」大尉ハ「ペーテルマン」ノ報告書ニ於テ（一九一一年）獨蘭境界委員ノ一九一〇年七月八日乃至一月二二日ノ旅行ニ關スル一覽地圖ヲ公ニシタリ、獨逸側ニ於テハ博士「レオンハルド、シウユルツエ」教授ガ此探險ニ參加シタルコトハ已ニ本書ノ第四卷ニ於テ報道シタリ、

「ドクトル、カル、サツバト」教授ト同伴シ旅行シタル「ドクトル、ゲオルグ、フリードリチ」氏ハ獨逸南洋諸島ニ關スル暢達ナル文章ヲ「ストラースブルヒ地學及拓殖協會々報」ニ掲ゲタリ、先ヅ氏ハ諸島ノ一般地理的外觀ヲ叙シ、次ニ特ニ南洋各諸島ガ自然ノ影響ニヨリテ其種類ヲ別異ニセル點ヲ指示シ、最後ニ植物界及動物界ニ付キテ其觀察セル所ヲ概括シテ略述シタリ。

氣象觀測所ハ一九一〇年ニハ四二ニ増加シタルガ測定ハ數々之ヲ缺如シタリ、「ノエギネア」ニ於テハ一九一〇年ニハ前年ニ比スレバ降雨量少カリキ、已ニ本書第四卷ノ報告ニ於テ「ウイルヘルム」王岬附近ノ「シアルム」觀測所ノ小雨ヲ示シタリ、一九一〇年ニハ雨量ハ一、〇〇〇耗以下（詳クハ、九一〇耗）ナリキ、是レ「ノエギネア」トシテハ稀有ニシテ且ツ驚クベキ現象ナリ、又「ザツテルベルヒ」觀測所モ唯二、六八〇耗ニ達シタルノミ、然ルニ「ダインチエル」高地ハ四、三六八「アルコナ」岬ハ三、九三三「ヒンシ」港ハ三、〇五九、エリマ港ハ三、〇三四耗ナリシモ、其他ニアリテハ「ノエギネア」ノ何レノ觀測所モ三、〇〇〇耗ニ達シタルモノナカリキ、又「ガチエルレ」半島ニ於テハ一年ノ雨量ハ平常ヨリ八〇〇乃至一、〇〇〇耗丈ケ少カリキ、佛領諸島ニ於テハ降雨ハ平常ニシテ且ツ多カリキ、「ペーテルハーフエン」三、二八二、「ガロウエ」島ナル「ラマ」三、二八九、「ウネア」島ノ「バリ」三、九九二耗）「マリヤネ」及「カロリネ」諸島ニ於テハ降雨ハ平常ナリシガ如シ（「サイバン島ナル」ガラバン」二、〇二四、「バラウ」三、六九四、「アングウル」二、七七七耗）、東「カロリネ」ニ於ケル「クサイー」ハ五、九八三耗ニシテ獨

領ナル東洋ノ凡テノ多雨ノ地中第一ノ降水量ヲ有スルナリ。

「タヒト」人ノ該ニ曰ク「珊瑚ハ成長シ、椰子ハ増殖ス、併シ人ハ別レザルヲ得ズ」ト予モ亦猶報告スベキ地理的ノ事實ナキニ非レドモ今ヤ予ノ報告ヨリ辭去セザルベカラズ。

又我國植民地ニツキテ多少編述シタル刊行物ハ一年ソノ數及範圍ヲ増加セリ、能クカ、レタル雜誌「殖民地及故郷」社ガ發行シタル繪入ノ著述「獨領殖民地旅行記」ハ將ニ膠州ニ關スル第六卷ノ編述ヲ了ラントシツ、アリ（第一卷獨逸南阿弗利加、第二卷「カメルン」第三卷「トウゴオ」第四卷獨逸南西阿弗利加第五卷南洋）、一九一〇年伯林ニ開カレタル獨逸拓殖會議ノ討議ノ際予ハ獨逸ノ拓殖地圖ヲ作ルコトニツキテ報告ヲナシ且ツ其發達ヲ説明シ、加之又其調製ノ方法及將來ニ對スル調製ノ目的ヲモ説明シタルガ、當時予ハ自身ソノ説明セル計畫ノ一部ヲ早クモ實現センコトヲ信ゼザリキ、何トナレバ其後間モナク獨逸拓殖會議ノ議長ヨリ予ハ予ノ述ベタル計畫ニ從ヒ獨逸植民地ノ經濟地圖ヲ調製スルコトヲ囑託セラレタレバナリ。

我國ノ植民地ニツキテ各方面ニ互リ且ツ更ニ深キ智識ヲ我國人ニ普及セシムル爲メニ予ハ進テ其勞ニ服シタリ、猶本年中ニ（聖靈降誕祭）此「アトラス」ハ發行ニ着手セラル、ナラン、予ハ予ノ地理學ニ關シ及地圖ヲ作製スル學問ニ關シテナセル講演及著述ニ於テ已ニ年來把持シタル主義中ノアルモノヲ實現スベキ時機ニ際會シタリ、予ハ經濟地理的地圖ヲ文章ヤ言語ヲ以テ填充シ過グルコトニ反對シテ已ニ數次之ヲ攻撃シタルコトアルヲ以テ、予ハ新地圖ニ於テハ性質上一緒ニ屬スベキ事物（食料及嗜好品、纖維植物、「ゴム」、脂油植物、礦物等）ヲ如何ニ分類シ而シテ地圖調製上之レヲ如何ニ嵌込ムベキカラ一目瞭然タラシメント力メタリ。

地圖ノ他又予ハ數多ノ圖解的「一覽圖」ヲ計畫セリ、此圖解ノ描畫ニツキテハ常ニ發達ノ列次ヲ示スベク而シテ總圖解ヲ互ニ比較シ得ルヤウニ作ルコトヲ力メタリ、此種ノ比較ヲ得ルモノヲ調製セント欲スル者ニトリテハ確カニ僅少ノ勞力ニアラザルベシ、然レドモ予ハ教授ニツキ諸方面ヨリ得タル經驗上此方法ニ依リテノミ經濟上ノ箇々ノ事項ニツキ又概括的ニ我植民地經濟上ノ發達ニツキ其重要ノ程度ニ關シ深遠ニシテ且ツ實用ニ供セラルベキ觀念ヲ與ヘ得ベキコトヲ信ズル者ナリ（一九一一年二月九日終稿）

第三 一九一一年獨逸植民地ノ現在

「ケーニツヒスベルヒ」教授ドクトル、マクス、フライシマン

獨逸植民地ハ其領域二六三、〇〇〇方「キロメートル」ヲ増加シタリ、即チ一九一一年十一月四日ノ獨逸條約ハ「カメルン」ニ於ケル我植民地ヲシテ「バイエルン」王國ノ三倍半ニ當ル廣袤ヲ擴張セシメタリ、此領域ノ割讓ハ外交的駭引ヲ經タルガ外交的冷靜ノ下ニ行ハレシニアラズシテ獨逸人民ノ飛耳張

目、容喙窘迫ノ下ニ行ハレタリ、吾人ハ從來未ダ曾テ平素拓殖ニ冷淡ナルニ非レバ即チ拓殖ヲ疎外セントセル黨派社會ニ迄モ此ノ如キ興奮ガ及ベルヲ見タルコトナシ、此割讓ニ對シ満足セルモノハ、單ニ哩數ヲ計算スル者ノミナラン、獨逸人民ノ緊切ノ必要益々増加シ獨逸人民ノ土地ニ到スル慾求、世界ニ互リテ膨脹スル巨萬ノ人口ヲ有スル國家ニハ海外ニ於ケル殖民地タリ得ヘキ部分ハ殆ド分割セラレタリ；ハ必シモ満足スルヲ得ザルナラン、今ヤ世界ニ於ケル殖民地タリ得ヘキ部分ハ殆ド分割セラレタリ；獨逸國民ハ今ヤ進テ拓殖ヲナスベキ時機ニ達シタリ、吾人ハ茲ニ損失ヲ歎セザルベカラズ、吾人ノ所謂損失トハ佛國ト交換スベキ土地其モノヲ指スニアラズシテ却テ將ニ其效果ヲ擧ゲントスル正當ナル期待ノ拋棄ヲ云フナリ、又此交換ト事實上ノ因果關係アルヲ以テ、國民ガ其就任ニ際シ歡迎ニ過ギ辭任ニ際シテ冷淡ニ過ギタル拓殖務大臣ヲ失ヒタルコトモ亦此損失中ニ算入セザルベカラズ、是レ拓殖務省ノ獨立ニ關スル換言スレバ拓殖務省ガ外務省ト頑頑シ得ルヤ否ヤニ關スル最初ノ試驗ナリキ、而シテ此出來事ハ實ニ他ノ省ト協戮シ並ニ對抗スル獨立ノ拓殖中央官廳ノ必要ヲ示シタリ、ナル程佛國ノ請求ノ説明ニツキテハ吾人ハ、一九一一年ノ秋ニ於ケル政治上ノ狀態ガ其眞想ノ明カニセラレタル後ニ初メテ合點シタル如キ有力ナル贊同ヲ拓殖務省ニ與フルヲ得ザリキ、吾人ガ専ラ或ハ主トシテ拓殖上ノ行動自由トシテ考フルモノハ政治的世界問題トナリタリ、其劈頭第一ノ問題ハ數年以來ノ吾人ノ耳目ニ熟シタル表題ヲ有セリ即「アルゲチラス」條約是レナリ。

外交上ノ立場ヨリ：：巧妙ナル形式ニ於テ該協約ノ骨子ハ初メテ徐々ニ見ハレ來リツ、アレドモ猶未ダ呈露スルニ至ラズ、然レドモソノ被覆ヲ脱セバ：：勿論各國民ノ經濟上ノ權利ノ平等、及商業ノ自由ハ前諸條約ニヨリテ變改セラレズテ前提ノ下ニ：：佛國ノ「十分ナル行動ノ自由」外國ニ於ケル「マロツコ」ノ代表ニ外ナラザルナリ、此前提ハ佛モ亦ソノ「尊重」ヲ約シタリ（第四條）新港灣ハ開カルベク鐵礦ノ輸出ニハ何等ノ課稅ヲナサザルベク、箇々ノ者ノ利益ノ爲メニ礦業稅ヲ免除セザルベク、交通機關ノ使用ニツキ何等差異ヲ附セル取扱ヲナサザルベシ、佛國ガ「マロツコ」ニ於テ此優秀ナル權力ヲ得タル「代償」トシテ我國ハ中央阿弗利加ニ於ケル土地ノ交換ヲナシタルナリ、

我國ハ此際一九〇八年ニ已ニ其一部分タル南東地方ヲ佛國ニ引渡シタル所謂中流地トテ「ロゴネ」河ト「シヤリ」河トノ中間ニ在ル土地ヲ全部佛國ニ讓與シタリ、我國ハ之ニ因リテ人口稠密ナル土地（住民一〇〇、〇〇〇）一二、〇〇〇方「キロメートル」即チ其廣袤殆ド「メツクレンブルグ、シウエリン」大侯國ト相如ク領域ヲ失ヒタリ、此代リニ換ヘ得タル土地ハ政府ノ調査ニヨレバ二七五、〇〇〇方「キロメートル」ナレドモ其人口ハ僅カニ一百萬ヲ數フルノミ、此土地ニ關シテハ意見區々タリ、其主タル特質物産ハ或ハ徑ヲ通ゼザル原始森林及沼澤、毒蠅及睡眠病ナリトナスモノアリ、或ハ象牙及護謨、棉花、牛馬牧畜ナリトナスモノアリ、孰レモ誇張ニ過グルガ如シ、土地ノ區分ハ次ノ如シ即チ「カメルン」ノ東境ハ之ニヨリテ約緯度八度迄東「ロゴネ」河畔ニ推進セラレ、而シテ南方ニ甚シク延長シテ赤道ヲ

超エ約緯度一度マデ「サンガ」河身ヲ包ミテ「コンゴ」河ニ接シ、「コンゴ」河ニ沿フテ長サ六一一二「キロメートル」ヲ有ス、新東境ハ其中程、即チ北緯四度ニ於テ「ウバンギ」河ニ接近スベク、東ニ向テ急ニ突出セル横嶺ヲ同様ニ六一一二基米突ノ廣サ丈ケ有セリ、地圖ヲ一覽セバ境界ニツキテ多クノ奇異ノ現象ヲ見シ「スバニツシ、ギネア」ノ包括ハ東及南ニ向フ彼ノ二箇ノ尖端ニ比スレバ注目ヲ惹カズ、此尖端ハ「カメルン」本土ヨリ稍突飛ニ突出シ、直チニ佛國ノ土地ヲ中間ニ抱キ更ニ接合セントセリ、佛人ガ此尖端ヲ「海老ノ缺」ト稱スルハ宜ナリト謂フベシ。

獨佛協約ハ事情上必然ノ結果ニシテ、而シテ其理由ヲ餘リ明々白々ニ呈露セリ、畢竟該協約ハ特定ノ利害ヲ共通ニセルヨリ、相互ニ差引ヲナシ以テ利益ヲ互ニ障害セザルヤウニセンコトヲ希望シタルニ外ナラズ、故ニ獨逸政府ハ「ウバンギ」河ニ沿フテ架設セル佛國ノ電信線ヲ中途ニ於テ障礙スルコトヲ欲セズ、佛國ハ獨逸政府ニ「追テ定ムベキ條件ノ下ニ自由ニ之ヲ使用スルコトヲ許諾セリ(六條)、獨逸政府ハ佛國政府ガ獨逸領域ヲ過リテ鐵道ヲ「ガーン」及中部「コンゴ」トノ間、及中部「コンゴ」ト「ウバンギ、シヤク」トノ間ニ延長セント欲スル時ハ之ニ何等故障ヲナサルベシ(併シ獨逸政府ハ其領内ニ於テ此工事ニ參加シ得ベシ)、佛國政府ハ若シ獨逸政府ガ現ニ「カメルン」ニ在ル鐵道ヲ佛領ヲ過リテ延長セント欲スルキハ之ニ何等故障ヲナサルベシ(併シ佛國政府ハ其領内ニ於テ此工事ニ參與シ得ベシ)(第七條)、獨逸政府ハ「コンゴ」「ウバンギ」「ベヌエ」「マヨケビ」及「カメルン」ノ北部ニ於

テ布設スベキ鐵道ニ於テ佛國軍隊ノ通過、其武器及彈藥並ニ軍隊ノ給養ニ供スル貨物ノ輸送ヲ防碍スベカラズ、佛國政府ハ同上諸河川ニ對シ、及海岸ヨリ「ブラツツアヴィル」ニ或ハ敷設セラル、コアルベキ鐵道ニ對シ同様ノ義務ヲ負フ(第十三條)、獨逸政府ハ佛國政府ニ「特別ノ協約ニ於テ定ムベキ條件ノ下ニテ」「ベヌエ」及「マヨヘビ」ニ沿ヒ更ニ進テ「ロゴネ」ニ至ル方向ノ土地ニシテ兵站道路ヲ設クルニ用ユル土地ヲ貸與スベシ、而シテ若シ佛國政府ガ將來「マヨケビ」ノ南方或ハ北方「ベネエ」及「ロゴネ」ノ間ニ道路或ハ鐵道ヲ設ケント欲スルトキハ獨逸政府ハ之ヲ妨グルコトナカルベシ(第八條)、更ニ進テ兩國ハ「兩國ノ中央阿弗利加ノ領地ニ於テソノ親善ヲ鞏固ナラシムル爲メ」共同ノ舟航ニ供セラル、水路ニ沿フテ城砦ヲ設ケザル義務ヲ負フ(第九條)、茲ニ云フ水路トハ「コンゴ」河及其支流並ニ「ニガ」河ノ支流ヲ指ス(第十二條)、此ノ如キ自己ニ加ヘタル制限ハ獨逸人ヲシテ漫ニ祖國ガ敗殘ノ餘分裂シタル當時ヲ想起セシム、此點ニツキテ各殖民地國ガ拓殖關係ニ於テ協戮スルコトヲ明カニ定メタリテフ政府ノ覺書ノ指示スル意義ハ必シモ妥當ナラザルナリ。

外交官ノ任務ハ猶未ダ終了シタルニ非ズ何トナレバ更ニ數多ノ協約ヲ留保シ置キタレバナリ、終了セリト考ヘ居ラル、モノニツキテスラ猶ホ未了ノモノナキニ非ズ、已ニ「コンゴ」河ノ島嶼ハ孰レノ國ニ歸屬スルヤニツキテ疑義ヲ生ジタリ、此點ニ關シテ境界ガヨリ明白ニ定メラレザリシハ遺憾ト云フベシ、條約ニ於テ「コンゴ」河ノ右岸及「ウバンギ」河ノ右岸ガ境界ナリト云ヘルハ、ソノ意味ニ從ヘ

是レ「コンゴ」ノ水流及「ウバンギ」ノ水流ハ右岸ヨリ計算セラレタルモノト考ヘラレザルベカラズ、此兩河川ハ舟航シ得ベキヲ以テ例令八一九〇八年四月一八日ノ「カメルン」ニ關スル舊條約ニ明白ニ認メラレタルガ如ク各河ノ流床ガ境界ト認メラルベキコトヲ豫想シ得ベシ、此條約ハ當時帝國拓殖務省ガ佛國全權ト談判ノ調書ニヨリテ之ヲ確定シタリ、此調書ハ已ニソノ第一條ニ於テ屢々島嶼ニ於ケル主權ニ言及セリ、次ニ其補遺ニ於テ曰ク：「河川ガ境界トナル場合ハ常ニソノ流床ヲ以テ境界トス、但シ本來ノ流床不明ナル場合又ハ淺瀬ニ於テハ、河床ノ中央ヲ以テ境界トナス、其他境界ハ島嶼ノ領域ニ於テハ此方側ノ岸及島ト同一ノ國ニ屬セザル岸トノ半途ノ間ニ劃セラル」(第四條)、第四條ノ定メタル流床ガ境界ヲ劃ステフ一般規定ニハ例外ヲ設ケ、兩當事政府ハ後ニ至リテ兩國ノ沿岸住民ノ利益ノ爲メニ當該河川ノ占有ノ整理ガ此原則ト異ルコトヲ希望スベキヲ明カナルトキハ、其地方ニ於ケル兩國行政機關ノ共同ノ建言ニヨリ正理ニ基キ、之レニ對應スル補償ヲ出シテ占有ノ更定ヲナス權利ヲ留保ストナシタリ(第五條)、此ニ規定ヲ存セザルモノニ付テハ、直チニ流床ガ境界ヲナステフ國際法上ノ規定ナキヲ以テ河川ノ中央ヲ以テ境界トナサザルベカラズ、一九一一年一月七日ノ條約締結ニ全權ヲ有シタル政治家ハ條約自身ニ於ケル缺陷ヲ「覺書」ニ於ケル宣明ニヨリテ補充セント欲シタリ、覺書ニ依レバ協約ノ施行ニツキテハ「カメルン」及佛領「コンゴ」トノ間ノ境界ニ關スル一九〇八年四月一八日ノ獨佛協約ノ調書ニ規定シタル(議會記錄一一五九號)原則ヲ基礎トシタリ、然レ

ドモ佛國ト白耳義領「コンゴ」ト協定シタルモノガ猶問題トナルベシ、何トナレバ獨逸ハ單ニ佛國ノ權利ヲ繼承シタル者トシテ「コンゴ」國ノ隣接者トナリタルヲ以テナリ、「コンゴ」河ノ中ニ在ル島嶼ハ河流ノ以內ニ劃スベキヲ境界線ニ依リテ區分セラレザルベカラズ。

更ニ又問題ガ條約ノ第五條ヨリ起ル、即チ兩國ノ政府ハ一國ノ政府ノ承認シタル公私ノ特許ヲ尊重スル義務ヲ負フ「特許」ナル語ハ獨逸ニ於テハ耳目ニ慣熟シ又佛國ニ於テモ使用セラル、稀ナリトセズ、適當ニ之レヲ整理スルハ國際法上ノ急所ト謂フベシ、何トナレバ該整理ハ引續キテ佛國ヲシテ佛國ガ許與シタル特許ノ尊重ニ關シ、我國ト關涉セシムルコトアリ得ベキ端ヲ開ケバナリ、吾人ハ事ノ平滑ニ運バンコトヲ望ム、覺書ニ依レバ佛國政府ハ已ニ一九一〇年及一九一一年ニ此ノ如キ會社ノ多數中「ソゴ、サンガ」會社及「サンガ、ウバンギ」森林會社丈ケ特許會社タルベキコト同意スルニ至レリ、而モ此特許ハ渾クモ一九一九年ニ其期間滿了スベシ、特許ハ主トシテ護謨ニ關スルモノニシテ礦物ニ關スルモノナシ、森林會社ハ兎ニ角佛國ニ年々約一七〇、〇〇〇「フラン」ノ借地代及其他猶純益ノ一五「パーセント」ヲ支拂ヒタリ。

此ノ如キ國際法上及殖民地法上ノ爭點ノ外ニ又此境界整理ノ全部ノ行爲ハ國法上ノ問題ヲ隨伴セリ、獨逸皇帝ハ殖民地ノ幾部ヲ割讓スル權能ヲ有セルヤ、單ニ境界訂正ノ問題ニ止ル限ハ殖民地ニ於テ數量的ニ可ナリ大ナル土地ノ交換ヲナスコトアリトモ、ソノ權能ノ有無ニツキテ世ノ視聽ヲ動カスコト少カ

ラン、強辯ハ必ス後ニ至リテ反駁セラル、ヲ常トス、故ニ此點ニツキテ法理上紛糾セル問題ニ立入ルノ必要ナシ今ヤ理論ハ黑白截然トシテ明カナリ、即チ皇帝ハ殖民地ヲ勝手ニ讓與スル權能ヲ有セズト認ムベキナリ、殖民地保護權ハ單ニ殖民地領域内ニ於ケル統御ノ能力ヲ皇帝ニ與フルニ過ギズ、殖民地ソノモノヲ自由ニ處分スルヲ得ズ、又帝國憲法ニ依レバ處分權能ハ殖民地ノ獲得ト同時ニ終了スルナリ、帝國議會ガ已ニ十一月四日ノ復條約ニ同意ヲ與ヘタル後ニ於テ本件ハ此點ニ關シ進デ追及セラル、コナカルベシ、然リト雖モ議會ノ殆ド凡テノ大政黨ノ提出シタル議案ハ、殖民地ノ處分ハ法律ノ形式ニ於テノミ之ヲナスベキヲ要求シタリ、予ハ一々ソノ提案ノ内容程度ヲ吞込マザレドモ、提案ハ凡テノ疑義ヲ排除スルヲ其根本ノ目的トナシタリ。

「スバニツシ、ギネア」ニ對スル期望ノ滿サレタル程度次ノ如シ、佛國ト獨逸トノ條約ニツキ交換シタル覺書ニ於テ「若シ獨逸ガ西班牙ヨリ「スバニツシ、ギネア」ノ「コクスコ」島及「エルベ」島ヲ獲得セント欲スル場合ハ佛國ハ進デ獨逸ノ利益ノ爲メニ一九〇〇年六月二七日ノ佛西條約ヨリ生ズル優先ノ權利ヲ拋棄スベシ」テフ旨ヲ明言シタリ、是レ勿論此領域ヲ獨逸ニ割讓センヲ強要セント欲スルニアラズ寧ロ獨逸ハ佛國及西班牙ガ相互間ニ「マロツコ」ニ關シテ締結スルコアルベキ特別ノ協約ニ參加スルヲ欲セザル旨ヲスラ表明シタリ。

「キウ」湖畔ノ境界ニ關シテハ昨年ノ報告ヲ參照セラルベシ(七八頁)此協約ハ一九一〇年八月一日ノ日附ヲ有シ而シテ—英國ヨリニアラズシテ—白耳義ヨリ批准セラレタル後一九一一年帝國官報(八七五頁)ヲ以テ公布セラレタリ。

一九一一年ニ於ケル此他ノ領域擴張ハ當然ノ跡始末ノ形式ニ屬スルノミ、今日ニ於テハ殆ド一顧ノ價値ナシ、是レ本來已ニ南西阿ガ我國ノ領有ニ歸シタル以來ノ懸案ニシテ「ワヒルツシ、バイ」ノ南境ニ關スル爭議タリ、而シテ此爭議ヲ生ズルニ至リタルハ境界記載ノ不備ニ因レリ、今ヤ西班牙ノ任命シタル、「セナトオル」ブリダ」ハ仲裁々判官トシテ英國ノ見解ヲ正當ナリト判決シタリ、其理由ノ詳細ハ判決ニ添附シアリ、泰山鳴動シテ出テタルハ鼠「ナミツブ」本部ニ於ケル八五方基米突ノ土地—一疋ナリキ、南西阿弗利加及「アンゴラ」間ノ境界整理ニ關スル準備ハ「クネネ」及「オカワソゴ」間ノ連絡)獨逸側ガ之レヲ成シタリ。

最後ニ膠州ニテハ境界ノ確定ニツキ獨逸支那委員ニヨリテ已ニ全體ニ境界標石ガ立テラレ且ツ六二方基米突ノ周縁ニ於テ境界濠ガ掘ラレタル程ニ進歩シタリ。

第四 一九一一年獨逸殖民地經濟

「ケーニツヒスベルヒ」教授ドクトル マクス、フライシマン

經濟的及法律的事情ハ説明ヲ加ヘズトモ數箇ノ數字ニヨリテ其概要ヲ窺フヲ得ベシ。

阿弗利加殖民地ノ總商取引ハ一九二〇年ニ於テ一億九千五百萬麻克ヲ算シタリ即チ次ノ如シ(單位百萬麻克)

輸 入

地名	年次	一九〇〇	一九〇一	一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九	一九一〇
東 阿		二、〇	九、五	八、八	二、一	一四、三	一七、六	二五、一	二二、八	二五、七	三三、九	三六、三
カメルン		一四、二	九、三	一三、三	九、六	九、三	一三、三	一三、四	一七、二	一六、七	一七、七	二七、九
トウゴオ		三、五	四、七	六、二	六、一	六、八	七、七	六、四	六、七	八、五	一一、二	一〇、五
南 訊 阿		六、九	一〇、〇	八、五	七、九	一〇、〇	二二、六	六八、六	三三、三	三三、一	三四、七	四四、二
計		三六、七	三三、七	三七、〇	三四、八	四〇、六	六一、五	一一三、五	八〇、〇	八四、二	九七、六	一一四、〇

輸 出

地名	年次	一九〇〇	一九〇一	一九〇二	一九〇三	一九〇四	一九〇五	一九〇六	一九〇七	一九〇八	一九〇九	一九一〇
東 阿		四、二	四、六	五、二	七、〇	八、九	九、九	一〇、九	一一、五	一〇、八	一三、一	二〇、七
カメルン		五、八	六、二	六、六	七、五	八、〇	九、三	九、九	一五、八	一七、一	一五、七	一九、九
トウゴオ		三、〇	三、六	四、一	三、六	三、五	三、九	四、一	五、九	六、八	七、三	五、八
南 西 阿		〇、九	一、二	二、二	三、四	〇、二	〇、二	〇、九	一、六	七、七	二二、〇	三四、六
計		一四、一	一五、八	一八、三	二二、六	二〇、八	二三、四	二五、五	三五、八	三七、七	五八、二	八二、〇

膠州ニ對シテハ非支那貨物ノ輸入ハ一九一〇年一〇月ヨリ一九一一年一〇月迄ノ間ニ(鐵道敷設及採

礦用無關稅ノ貨物ヲ除キ)五千七百萬麻克ニ上レリ(前年度五千二萬麻克)此内獨逸ノ貨物ハ一千九百萬麻克ナリ、而シテ支那貨物ノ輸入ハ一千七百萬麻克ナリ——輸出ハ、六千五百萬麻克ヲ算セリ(前年度五千九百萬麻克)

(甲) 農業及林業

獨逸殖民地ニ勤務セシムル農事教師採用ニ關シ新規定發布セラレベシト云フ、該教師ヲ分チテ農事老練者及農事助手トナス、前者ニツキテハ原則トシテ獨逸高等學校ノ農事教官之ヲ試験シ其者ガ栽培業或ハ牧畜監督ノ資格能力アリヤ否ヤヲ證明ス、後者ハ一年講習ノ證書ヲ有ス、若シ農業ニ關スル卒業試験ニ合格シ居レバ猶可ナリ、而シテ必ズ實際ノ農業上ノ經驗ニ富メルヲ證明セザルベカラズ、官廳ハ農業ヲ進歩セシムル爲メニ力ヲ盡スノミニテハ未ダ其ナスベキヲ悉セルニ非ズ、彼ノ夥シク發生シテ植物ノ成長ヲ害シ牧畜ニ危害ヲ與フル有害動物植物ヲ防遏スルコト最モ肝要ナリトス、「カメルン」ニテハ棉花令(六月一五日)ニ依リテ棉花種苗ノ輸入ハ必ズ知事ノ許可ヲ要シ且ツ必ズ「ダイクトリア」港ヲ經由シ、先ヅ一般ニ危險ヲ及ス動物的及植物的ノ害蟲ノ検査ヲ受ケザルベカラズ、而テ凡テ棉花栽培者ハ害蟲ノ發生ニツキ申告ヲナス義務ヲ負フモノトセリ、「サモア」ニ於テ政廳ハ(四月九日)椰子耕地ヲ荒廢セシムル犀甲蟲ノ蔓延ヲ防止セント試ミタリ「カメルン」(九月四日)及「トウゴオ」(八月二三日)ハ歐洲ニ於ケル牛ノ口瘡及爪疫流行ニ鑑ミ歐洲ヨリ牛ノ輸入ヲ禁止スルニ至リタリ、南

西阿ニ於テモ亦然リ、(一九一二年一月二四日、拓殖新報一九六頁)

東阿ニ於テハ外國ヨリ輸入スル家畜ニ對シ獸疫警察上之ガ點檢ヲ行フコトトナシタリ(九月一八日)、八月一五日ノ規定ヲ以テ兎ニ角歐洲各國ヨリ牛及各種ノ複蹄動物ヲ輸入スルコトヲ禁止シタリ(一九一二年二月一五日、拓殖新報第四號ニ於テ初メテ公示セラル)南西阿ニ於テハ範圍ノ廣キ屠獸規定及獸肉檢査規定發布セラレタリ、此規定ハ勿論先ヅ大地方ニノミ實施セラル、モノナリ、而シテ大體ニ於テ本國ノ規定ニ範ヲ採リタルモノナレドモ稍廣キニ失シ且ツ急ギ過ギタルノ感ナキニアラズ、南西阿ニ於ケル馬ノ飼養ニツキテハ九月二十九日ノ命令ヲ以テ爾後「ケールオルドスング」ニ服スル飼養者ノミニ國家ノ補助ヲ與フル爲メニ法律的基礎ヲ作りタリ。

殖林業ハ膠州ノ各地方ニ於テ成功ヲ見タリ、「カメルン」及南西阿ニ於ケル集約的ナル森林業ハ既ニ特殊ノ組織ヲ必要トスルニ至レリ。

東阿弗利加ニ於テハ野獸保存ノ主張者ハ勝利ヲ占メタリ、一九〇八年ノ狩獵法ノ改正ハ(一九一一年一月一日)正當ノ理由アル希望殊ニ象狩ノ取締羚羊ノ屬及麋鹿ニ對シ廣キ保護ヲ與ヘントスル希望ニ副ヘ而シテ從來全ク缺ケタル取締方法ヲ規定シタリ、即チ爾今狩獵票ハモシ其所持者ガ狩獵ノ方法及範圍ニヨリ野獸ノ存續ヲ危險ナラシムル結果ヲ來ス虞アルトキハ之ヲ褫奪スルコトヲ得ルコトトナシタリ、「サモア」ニ於テハ雉及齒鳩ノ狩獵ハ禁止セラレタリ。

(乙) 礦山業

「ダイヤモンド」ニツキテハ企業熱減退シテ沈靜トナリ、採掘ハ規模ヲ縮小シ場所ニヨリテハ採掘ヲ休止セルモノモナキニアラズ、收益ノ繼續ニ對スル疑懼ハ増加シ、勞働者ノ招來ハ困難トナリ、「リユデリツツブフト」ニ於ケル礦業會議所ハ已ニ「カメルン」人ノ輸入ヲ企圖スルニ至リタリ、殖民地爲替ノ相場ハ著シク下落シタリ、行政ニモ亦改善ヲ要スベキモノ多シ、政府ニ對シ賦課金ヲ輕減シテ當業者ヲ救済スベシト要求スルハ敢テ不當ト謂フベカラズ、即チ政府ハ總價額ニ課税スルコトヲ廢シ純益額課税ヲ採用スベク之ヲ差シ當リ救済ノ方策トシテ實行セラルベキモノナリ、一九一一年ハ何等一刀兩斷的ノ規定ヲ設ケタルニアラズシテ唯僅ニ一小改正ヲ爲サントシタルニ過ギズ、是レ一タビ敵ヲ討タントシテ先ツ弦ヲ張り之ヲ威嚇シタル後、更ニ敵ヲ追窮セズシテ數歩退ケルモノ、ミ、即チ「ダイヤモンド」ノ所持讓受讓渡ニツキ許可證ノ手数料ハ特定ノ「ダイヤモンド」賣買業者ナル場合ハ一、〇〇〇麻克ヨリ一〇〇麻克ニ輕減セラレタリ(本年報第二卷六三三頁比照)、「ダイヤモンド」礦區ノ保障ニ關スル一九〇九年四月一二日ノ命令ハ二三ノ輕減ノ規定ヲ含メル一九一一年三月一日ノ命令ニヨリテ補充セラレタルモ必要ナル保護ニ關シテハ何等規定セラレザリキ、又土人礦夫ノ身體檢査ヲ確實ナラシムル爲メ其仕事關係ガ終了シタル後猶三日間之ヲ警察監視ノ下ニ置クコトヲ得トセラレタルハ注意ニ値ス、土人ヲ追放スル權能ハ爾今之ヲ認メズ、以テ實質的ニ何等ノ損失スル事ナクシテ形式的ノ侮

辱ヲ廢止スルコトヲ得タリ、此侮辱ニツキ予ハ本年報第三卷ニ反對論ヲ掲ゲ置キタリ。
利害關係者間ニハ勿論解釋上ノ爭議アルヲ免レザリキ、此ノ如キ爭議ハ當初ノ如ク猛烈ナラザリシモ、之ガ爲メニ精力、時間、金錢ヲ消費シ且ツ仕事ノ愉快ヲ徒消スルハ歎ズベシ、茲ニ其一例ヲ抽出セバ「リユテリツツ」灣「ダイヤモンド」坑會社ト南西阿拓殖會社トノ間ニハ昨年和解成リタレドモ、(本年報四卷六七頁)新設ノ「カル、スタール」會社ハ遂ニ告訴ヲ提起シタリ、「リユテリツツ」灣ノ區裁判所ハ四月二六日ノ判決ヲ以テ、南西阿拓殖會社ノ南礦區ノ礦區稅ニ關スル請求ヲ排斥シタリ、判決ハ深ク立入りタルモノニシテ之レニ詳細ナル理由ヲ附シタリ、然レドモ凡テノ點ニ於テ此理由ヲ貫キ得ベシトハ云フ能ハザルベシ、兎ニ角吾人ハ茲ニ紛雜セル法律上ノ理論ニ立入ルベキ場所ニアラズ。

東阿弗利加ニ於テハ雲母ノ採掘ニ關シ嚴重ナル規定設ケラレタリ(一〇月五日)、此規定ニヨレバ、礦山主ハ原料ヨリ得タル分量、平均價格、勞働者及其他ノ使用人ニ對スル費用ニツキ一定ノ時期毎ニ報告スル義務ヲ負フ、是レヲ基礎トシテ更ニ規定ガ設ケラル、ナルベシ。

(丙) 商業

「トウゴオ」ハ競業取締ニツキ官廳ノ干涉ノ意味ヲ以テ規定ヲ設ケタリ、此規定ニ依レバ曩ニ已ニ一月一日ニ於テ棉花取引ハ官廳ノ指定シタル一定ノ場所ニ於テノミナスベキコトヲ定メタルガ——「ロ

一メ」區^{ベチク}ニ於ケル町村、「アネホ」ミツサヘーへ「アタクバメ」竝ニ市場及商業地ニ限ル——爾今(八月七日)輸出產物ノ取引ハ知事ノ公示シタル一定ノ場所ニ於テノミ許可スベキ旨規定セラレタリ、輸出產物トハ玉蜀黍、椰子油、椰子仁、「ゴム」カカオ」ヲ指セリ、輸出產物ノ價ヲ定ムルニハ獨逸法規ニ對應スル度量衡ニヨル、「トウゴオ」椰子仁検査令(一月一月)ハ就中五〇「パーセント」以上ノ殼ヲ含ムカ或ハ灌水シタル椰子仁ノ取引ヲ禁止シタリ、「ノエギネア」(六月一四日)及「サモア」(二月一八日)ニ於テハ「コブラ」ノ取引ヲ保護スル爲メ豫備的取締法ヲ設ケタリ、「サモア」(二月一八日)ニ於テハ戸々ニツキテ取引スルコトヲ全ク禁止シタリ、但シ農產物ノ取引ハ此限ニアラズ、爆藥取引ニ關シテハ本章ニ於ケル末尾ノ上方ノ數ノ字ヲ參照スベシ。

南西阿ニ於ケル酒精飲料ノ輸入及販賣ニ關スル一九一一年三月一日ノ命令ハ罰則ヲ一層嚴ニシタレドモ、一九〇七年五月一八日ノ命令ヲ緩和シタルモノナリ、膠州ニ對シテハ凡テノ鴉片茶屋ノ免許鑑札ハ一九一一年ノ經過ト同時ニ其效力ヲ失フベク新シキ鑑札ハ之ヲ下附セズ、印度以外ノ地ヨリ產出セラル、鴉片ノ輸入ハ此鑑札失效ノ日ヨリ禁止セラレ、「ココイン」ノ輸入製造ニ限り猶知事ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ許セリ、是レ此種ノ麻酔劑ノ國際的防遏ニ應ゼルナリ。

東阿ニ於テハ商業銀行ノ設立ヲ見タリ(本年報第四卷五七頁)、一株五〇〇麻克ニテ其資本金三百萬麻克ヲ算シ、其役員ハ帝國臣民ナラザルベカラズトナセリ(拓殖新聞五〇七頁)

數度ノ請願ノ後、支那ニ於ケル領事裁判區域内ノ一定ノ地域及膠州ニ對シテハ小株發行ガ十二月二三日ノ帝國法律ヲ以テ許容セラレ(帝國官報一一三五頁)、帝國宰相ハ之ニ關シ命令ヲ發スル權能ヲ授ケラレタリ、金額ハ二〇〇〇麻克迄下スコトヲ得ベク、此種ノ株券及中間證券ハ帝國領域内ニ於ケル取引所ニテ取引ヲ爲スコトヲ得レドモ必ズ帝國宰相ノ許可ヲ必要トシタリ、此改正ノ理由ハ屢々説明セラレタルガ如ク從來新會社ハ青島ニ於ケル獨逸ノ商業登記簿ニ登記スル代リニ寧ロ香港ニ於ケル英國商業登記簿ニ登記シタリト云フ、(棉花紡績、鑛工、電氣業、水道、材木商業、石油商業、倉庫業、旅宿業)、是レ一、〇〇〇麻克ノ株ハ全ク取引セラレザルヲ以テ之ニヨリテ一磅株ノ發行ヲナスコトヲ得ンガ爲メナレバナリ、此ノ如キ獨逸法權ノ退讓ニ由リ亞細亞人民ノ眼ニ映ズル我國ノ威嚴ヲ漸々失墜セシムルコトハ蓋シ蔽フベカラズ、獨逸ノ威嚴ノ失墜ハ青島支那商業會議所ノ設立ニヨリテ、(一九一〇年八月一七日附知事認可)獨支兩國人が東亞ニ於ケル實業的協力ヲ特ニ必要ナリト言明シタルニ徴シテモ亦同様ニ明瞭ナリ、抑々商業會議所ノ目的ハ商業ノ進歩及商人ノ智識ノ擴大ニアラズヤ、此商業會議所ハ青島及芝罘ノ商業會議所ト提携シ相互ニ法律上ノ手段ニヨリテ共助セザルベカラズ、此商業會議所法ノ規定ノ多クノ條項ハ以テ支那商人ガ商業貸借ニ於ケル善意及誠實ニツキ一種特別ノ觀念ヲ有スルコトヲ窺知スルニ足レリ。

第五 一九一一年獨逸殖民地ト外國

「ケーニツヒスベルヒ」教授ドクトル、マクス、フライシマン

一九一一年ニ於ケル拓殖國際關係ハ十分ノ成功ナリキ、其重要ナルモノハ實ニ我が殖民地ノ境界ヲ整定シタルコトナルハ已ニ先ニ殖民地ノ現狀ナル章ニ之レヲ陳ベタリ、殖民地ノ關係スル國際關係ハ外國ノ殖民地及其母國ト法律上ノ關聯ヲ生ゼシム、國際關係ノ發達ト外國ガ我殖民地ノ價値ヲ認識シタルトニ伴ヒ著シク我殖民地ニ於ケル領事代理ヲ増加シタリ、是レ予ノ見ル所ニヨレバ從來注意ヲ引カザリシ點ナリ、之ニ關係アル各種ノ規定中犯罪人引渡義務ノ擴張、小株式發行ノ許可、及小切手制度ノ整定ニツキテハ已ニ述ベタリ、已ニ帝國ガ殖民地ノ爲メニ締結シタル公安良俗ヲ害スル公刊物ノ頒布ヲ禁ズル目的ヲ有セル、一九一〇年五月四日ノ協約ガ實施セラル、ニ付キテハ、又我殖民地ハ最重要ノ關係ヲ有スト謂フベシ(帝國官報九〇八頁ニ於ケル一九一一年九月一五日帝國宰相ノ告示)

一九〇八年東阿弗利加ニ於ケル睡眠病ノ共同ノ調査及撲滅ニ關スル協約ハ(本年報第二卷七七頁)一九一一年八月一七日(拓殖新報六八六頁)英國ト更ニ「トウゴオ」「ゴールドキユステン、コロニー」「アシヤンチ」保護國及「ゴールドキユステール」ノ北部ヲ包括スル協約ヲ締結セシムル迄ノ好成績ヲ舉ゲタリ、同協約ニ依リ出來得ル限リ病氣ノ蔓延ハ檢診セラベキヲ、相互ニ土人ヲ治療スベキヲ、擬似患者ト雖モ

之ヲ境界ニ退去セシメ得ベキコト、境界交通ニ付テハ必要ニ應ジ睡眠病ノ蔓延ヲ防止スルニ足ルベキ規定ヲ設クベキコト等ヲ定メラレタリ、又獨、佛、英、露、伊、蘭、葡、米、日、支那、「ベルシヤ」、「シヤム」ノ參加シタル「ハーグ」ニ開催シタル鴉片會議ハ（一九一一年末）ハ衛生的社會的ノ目的ヲ遂ゲント欲セリ、聞クガ如ンバ、此會議ハ一九一二年ニ一ノ協約ヲ締結スルコトトナシタリ、其内容ハ未ダ知ラレザルモ、ソノ最モ重要ナル條項ハ、割前ヲ出スコト及鴉片ノ産出ヲ一步一步ニ制限ヲ加ヘ遂ニ絶滅ニ至ラシメントスルニ在リ、是レ實ニ大規模ノ事業ナリ——若シ之ガ首尾ヨク成功スルトセバ主トシテ、是レ東印度ニ於ケル和蘭ノ幫助及支那政府ニ於テ其衰弱ヲ招クベキ負擔ヨリ免レント欲スル斷乎タル盡力ニ懸レリ。

性質上唯進歩アルヲ知リテ靜止アルヲ知ラザル拓殖國際關係ノ擴張ハ又等シク遁ル、コト能ハザル紛糾ヲ包藏セリ、危急ノ状態ニ於テ前年此紛糾ガ迫リ來レルヲ見タリ。

「マロッコ、カメルン」協約ヲ僅カノ附加物トシテ吾人ニ提供シタル爭議ニ關スル仲裁裁判官ノ判決有用ナル通氣孔トナリタルヤ否ヤハ之ヲ將來ニ徵セザルベカラズ、恐クハ來ルベキ第三次ノ「ハーグ」平和會議ハ又此方面ニ於テ獨逸ヲ威嚇セン、換言スレバ單ニ土地ノ擴張ヨリモ猶一層ノ拓殖的困難ニ陥リテ如何トモ爲シ難キ和蘭ハ、凡テ殖民地ノ法律問題ヲ海牙仲裁裁判ニ服セシメントスル議案ノ審議ヲ求メント欲スルナラン、予ハ實ニ之ヲ耳ニシタリ……。

第六 一九一一年獨逸熱帶殖民地ニ於ケル歐洲人ノ栽培業

漢堡 ドクトル、ワルツ

企業勃興シ、許多ノ投機會社創立セラレ、「ゴム」企業熱ノ熾ナリシ翌年ノ經濟界ハ沈靜ニ歸シ、企業ハ眞面目ニ手控スルコトナリ、新會社創立ハ殆ド止ミタリ、熙々タル將來ノ希望ノ光ハ一部分ノ憂懼スベキ暗雲ニ蔽ハレタリ、幾多ノ大ナル栽培企業ハ在來ノ株主或ハ持分ノ所有者ガ既拂込資本ノ大部分ヲ拋棄シ且ツ巨額ノ新犠牲ヲ提供セルニヨリテ辛クモ倒壞ヲ免ル、コトヲ得タリ、即チ東阿會社、東海岸合資會社（有限責任）ハ殆ド其全部百萬麻克以上ノ會社資本ヲ失ヒ 棉花株式會社（資本金六〇〇、〇〇〇麻克）ハ重大ナル損耗ノ爲メニ清算ヲナサザルベカラザルニ至リ、「サモア」護謨株式會社（資本金二、〇〇〇、〇〇〇麻克）並ニ「サファタ、サモア」合資會社（資本金七五〇、八〇〇麻克）ハ新タニ資金ヲ調達シタルヲ以テ纔カニ其業務ヲ中止セザルコトヲ得タリ、然レドモ此會社ノ投下資本缺損高ハ猶未ダ詳カナラズ、凡テノ會社ハ皆無配當ナリキ。

此四會社ノ破綻殊ニ南海岸會社及「サモア」護謨會社ノ破綻ハ同時ニ一部獨逸殖民地企業ノ基礎ガ甚ダ不安固ナルコトヲ明白ニ暴露シタリ、從來ノ會社創立ニ於テ多ク行ハレタル濫費ノ惡報ハ今ヤ始メテ現ハレ來レリ、若シ我國ノ幼稚ナル殖民地經濟ヲシテ——内國ニ於テモ又外國ニ於テモ——不評ヲ免カ

レシメント欲セバ亂暴ナル濫費ヲ停メ、已ニ其壞滅ノ萌芽ヲ自ラ包藏セル會社組合ノ創立ヲ可及的防
止スル手段ヲ講ズルニ全力ヲ注ガザルベカラズ、已ニ會社ノ見積書ナルモノガ甚ダ不都合極マルモノ
ナリ、即チ若シ嚴正ニ批判ヲ下サバ殆ト眞實ナルコトアルマジキ廻リノ計算ヲ掲ゲ、以テ事情ニ暗キ
公衆ヲシテ「濡手テ粟」ノ利得ヲ夢想セシメ、或ハ赫々タル聲譽或ハ堂々タル肩書ヲ有スル名士ノ氏
名ヲ利用シ、公衆ヲ釣リテ多少投機的ナル企業ニ出資セシム、會社ノ創立者ハ多額ノ「創立ノ費用」
及「創立ノ利益」ヲ計上シ、耕作地、栽培地及其他ノ設備ハ之ヲ其實價ノ數倍ニ評價スルナリ、彼ノ南
海岸會社ニ於テハ價值ナキ「空想」ヲスラ一九〇、〇〇〇麻克(一)ヲ以テ積極財産トシテ計上シタリ、
此ノ如クニシテ多クノ會社カ其業務ヲ開始スルニ當リ製作セル財産目錄、貸借對照表ナルモノハ若シ
之ニ正當ナル評價ヲ下サバ其積極財産ハ甚シキ減少ヲ示スナルベシ、次ニ耕作地ノ耕作モ亦種々ノ非
難ヲ容ルベキモノアリ、即チ其土地ガ果シテ其採用セル耕作法ニ適合スルヤ否ヤヲ究メズ、其栽植
密ニ過ギ單ニ可及的多大ナル栽植樹數ヲ誇示スルニ止マリ之ガ爲メ却テ全耕地ノ收穫高ヲ減ゼリ、甚
ダ小額ノ事業資本ヲ未ダ收益ヲ見ザル耕作時代ニ具有スルニ過ギザルニモ拘ラズ或ル會社ノ如キハ所
謂「建設利子」ヲ支拂ヒ爲メニ益々其乏シキ資本ヲ彌ガ上ニモ乏シカラシム、次ニ又本國ニ在留セル
「會社ノ管理者側」ノ者ハ栽培季ノ間之ヲ善意ニ見ルモ漸ク栽培ノ進捗及栽培掛ノ勤務ヲ監督スルノ
ミニ過ギズシテ他ニ何等ノ價值ナキ働ニ對シテスラ一五、〇〇〇麻克或ハ其以上ノ報價ヲ要求シ、又

往々事情ニ通ゼザル人々ノ視察旅行(實用上全然無價值ナル)ニ數千麻克ヲ要求ス、確實ナル會社ニ於
テハ單ニ其利益ニツキテノミ其一部分ヲ受クルヲ原則トスル監査役迄ガ、會社ハ益々財産ヲ喰込ミツ
ツアルニモ拘ラズ其「勞」ニ對シテ數千麻克ノ報酬ヲ受ク、此ノ如キ經濟ノ繰廻ヲ續ケ會社ハ遂ニ資
金ヲ竭盡スルニ至ラズンバ止マザラントス、株主ハ茲ニ至リテ九天ノ上ヨリ墜落セザルヲ得ズ、蓋シ
會社財産ニ非常ノ大缺陷アルコトハ株主ハ之ニツキテ何等知リ居ラザレバナリ、一切支出シタル金額
即チ建設利子、俸給、賃銀、旅費及其他凡テノ費用、甚シキニ至リテハ「書入」ノ費用迄モ「耕地計算
ノ部」ニ程ヨク記入スルナリ、耕地ノ眞實ノ價值ニ頓着ナク、財産目錄客觀的眞實ノ原則ニモ頓着ナ
ク單ニ毎年ノ積極財産ノ部ニ「耕地」ヲ實際ヨリ高キ額ニテ組入レ、遂ニ其馬脚ヲ露ハスニ至リ、茲ニ
嚴格ナル壓迫ヲ被リ久シク存在シタル財産中ノ混水ガ除カレザルベカラザルニ至ルベシ。
近來ニ至リテ官廳ハ其基礎堅實ナラザル亂脈ノ殖民地ノ企業ニ十分注意ヲ拂ヒ、且ツ又前述シタル如
キ贅疣ニ對シテ之ガ防止ノ方法ヲ講ズルニ至レル模様ナルハ喜ブベシ、即チ大臣「フオン、リンデキ
スト」ノ作りタル「拓殖行政常設經濟委員」ハ、一九一一年九月二八日其第一回目ノ會議ニ於テ、就中
殖民ニ於ケル會社詐欺撲滅ヲ主題トシテ附議スル筈ナリシモ、日程ニ掲ゲタル此問題ハ討議セラル、
ニ至ラズシテ次會ノ日程ニ廻ハサレタルヲ遺憾トス、吾人ハ該委員會ガ單ニ詐欺的ノ會社ノ創立ノミ
ニ限ラズシテ爾後ノ「世ヲ欺ク」財産目錄ニ付キテモ亦其議事ヲ及サンコトヲ希望スルナリ。

堅實ナラザル會社ノ重要ナル模滅方法ハ常ニナルベク詳細ナル公示義務ヲ負ハシメ且ツ新聞雜誌ニ依
リテ公衆ニ其眞想ヲ知ラシムルニアリ。

殖民地ニ於ケル栽培業ハ上述ノ破綻ニヨリテ更ニ甚シク世人ノ信用ヲ失墜シ、而テ我國ノ「ゴム」及棉
花ノ價格ノ低落、耕地ノ有望ナラザルコト等モ亦等シク殖民地ニ於ケル栽培業ヲシテ甚ダ不振ナラシ
ムルニ與カリテ力アリキ、從テ本年度ニ於テハ唯僅少ノ會社ノ新設組織變更及増資ヲ見タルノミ、即
チ次ノ如シ

獨領東阿弗利加

- 有限責任「アム、ネレングレー」栽培會社(伯林) 資本金 二五〇、〇〇〇麻克
- 有限責任獨逸東阿製糖會社(創立中) 資本金 八〇〇、〇〇〇麻克
- 「キルワ、キシワ」耕地會社(伯林) 増資 二五〇、〇〇〇麻克
- 西獨逸商業及耕地合資會社(デュッセルドルフ) 六〇〇、〇〇〇麻克
- 「カメルン」 新株ニ對スル 四割増加出資
- 有限責任阿弗利加石油會社(シャロットテンブルヒ) 資本金 四〇、〇〇〇麻克
- 有限責任ブレイメン北西「カメルン」會社(ブレイメン) 資本金三五〇、〇〇〇麻克
- 有限責任ブレイメン煙草耕作バコシ會社(ブレイメン)(一九二二年) 資本金四〇〇、〇〇〇麻克

- 有限責任獨逸「カメルン」會社(耕地ヲ有スル商業會社)(ハンブルヒ) 増資一、〇〇〇、〇〇〇麻克
- 有限責任獨逸煙草耕作會社(フランクフルト、アムマイン) 資本金二〇〇、〇〇〇麻克
- 有限責任漢堡「カメルン」商業會社(エデア) 資本金二六〇、〇〇〇麻克
- 有限責任シレスウイッヒ、ホルスタイン侯國「コ、ア」栽培會社(ワンスベク) 資本金二五〇、〇〇〇麻克
- 「ニヨン」護謨栽培株式會社(倫敦) 資本金一五〇、〇〇〇磅
- 「トゥゴオ」 資本金八五〇、〇〇〇麻克

南洋

- 有限責任「ビスマル」ク群島會社(伯林) 優先株ノ新發行 五〇〇、〇〇〇麻克
- 有限責任「カリリ」會社(カリリ) 資本金二七〇、〇〇〇麻克
- 有限責任「ロンヂツブ」耕地會社(ラバウル) 資本金 九〇、〇〇〇麻克
- 有限責任「マタンデドゥック」耕地會社(ナマタナイ) 資本金 五〇、〇〇〇麻克
- 「モーア、サモア」商業及耕地株式會社(シドニー、一九一〇年) 資本金 六〇、〇〇〇磅
- 有限責任、西カロリネ會社(漢堡、一九一二年) 資本金四〇〇、〇〇〇麻克

之ニ由リテ觀レバ實際新規ニ創立セラレタルモノハ唯「カメルン」ニ於テ多ク之ヲ見ルノミ、前年最モ

創立ノ殷盛ヲ極メタル東阿ニ於テハ一モ新會社ヲ舉グルコトヲ得ザリシハ特ニ注目ニ値ス(「ネレンゲ
レ―河畔」ノ耕地ハ從來棉花株式會社ノ所有ナリキ)、此ノ如キ減退ハ吾人ノ見ルガ如クンバ甚ダ重要
ナル原因ニ基ケルヲ遺憾トス。

本年度中ニ示サレタル大ナル耕地會社ノ決算ハ前述シタル破綻ヲ除キ其他ハ前年度ニ於ケル好景氣ニ
應ジテ大體ニ於テ甚ダ良好ナリキ、彼ノ破綻ハ我國經濟上ノ狀態ガ之ヲ然ラシメタルニ非ズシテ其會
社ガ設立ノ當初ヨリ已ニ保有シタル缺陷ニ其原因ヲ求ムベキモノナリ、各會社ノ配當率左ノ如シ、
(前年度ノ配當ハ括弧内ニ示セリ)

- 南洋諸島獨逸商業及耕地會社 (ハンブルヒ) 三三% (二八%)
- 「ヴィクトリア」西阿弗利加耕地會社 (伯 林) 一五% (八%)
- 「シサール、アガーベン」會社 (ヂュセルドルフ) 一二% (五%)
- 「シギ」耕地會社 (エツセン) 一二% (〇%)
- 「ヘルンスハイム」株式會社 (漢 堡) 一一% (八%)
- 獨逸西阿商業會社 (漢 堡) 一〇% (六%)
- 獨逸東阿弗利加會社 (伯 林) 八% (六%)
- 有限責任「ノゴメニ」耕地會社 (伯 林) 本株六% (〇%) 優先株八% (〇%)

「モリグエ」耕地會社 (伯 林)

五% (五%)

獨逸カメルン會社 (漢 堡)

五% (〇%)

獨逸ゴム株式會社 (伯 林)

三% (〇%)

「ビブンヂ」西阿耕地會社 (漢 堡)

三% (〇%)

其他ノ耕地會社ニアリテハ其大部分ハ猶栽培期中ニ在ルヲ以テ配當ヲナスコト能ハザリシモ根本的ニ
其面目ヲ一新シ以前ノ損失ヲ填補シタリ、會社ハ又巨額ノ利益金ヲ繰越シタルモノモ少カラズ、或ハ
預入ヲナシタルモノモアリタリ、一九一〇年ニハ特ニ旺盛ナリシ吾國栽培業ノ擴張ハ之ヲ左ニ掲グル
表ニツキテ見ルコトヲ得ベシ。

吾國熱帶殖民地ノ耕作セラレタル栽培地ノ面積ハ一九〇九年乃至一九一一年ニ四〇、三四三「ヘクタ
ール」即チ約半分丈ケ増加シタリ、收穫ヲ生ズル面積ハ「マルシャル」島ヲ除キ二四、二九六「ヘク
タール」即チ七割五分ノ増加ナリ、就中東阿弗利加及「カメルン」ニ於テハ最後數年間ノ發達ハ頗ル躍
進的ナリキ。

以下ニ掲グ 殖民地ニ於ケル最近十年間ノ輸出數額ニ就キテ見ルモ明亦ナリ。

年次	獨領東阿	カメルン	トウゴオ	ノエギネア	サモア
一九〇一	四、六二	六、二六	三、六九	二、五六	一、〇一
一九〇二	五、二八	六、六五	四、一九	二、〇八	一、六九
一九〇三	七、〇五	七、五六	三、六二	二、四九	一、三八
一九〇四	八、九五	八、〇二	三、五五	二、二四	一、六七
一九〇五	九、九五	九、三一	三、九六	二、三六	二、〇二
一九〇六	一〇、九九	九、九九	四、二	二、六一	三、〇三
一九〇七	一二、五〇	一五、八九	五、九二	三、四七	一、七七
一九〇八	一〇、八七	一二、一六	六、八九	六、〇五	二、六七
一九〇九	一三、一二	一五、七〇	七、三七	八、三二	三、〇二
一九一〇	二〇、八一	一九、九二	七、二二	一四、六六	三、五三

特ニ「ノエギネア」ノ繁盛ニ赴ケルコトハ著大ナリ、即チ其輸出額ハ三ケ年以内ニ價額ニ於テ四倍以上ニ上リタリ、之ニ就キテ茲ニ特ニ一言スベキコトハ「ノエギネア」ニ於テハ全然減退ノ虞ナキコト是ナリ。

我栽培業ノ膨脹一覽表

獨領東阿 カメルン ノエギネア (島地ヲ含ム) サモア トウゴオ 計	農事企業數		歐洲人農業者數		耕地ニ勞働スル有色人		耕作セラレタル坪數		收穫チ生ズル坪數	
	一九〇九 年ノ初	一九一〇年	一九〇九年	一九一〇年	一九〇九年	一九一〇年	一九〇九年	一九一〇年	一九〇九年	一九一〇年
獨領東阿	三六四	三八五	五二四	五六六	三三〇	三五六	四七六	四七六	一六五	一八五
カメルン	二五	三〇	九	九	八五九	九三〇	一〇二五	一〇二五	五〇〇	五〇〇
ノエギネア	六八	八五	一一三	一〇八	八四九	九六六	一一四四	一一〇七	二八〇	二八〇
(島地ヲ含ム)	七五	一〇六	七	八	一六七	一九三	一九五	一九五	四一	四一
サモア	一一	一一	七	七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
トウゴオ	一〇	一一	六	六	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
計	五四〇	六九六	八〇三	八四九	一〇〇七	一〇〇七	一〇〇七	一〇〇七	一〇〇七	一〇〇七

「ノエギネア」ノ物産ノ白眉タル「コ、ア」椰子ノ栽培ハ大ナル變動ヲ受クルコト最モ少シ、獨領東阿及「カメルン」ニ於テハ一九一〇年ノ數額ノ増加ヲ來セルハ主トシテ「ゴム」及棉花ノ高價ナリシニ由ル、「ゴム」及棉花ノ價格ハ本報告年度ニ於テ非常ニ下落シ且ツ棉花耕作物ニ一部分甚シキ被害アリタルヲ以テ一九一一年ノ數額ハ好況ヲ示シ得ザリキ。

我國ノ最モ大ナル耕地殖民地タル獨領東阿ハ前途全ク樂觀スルコトヲ許サズ、即チ栽培主及栽培擔當者ノ平生最モ苦心スル「如何ニシテ勞働者ヲ得ベキヤ」テフ問題ハ益々困難ニ赴ケリ、同地ニ於テハ土地ヲ相當ニ管理シ園圃ヲ耕作シ且ツ其收穫ヲナシ、又ハ業務ヲ豫定通りニ擴張スルニ必要ナル十分ノ勞働者ヲ得ルコトハ甚ダ稀有ノ場合ニ屬シ、若シ之レヲ得ルトシテモ多大ノ犠牲ヲ免レズ。

播種シタルモノヲ果シテ收穫シ得ルヤ否ヤモ不確定ニシテ、時トシテハ唯主要ナル耕作物ノ被害ヲ防止スル爲メニ止ムヲ得ズ、手不足ノ結果栽培ノ一部ヲ打捨テテ雜草ノ生ズルニ任シ置クコトアルハ企業心ヲ挫折セシムルヲ甚シトス、獨領東阿ニ於ケル労働者ノ不足ハ左ノ數字ニ就キテ見レバ明白ナルベシ。

九〇

	一九一〇年ノ當初	一九一一年ノ當初	増加率
耕作セル坪數	五〇、四七五「ヘクトール」	六九、四九五「ヘクトール」	三八%
收穫能力アル坪數	一八、五六二	三四、八四九	八七%
耕地ニ於ケル有色労働者	四七、六八四	五七、五二六	二一%

労働者數ノ増加率ハ栽培シタル坪數及收穫能力アル坪數ノ増加率ニ對比シテ歩調ヲ共ニスルコト能ハズ、故ニ現在ニ於テハ唯耕地總面積ノ七分一ヲ耕作シ得ルニ過ギズ、更ニ後年ニ於ケル労働者需用ノ増加ガ躍進的トナルベキハ期シテ待ツベシ(官廳ノ報告數ハ之ト少シク異ルモ、官廳ノ報告ニ係ル數字ヲ正シトセバ唯十一分ノ一ニ過ギザルナリ)而シテ最モ労働者ノ缺乏ニ苦メルハ北部諸州ナリトス。

一九〇九年乃至一〇年ニハ「タンガ」、「ウイルヘルムスター」及「バンガニー」諸區ニ於ケルノミニテモ二八、五二名(「ダンガ」ニ於テハ約一四、〇〇〇名)ノ有色人労働者ガ栽培ニ從事シタリシガ一九

一〇年乃至一一年ニハ三二、三六六名(タンガ、一六、六四七名)即チ獨領東阿ニ於テ一九一一年ノ間ニ從事シタル耕地労働者ノ五六「パーセント」トナリタリ。

此等ノ労働者中其地方ニ生マレタル者ハ僅少ノ數ニ過ギズシテ(タンガニ於テハ一九〇九年乃至一〇年ニハ猶十分ノ一ニダモ達セズ)其大部分ハ却テ「應募出稼人」トシテ阿弗利加ノ内部ヨリ海岸地方ニ出來レル者ニ屬ス、而シテ一部分ハ自ら進デ來レル者ナレドモ其大部分ハ常ニ徵募セラレタル者ナリ、主トシテ多ク労働者ヲ出ス地方ハ一九一〇年ニ於テハ「ウンヤムウイチ」「ウズクマ」「ウゴゴ」「ウンゴニ」及「ランゲンブルヒ」地方ニシテ僅カノ員數ヲ出シタルハ「ツル」「ウヘヘ」「ウヒバ」「ワムバ」及「イラムバ」地方ナリ。

労働者ノ需要ハ急速ニ増加スルニモ拘ラズ各地ヨリ同様ニ之ヲ供給スルニアラズシテ唯上述セル僅小ノ地方ヨリ之ヲ徵募シ得ルニ止ルヲ以テ爲メニ甚シキ不便ヲ生ズ即チ徵募ノ困難トナルニ伴ヒ使用ニ堪ユル労働者一人ノ手當ハ約一箇年前ニハ一三「ルービー」ニテ足りシモノガ今日ニ於テハ二五及三〇「ルービー」ヲ支拂フニ至レリ、栽培主ハ互ニ労働者ノ代價ヲ糶リ上グルナリ、「ウザンバラ」ニ於テハ多クノ耕地ニテ毎月ノ給料ハ已ニ一乃至一四「ルービー」ニ騰貴シタリ、此他アル地方ニ於テハ労働者ニ四倍乃至六倍ノ月給ヲ前拂スル慣習ヲ成シタリ、食料及給料ハ今ノ遣口ガ維持セラル、トセバ猶益々騰貴スベク之ガ爲メ資本ニ乏シキ耕地ハ危機ニ瀕スルヤ必セリ、況ヤ黑人ハ暫時ニシテ逃去ス

九一

ルヲ常トスルニ於テヲヤ、而モ警察上通行券及届出ノ規定ナキヲ以テ逃去スルモ原則トシテ之ヲ伴レ
 歸ルコト不可能ニシテ之レガ爲メ其徵應手數料ヲ損失スルハ言ヲ俟タズ、又他ノ一方ニ於テハ從來ノ
 徵募方法ヲ採ルハ殖民地ノ發達ニツキテ憂懼スベキ結果ヲ生ズ、徵募セラル、地方ニ於ケル農作ハ粗
 略ニセラレ、又募集セラレタル労働者ノ大部分ハ最早其故郷ニ復歸セザルヲ以テ引續キ甚シク人口ヲ
 減少スル虞アリ、徵募ニ關スル一九〇九年二月二七日ノ命令ノ規定ニモ拘ラズ往々不良ノ徒ガ徵募ノ
 許可ヲ得、而シテ政府ヨリ募集ノ委託ヲ受ケタリト欺瞞シ強制ヲ用テ募集ヲナシ其應募者ヲバ募集ノ
 際承諾セシメタル耕地ニ送ラズシテ、最モ緊切ニ労働者ヲ需要スル地方ニ之ヲ高ク賣リ附クルコトア
 リ、有色人ノ徵募員ニ信賴スルコトヲ得ザルヲ以テ多クノ耕作者ハ止ムヲ得ズ歐洲人ヲ高俸ヲ以テ備
 入レ常ニ阿弗利加ノ内地ニ於テ徵募ヲナサシムルタメニ之ヲ派遣シタリ、栽培者ハ遂ニ政府ノ干涉ヲ
 要求シタリ、而シテ一九一一年五月二七日ノ獨逸東阿土地經濟團會議ハ徵募ハ獨リ政府ノミ之ヲナス
 ベキコトヲ規定シタリ、又「ゲハイムラート、ハンス、マイヤー」氏モ近頃我東阿殖民地ノ旅行ヲ了ヘ
 テ報告書ヲ出シタルガ其書中ニ私人徵募主義ノ大弊害ヲ説キ「事ヲ正當ニ運バシムル唯一ノ方法ハ政
 府ガ労働者ヲ一手ニ引受テ供給スルニ在リ」ト云ヘリ（獨逸殖民地報告書二四卷三五七頁）、本來ノ強
 制ハ必要ナカルベク、單ニ其地方ヲ管轄スル「エンベ」人「アキデ」人及「ズルタン」人ノ會長ニ一定ノ勞
 働者ノ數ヲ取揃フルコトヲ訓示スレバ充分ナルベシ、人頭税ヲ一般ニ施行スルハ土人ニ苦痛ヲ與フル

ナルベキモ、通行券強制ニヨリテ嚴密ナル人員ノ點檢ヲナスコト必要ナルベシ、若シ政府ニシテ國家
 的ノ徵募ヲナスヲ欲セズトスルモ尙ホ次ノ方法アラン、即チ徵募ノ許可ハ區劃ヲ限リ且ツ必要ノ範圍
 内ニ止メシメ、特ニ之ヲ爲スニ適當ナル者ニノミ之ヲ與フルコトトナシ、區ノ役人ハ労働能力者名簿
 ヲ調製シ一定ノ時期毎ニ其總員數ヲ報告スベク、耕地ニ於ケル労働者ノ需用ハ一ノ中央所ニ向ケテ申
 込ムベク、中央所ハ平均且ツ公平ニ需用セラルル労働者ノ數ト、隨意ニ振向ケ得ラルベキ労働者ノ總
 數トヲ斟酌シテ之レガ申込ニ應ズルコトトナスニ在リ。

東阿事情精通者ノ一人タルレギールングスラート「ザアツヘー」氏ハ一步進ミタル次ノ立案ヲナシタ
 リ、(拓殖新報一九一二年一二號一三號參照)曰ク、傭主ハ之レニ州内ニ於ケル徵募ノ全權ヲ委スベキ
 一ノ組合ヲ作ルベク、政府機關ノ干與ハ官廳ノ希望ニ從ヒ、自ラ進デ申込ヲナス労働志望者ノ監督並
 ニ黑人ガ自ラ進デ政府ノ希望ニ從ハント希望スル場合ノ監督ノミニ之ヲ止メ何等ノ強制ヲモ用ユベカ
 ラズト。

「レッツヘンベルヒ」ノ知事ハ栽培者ノ計畫ニ反對シ之ヲ排斥シタリキ、労働問題ニ満足ナル解決ヲ與フ
 ルコトハ氏ノ後繼者ノ重要ナル責務ノ一ナルベシ是レガ第一著歩トシテ已ニ一九一二年四月一日以來
 四大區ニ人頭税實施セラル、コト、ナレリ。

鐵道敷設ノ終了後ハ之ニ從事セル約二一、〇〇〇名ノ労働者ハ手隙トナリ耕地労働ニ從事スルニ至ラ

ントノ政府ノ意見ハ全然正鵠ヲ失セリ、何トナレバ此人夫ノ過半ハ沿線地方ニ於テ他ニ給料ヲ得ル仕事ヲ見出スベケレバナリ、而シテ今日既ニ「ムアンサ」地方ノ繁榮ニ赴ケルニ伴ヒ曾テ耕地労働者ノ大部分ヲ供給シタル「ウズクマ」ニ於ケル徵募ハ遙カニ不成績トナリタリ、蓋シ土人ハ自ラ生産ヲ爲セバ給料額ニ比シテ多クノ収益ヲ得ベキヲ以テナリ。

労働問題ノ解決ハ東阿主要ノ耕作物タル「ゴム」栽培ガ困難ナル競争ヲ目前ニ差控ユルヲ以テ益々喫緊ノコトニ屬ス、一九一一年三月下旬ノ拓殖經濟委員會ノ「ゴム」特別委員ノ議事ハ我が「マニホット」ノ「耕地ガ如何ニ危急ノ状態ニ在ルカニ付キ疑ヲ挾マザリキ、爾後比年耕地「ゴム」ノ價格ガ甚シキ低落ヲ示スコトハ確カニ豫期シ得ベシ、然ルニ從來世界ニ於テ消費セラル、「ゴム」ノ大部分ハ野生ノ「ゴム」ニ供給ヲ仰ギタルガ漸次耕地「ゴム」之ニ代リ益々生産ノ主位ヲ占メントシツ、アリ 一九一一年ノ初メ栽培地ノ坪數「印度ゴム雜誌」ノ計算ニ依レバ總計九八〇〇〇〇「エーカー」ナリ（此中六〇〇、〇〇〇「エーカー」ハ馬來諸國及錫蘭）、「ケルヒホーフエ」氏ハ更ニ進デ一、三二〇、〇〇〇「エーカー」ト計算シタリ（此中馬來及錫蘭ニ於テ五五〇、〇〇〇「エーカー」メキシコニ於テ二二〇、〇〇〇「エーカー」）「ゴム新聞一九一二年一月五日參照」「ヴェエ、フロエデンベルヒ」氏ハ最初ノ計算ヲ基礎トシテ一九一六年乃至一七年ニハ少クトモ一〇九、〇〇〇噸ノ耕地「ゴム」ノ供給年額ヲ期待シ得ベシト計算シタリ、野生「ゴム」ノ産額ガ從來ノ半額（七〇、〇〇〇噸）ニ下ルナラント假定セバ——確カニ

ハ言ヒ難キモ——上述ノ時迄ニハ世界ノ産額ハ少クトモ一四四、〇〇〇噸ヲ期待シ得ル筈ナラン、「フロエデンベルヒ」氏ノ此計算ハ猶小ニ失セリト謂フベシ、何トナレバ此中ニ「ケルヒホーフエ」氏ガ已ニ二年前ニ少クトモ一八〇、〇〇〇「エーケル」ト計算シタル墨國ノ大ナル耕地ノ坪數ヲ過少ニ見積リタルヲ以テナリ（成ル程墨國ノ「カスチロア、ゴム」樹ノ栽培ノ前途ハ甚ダ疑懼スベキモノナルコトハ注意ヲ要ス）、一般ニ最モ信ヲ措クニ足ルトセラル、「リバプールの」「ヘヒト、レヴィイス、ウント、カーン」商店ノ統計ニ依レバ世界ノ消費ト世界ノ産額トノ割合ハ次ノ如ク發展シタリ。

年	次	總 産 額	總 消 費 額	六月卅日ニ於ケル在庫高
一九〇二—〇三		五五、六〇三	五五、二七六	五、〇五三
一九〇三—〇四		六一、七五九	五九、六六六	四、三八八
一九〇四—〇五		六八、八七九	六五、〇八三	四、五八四
一九〇五—〇六		六二、九九九	六二、五七四	五、三五二
一九〇六—〇七		七四、〇二三	六八、一七三	六、四六四
一九〇七—〇八		六六、三七九	六二、三七六	八、〇三五
一九〇八—〇九		七〇、五八七	七一、九八九	五、〇二四
一九〇九—一〇		七六、五五三	七六、〇二五	六、九九八
一九一〇—一一		七九、三〇五	七四、〇八二	一一、五六三

是ニヨリテ觀レバ世界ノ消費額ハ一九〇二乃至三年ヨリ一九一〇乃至一一年ニ至ル迄ノ間ニ約三割五分換言スレバ年平均四分強ノ増加ヲ示セリ、若シ「フロエデンベルヒ」氏ノ每年平均五分ノ増加ヲナスト云ヘルニ左担セバ一九一六乃至一七年ニハ同率ノ増加ハ約一〇七、〇〇〇噸ノ總消費量ヲ示スナラシ、然ルニ前記ノ計算ニ從ヘバ此期間内ニハ少クトモ一四四、〇〇〇噸ノ世界ノ産額トナル勘定ナリ、或ハ恐クバソレ以上ナルベキカ、此點ニ關シ一九一〇乃至一一年ニ於テ世界ノ消費高ハ期待セラレタルガ如ク増加セズシテ却テ二、〇〇〇噸ノ減少ヲ見タルハ注意ヲ值ス、同一率ニ止マル消費量ハ即チ強烈ナル過剰生産ヲ惹起サルベカラザラン、然レドモ過剰ニ生産セラレタル粗製「ゴム」ガ全然使用ニ供セラレザルコトハ想像スルヲ得ズ、又「コーチユツク、ゴム」ガ實際若シ一層低廉トナリサヘスレバ「ゴム」過剰生産ノ憂懼ヲ可ナリノ程度迄除去スルコトヲ得ベシ、何トナレバ「コーチユツク、ゴム」ノ加工製造工業ハ其種類頗ル多ケレバナリ、尙ホ他ノ問題ハ今日ノ價ノ儘ニテ如何ナル程度迄消費ガ増加シ得ラルベキヤト云フニ在リ、可ナリノ範圍マデ近來粗製ゴム代用トシテ饒多ナル「古ゴム」ノ再使用ヲナスコト、ナリタリ、總支配人「ホッフ」氏（ゴム特別委員會ノ議事參照）ノ說ニヨレバ「古ゴム」ノ再製（復生）ニ付キテ大ナル進歩ヲナセル結果普通ノ製造工業ヲナス工場ニ於テハ「古ゴム」ノ再製物ヲ消費スルコトハ粗製「ゴム」ノ消費額ヨリ更ニ多シト云ヘリ！ 兎ニ角粗製「ゴム」ノ生産過剰ハ間モナク恐クバ已ニ兩三年中ニ世界市上ニ現出スルナラン、之ガ價格ハ其時ニ至ラバ主トシテ最モ低廉ニ

生産スル地方ノ生産費ヲ標準トシテ定メルベク、即チ世界ノ市場價格ヲ支配スルモノハ南東亞細亞ノ耕地ナルコトヲ豫想シ得ベシ、馬來半島及錫蘭ヨリノミニテ一九一六乃至一七年ニハ約八九、〇〇〇噸ノ耕地「ゴム」ヲ産スルナラント期待セラル、「ヘルフェリツヒ」氏ノ調査（熱帶植物、一九一二年第一號）ニ依レバ海峽殖民地ニ於テ良好ノ管理セラレタル耕地ニ於テハ一封（英斤）ノ「ゴム」ヲ歐洲渡一志六片ノ著値ニテ生産セラル、然ラバ「キログラム」ニ付キ約三、四〇麻克トナルベク而カモ上等ノ品質ノ「ヘバ、コーチユツクゴム」ナリト云ヘリ、故ニ勞銀ガ海峽殖民地ヨリモ五割方低廉ナル「ジヤバ」ノ「ゴム」耕地ニ於テハ所ニヨリテハ猶平均ノ仲値ハ恐クバ幾許カ廉價トナルベキ勘定ナリ、故ニ今日（一九一二年二月末日）「ヘバゴム」ノ一等品「キログラム」十麻克スルモノガ遠カラザル將來ニ於テ其半バヨリモ低廉トナルベキヲ想像スルニ難カラズ。

此時ニ及ビテモ猶我國ノ東阿「マニホット、ゴム」耕地ハ收支引合ヒ得ベキカ、「ゲハイムラート、スツウルマン」氏ハ昨年本章ニ於テ説明シテ曰ク現下ノ經濟方法ヲ採リテハ漢堡ニ於テ「マニホット、ゴム」一「キログラム」ヲ六麻克ニ賣ルトモ栽培者ノ受クベキ利益毛頭ナカルベシト、獨逸東阿栽培組合長兼支配人「ワルンホルツ」氏ハ「ゴム」特別委員會々議ニ於テ詳細ナル投資利廻ノ計算ヲ示シ其結論ニ際シ又同ジク凡テノ手數及其他ノ冗費ヲ差引斟酌シテ漢堡ニ於ケル賣價六麻克ナリト云ヘリ（勿論之ニ付キ勞銀及徵募費ハ更ニ騰貴セザルモノト假定シテ）、其他及最近「マツクワルド」氏ノ報告セル所ニヨレ

バ(ゴム)新聞二六卷八號以下)會社が最モ好況ノ折ノ實價ハ一「キログラム」ニ付キ四、六〇麻克ト定メ得ベキモ平均ハ五、八〇乃至六マルクト豫想セザルベカラズト云ヘリ、實際自己ノ勞力ヲ實費中ニ算入セザルヲ常トスル獨立ノ栽培者ニ在リテハ三、九〇麻克迄低下シテ平均約四、五〇麻克ノ計算トナルナラン。

從來東阿「ゴム」ハ「バラ、ゴム」ニ比スレバ平均二割五分乃至三割方低廉ナリ、故ニ此比例ヲ基礎トセバ若シ「ヘベア、ゴム」ガ「キログラム」九麻克以下ニ下落スルトキハ直チニ阿弗利加耕地ノ利廻リニ附クコトガ停止スベキハ想像シ得ラルベシ、此ノ如キ時期ハ已ニ説明セルガ如ク遠カラズシテ到來スルナラン。

若シ東阿弗利加ノ耕地ヲシテ絶望ノ淵ニ陥ラザラシメンコト欲セバ其生産シタル「ゴム」ガ南東亞細亞ノ生産シタル「ゴム」ト競争ニ堪ユル爲メ生産ヲ低廉ニシ且ツ之ガ改善ヲ圖ルニ全力ヲ擧ゲテ努力セザルベカラザルハ言フ俟タズ、「ゴム」特別委員會ノ會議ノ際ニ「サンドマン」氏ガ、「コロソポ」ニ於ケル「カルウエ、バンバー」氏ノ方式ニ則リテ作りタル樹液注出法ニ依レバ東阿「マニホット、ゴム」樹ヨリ最良ノ「バラ、ゴム」ト同一ノ價值ヲ有スル「ゴム」ヲ得ベシト説明シタルトキハ恰モ救命使ノ語ノ如ク聽者ノ耳朵ヲ打チタリ、受液器ヲ吊懸スルコトニヨリテ樹幹ニテ乳液ノ有害ナル凝結ヲ生ズルヲ避ケ得ベク以テ純粹ノ生産物ヲ獲得シ得ベシト云フト雖モ、憾クバ多ク望ヲ囑シテ歡迎セラレタル此方

法モ實際上就中裝置ガ高價ナリシ爲メ效果ヲ擧ゲザリシガ如シ、「マルクワルツ」氏ノ報告ニヨレバ「サンドマン」氏ノ方法ニ從ヘバ一人ノ最高作業高ハ濕潤ナル「コーチユック」四五〇「グラム」ヲ得ベク而シテ一般普通ニ行ハル、「レワ」氏式ヲ採レバ一人平均一、三キログラム、人ニヨリテハ四、五「キログラム」迄ノ「コーチユック」ヲ採取シ得ベシト云フ、新方法ニツキテノ效果如何ハ尙ホ未決ナリ、「アマン」及其他ノ所ニ於テ目下試驗中ニ屬ス、恐クバ猶目的ニ近クコト必シモ不可能ニアラザランカ、近來「ゴム」ヲ叮嚀ニ洗滌スルコトニ依リテ甚ダ喜ブベキ好結果ガ得ラレタリ、「マニホット」ハ益々多額ニ、「ハンブルヒ」ノ市上ニ現ハレ「バラ、ゴム」ニ僅カ劣レルノミ時トシテハ「バラ」ノ價格ニ達スルコトアリ。

洗滌ハ勿論「ゴム」ノ生産費ヲ増加シ其重量ヲ減少ス故ニ其市價ノ貴キハ未ダ俄ニ利益ノ多キ證據タラズ、然レドモ此成功ハ其價值ヲ大ニ認メザルベカラズ、何トナレバ是レ東阿ノ總生産ヲ優等ニシ且ツ統一的ノ標準品質ニ依リ替ユルコトニ成功スル將來ノ希望ヲ開キタレバナリ、此他將來喫緊事項タル生産費ノ引下モ亦然ル後ニ恐クバ目的ヲ達セラル、ナラン、又從來僅カニ試驗セラレタル施肥ノ試驗ハ甚ダ好成绩ヲ示シタリ、良好ナル種苗ヲ選擇スルコトモ恐クバ又利廻リヲ多カラシムルニ與カリテ力アラン。

從來樹木ヲ栽植スルニ其間隔密ニ過ギタルハ多ク收穫ニ不利益ノ影響ヲ與ヘタリ、官廳ノ統計ニヨレ

バ、一九一一年ノ初メニハ猶二五、四八四「ヘクター」ノ坪數ノ上ニ二〇、二九三、七七九本ノ「マニホット」樹ヲ栽ヘタリ、即チ之レニ依レバ各樹ハ平均約三米突半宛ノ間隔ニ栽植セラレタル計算ナレドモ各樹ニ米突宛ノ間隔ニ栽植セラレタル耕地モ亦ナキニアラズ、其道ノ人々ハ之ヲ以テ夙ニ密ニ過ギタルモノト爲シ抜切ノ必要ヲ唱道シタリ、マニホット、グラチオグキ」樹ノ如ク自由ニ放任セバ一〇乃至一五米突ノ樹蓋ノ直徑ニ達スル樹ハ二乃至三米突ノ場所ニ之ヲ押込メテハ十分ノ發達ハ得テ望ムベカラズ（サンドマン氏）

南亞細亞ニ於テ「ヘペア」ニ付キテ、又「ノエギネア」ニ於テ「カスチロア」及「ヒクス、ゴム」ニ付キテ爲シタル經驗ニ徴スレバ「マニホット、ゴム」ニ付キテモ亦更ニ廣キ栽植距離ヲ採用スレバ其收穫ヲ増加スルコト大ナルハ蓋シ疑ヲ容レズ、然レドモ茲ニ最重要ナルコトハ勞力ヲ今ヨリモ更ニ低廉トナシ殊ニ高價ナル勞働者徵募費ヲ低廉ナラシムルコトヲ計ルニアリ。

假令生産費ヲ低廉ナラシメントスル努力ガ效果ヲ奏スルコトアリトスルモ少クトモ一時東阿ニ於テ純粹ノ「ゴム」栽培ハ收益ヲ見ルコトヲ得ザル時期ノ到來センコトヲ懼レザルベカラザルヲ遺憾トス。

此ノ如キ事情ハ又將ニ繁榮ニ赴カントセル棉花栽培ガ非常ノ痛苦ナル減退ニ遭遇セルト共ニ等シク歎息スベシ、一九一一年ニハ捲縮病ガ大ニ耕地ヲ荒廢セシメタリ、棉花ノ最大耕地タル「ライプチツヒ」棉花紡績所ノ耕地ハ非常ノ不作ニ遭ヒシ爲メ會社ハ其業務ヲ大ニ縮少シ唯二三「ヘクター」ノ試作

ニ止メント欲シタリ、是レ一見危懼スベキガ如シト雖モ未ダ以テ棉花栽培ノ前途ヲ杞憂スルニ足ラズ、大體ニ於テ從來得タル結果ニ依レバ東阿ノ棉花ハ性質優良ニシテ埃及棉花ト十分競争シ得ベキコトヲ示シタリ、然ルニ折良クモ年末頃ニ至リ、二人ノ栽培者ガ簡易ナル捲縮病豫防方法ノ秘訣ヲ發見セリトノ彼ノ地ヨリノ報告ニ接シタリ、已ニ一九一〇年ニ政府ヨリ任命セラレタル植物病學者、ドクトル「クレンツリン」氏ハ其研究ノ結果捲縮病ノ原因ハ菌類ニモアラズ又樹根ノ疾病ニモアラズ、全然土壤ノ性質ニモ亦氣候ノ如何ニモ無關係ナリト斷定シタリ、一九一一年氏ハ稍完備セル研究ノ結果ヲ確定シ、該病患ハ蟬ノ發生スルト同時ニ發生スルヲ以テ此蟬ハ病患ノ誘發者タルニ相違ナカラント斷言シタリ、此結果ハ今又「ペンツエル」兄弟ガ彼等ノ「ルファイ」河畔ナル「シユベルトホーフ」ノ耕地ニ於ケル試驗ニヨリテ益々確實トセラレタリ、此兩名ノ栽培者ハ歐洲人ノ耕地ニ於テハ他ノ何所ニモ居ル蟬ノ在ラザルコトニ心附キ、此現象ヲ丈高キ草ヲ生セシメ置ク土人ノ耕地及草樹ノ根ヲ掘起スコトニ由リテ蟬ノ未ダ驅除セラレザル當初ノ歐洲人ノ耕地ニ於テハ全然此病害ノ發生スルコトナキ事實ト引合セテ其原因ヲ探究シタリ、「シユベルトホーフ」ニ於ケル系統的ノ試驗ガ蟬ハ蟻ヲ遁レ去ルコトヲ明カニシタルヲ以テ捲縮病ノ豫防ニハ最モ簡易ナル方法ヲ發見シタルガ如シ、即チ其方法トハ耕地ヲ設クルニ單ニ各一條ノ棉花畑ノ傍ニ蟻ヲ容ル、ヤウニ一條ノ荒蕪地ヲ置ケバ足ル、「シユベルトホーフ」ニ於テハ此方法ヲ以テ充分ナル結果ヲ奏シタリ。

然レドモ「ベンツェル」兄弟ノ方法ガ一般ニ採用セラルベク且ツ好果ヲ奏シ得ルヤ否ヤニ關シテハ猶研
究ヲ要ス。若シ東阿ニ於ケル棉栽培ガ速ニ捲縮病ヲ撲滅シ得ザルナラバ其前途甚ダ悲觀スベキモノア
ラン、茲ニ又從來埃及棉花ヨリモ抵抗力ニ富メルコトヲ認メラレタル「アツブランド」棉花ガ近來驚ク
ベキ好成績ヲ示シタルコトヲ一言セザルベカラズ、疾病ニ罹レル「アバツシ」棉花ニ直チニ隣接シテ植
ラレタ「アツブランド」棉花ハ全然健康ナリキ、此棉花ハ其生産品ノ價値ニ於テ劣等ナルモ三、四倍
多クノ收穫アルト摘採ニ勞力ヲ要スルコト少キトノ二點ハ其缺點ヲ償フテ餘アリ（ウサンバラ郵報二
卷一七號、一九一二年）、是ニ由リテ觀レバ「トウゴオ」ノ將來ハ「アツブランド」棉花ニ屬スト云フモ誤
ナカルベシ。

東阿弗利ニ於ケルヨリ他ノ我國ノ執帶殖民地ニ於ケル歐洲人ノ耕地ノ繁榮ハ一層喜ブベシ。

「カメルン」ニ於テハ主要ナル栽培タル「カカオ」耕作ハ大體ニ於テヨリ進歩シタリ、勞働者ヲ得ルニツ
キ條件ノ良好ナル結果「ゴム」ヲ栽培スル耕地スラ冷然トシテ豫期セラル、價格ノ下落ニ對セリ「カメ
ルン」ニ於ケル「ゴム」栽培ハ日猶淺ク其採取費ヲ充分正確ニ計算スルコト難シト雖モ目下勞銀ハ遙カ
ニ低廉ナルヲ以テ「キツクリシア、ゴム」ノ實價ハ甚ダ低廉ナルベキコトハ已ニ斷言シ得ベキガ如シ、
支配人「ラーデウキツヒ」氏ハ殖民地經濟委員會ノ「ゴム」特別委員會ノ議事ニ際シ説明シテ「モリウ
エ」栽培會社ニテハ運賃及漢堡ノ販賣費ヲモ含ミテ「キログラム」ノ實價未タ三麻克ニ達セズト云ヘ

リ此他「カメルン」ニ於テハ近來益々從來ノ「ゴム」ヲ捨テ「ヘベア、ゴム」ノ栽培ヲナス者増加シタリ、
此「ゴム」ハ今日迄經驗上最大ノ競争能力ヲ有セリ。

「トウゴオ」ニ於テハ僅少ナル歐洲人耕地ガ好成绩ヲ示シタリ。

「サモア」ニ於ケル栽培者ハ關心ノ一年ヲ送リタリ、「サモア」人ハ唯時々其任意勞働ニ對シ甚ダ高價ノ
勞銀ヲ與ヘテ之ヲ得ベキノミナルヲ以テ勞働者ハ之ヲ外國ニ仰ガザルヲ得ザリキナリ、二三年以來渡
來セル支那ノ苦力ハ一般ニ好成绩ヲ示シ、「サモア」ニ於ケル此等ノ勞働者ノ衛生状態ハ良好ナリ、茲
ニ於テ近來支那政府ハ更ニ引續キテ苦力ヲ輸送スルコトヲ、數箇ノ要求ノ容認ニ懸ラシメタリ、此要
求ノ主タルモノハ全然支那人ニ歐洲人ト政治上經濟上同等ノ地位ヲ保有セシムルコトヲ目的トセリ、
我國ハ支那ノ要求ノ一部ハ之ヲ容レタレドモ、其主タル要求ハ經濟上及政治上ノ理由ヨリ拒絕シタリ、
故ニ已ニ一九一〇年末ニ必要ナルベカリシ勞働者ノ輸送及一九一一年ノ央ニ期限トナル交代輸送モ實
行スルコト能ハザリキ。

南洋ニ對シ特許ヲ得タル獨逸商業及栽培會社ガ、其勞働者ノ備入ヲ約シタル「ノエギネア」ヨリハ其地
ニ於ケル栽培者ノ抗議ニ因リ一人ノ勞働者ヲモ得ルコト能ハズ、又瓜哇ヨリモ和蘭政府ガ瓜哇及「サ
モア」間ノ汽船連絡ヲ開クコトヲ輸出許可ノ前提條件ト爲シタルヲ以テ同地ヨリモ亦一人ノ勞働者ヲ
得ルコト能ハザリキ。

斯ノ如クシテ勞働者缺乏ノ困難ハ終ニ耕地ノ重大ナル禍害ヲ救フ爲メニ不本意ナガラモ支那ノ要求ヲ容ル、ノ止ムヲ得ザルヲ感ゼシムル程益々増大シタリ、遂ニ此要求ヲ容レタル後五五一名ノ新輸送ガ一九一一年一二月ノ末ニ「サモア」ニ到着シタリ、栽培者ガ此遲延シタル到着ニ因リテ大損害ヲ被リタルヤ否ヤ及支那人ニ歐洲人ト同一ノ地歩ヲ與ヘタルニヨリテ生ズル結果如何ハ猶未ダ詳ナラズ。

「サモア」ニ於ケル勞働問題ハ兎ニ角猶未ダ解決セラレタルニ非ズ、年末頃「サモア」栽培者協會ヨリ帝國議會ニ提出シタル諸請願ハ採擇セラレタリ此諸請願ハ「ノエギネア」ニ於ケル徵募ヲ可能ニシ且ツ和蘭政府ヨリ要求セラレタル「サモア」及瓜哇間ノ汽船連絡ヲ開クコトヲ目的トセリ。

「サモア」ニ於ケル栽培並ニ「ノエギネア」及島嶼地ニ於ケル栽培ノ繁榮ハ全ク満足スベキ程ナリ。

歐洲人ノ耕地ニ於ケル栽培ハ之ヲ細別スレバ左ノ如キ發達ヲナシタリ。

「コ、」椰子

獨逸ニ於テハ植物脂油ノ需用急速ニ増加シツツアリ、「コブラ」(「コ、」ノ實ヲ乾燥シタル果肉)ノ輸入ハ次ノ如シ。

年次	噸數	價額單位百 萬麻克
一九〇七	四九七八五	二二、五
一九〇八	八三六六九	三〇、二
一九〇九	一一二一五九	四六、五
一九一〇	一五五九八九	八二、五

此分量ハ殆ド全部内地ノ製造用ニ供セラレタリ、故ニ此重要ナル粗製材料ノ益々多クノ分量ガ我國殖民地ヨリ産出セラル、コトハ喜ブベシ。

「ノエギネア」及島嶼地ニ於テ、「コ、」椰子ヲ栽培セル坪數ハ一九一〇年ノ初メニ二一、三九八「ヘクタール」ナリシガ一九一一年ノ初メニ於テハ二四、五六八「ヘクタール」ニ増加シタリ、但シ此中ニハ土人ノ栽培モ通算セラレタルガ如シ、即チ實際ノ増加ハ記錄ニ依レバ左迄大ナラズ、何トナレバ増加ノ一部分ハ全ク耕地業ノ精細ナル統計ヲ取リタルガ爲メニ計數中ニ入レ來レルヲ以テナリ、收穫能力アル椰子ノ數ハ(マルシヤル島ヲ除キ)前年度ノ七五八、三三四ニ對シテ七八二、四四九ニ増加シタリ、「サモア」ニ於テハ四、五七〇「ヘクタール」ノ耕地坪數ハ依然タリ、反之收穫能力アル樹木ノ數ハ四四七、五〇四ヨリ四七四、六〇〇ニ増加シタリ、一九一〇年ニハ「ノエギネア」ニ於ケル作物ハ旱魃ノ害ヲ被リタリ、犀甲蟲ハ殊ニ南「ノエメツクレンブルグ」ニ於テ大災害ヲ與ヘタリ、「サモア」ニ於テモ亦

一九一〇年ニ犀甲蟲發生シタリ、然レドモ螟蛉及甲蟲ニ罹リタル作物ニ系統的ナル滌清法ヲ施シ以テ其撲滅ノ功ヲ奏シタリ。

甲蟲ノ撲滅ハ困難ナラズ而シテ濕潤ノ年ニハ自ラ滅失スルモノナルヲ以テ甲蟲ノ被害ハ左迄變フベキモノニ非ズ(ウオルトマン氏、熱帶植物一九一一年第一號)、又此甲蟲ヨリモ西「カロリネ」ニ於テハ甲蟲ガ數年前來大ニ作物ヲ荒ラシ「コ、」栽培者ヲシテ大ニ寒心セシメタリ。

中央「カロリネ」島及「マリアネ」島ニ於ケル旋風被害耕地ハ恢復シタリ。

獨領東阿ニ於ケル「コ、」栽培ノ大部分ハ土人ノ手ニ在リ、歐洲人所有ノ栽培ハ増加セザリキ、一九一一年ノ當初ハ前年ノ六〇二、一一二本(此中一六二、五六四本ハ收穫能力アリ)ノ椰子樹ニ對シテ六〇七、二三七本(此中一五三、〇七六本ハ收穫能力アリ)ナリキ、獨逸東阿會社ノ書キタル如クンバ椰子ノ維持ハ唯極メテ少計ノ冗費ヲ要スルノミナルヲ以テ之ガ栽培ハ能ク引合ヒ初メタリ、此果實ノ産額中大部分ハ土人ノ食料ニ供セラル、殊ニ鐵道工事ニ從事セル人夫ニヨリテ其大多額ヲ消費セラ

ル。
一九一一年ノ初メニ當リ一一、五五〇本ノ椰子ヲ歐洲人ガ有シタリシ「トウゴオ」ニ於テハ肥料輸入ノ結果トシテ甚ダ好收穫ヲ得タリ。

各殖民地ノ「コブラ」輸出額及其價額ハ次ノ如シ。

獨逸東阿弗利加	一九〇九		一九一〇		此中獨逸ハ輸出セラレタルモノ	
	トウ	コ	トウ	コ	トウ	コ
「ガメルン」	三〇六、七九五	七九、九四六	五三、八四六	一九、九三九	六二、四八八	二六、四七五
「トウゴオ」	一一九、六六六	三、〇六五	一三、五五五	四、一七二	九、八五八	二、七四七
「ビスマルク群島」	七九、九六二	一、九八五	八、七八〇	二、九三二	五、七四八	一、九八八
「カイゼルウイヘルヘルムスランド」	七、四四九	三、〇三六	四、五五〇	一、〇〇一	五、七四八	一、九八八
東「カロリネ」	七、〇一七	一、〇三三	一、〇四七	一、六三六	九、〇四六	一、七〇六
西「カロリネ」	九、三〇九	一、八五五	九、九六一	二、九〇〇	一、〇三三	七、八一
「バラウ」及「マリアネ」	二、九三九	七、九八元	三、七三三	七、六三六	二、〇四三	四、九二四
「マルシヤル」	九、二四二	二、五〇三	九、四二九	二、七二六	四、二四三	一、三〇九
「サモア」	二、五六六	六、四〇五	二、九三三	九、三三〇	一、三七三	四、三三〇

「コブラ」ノ價高カリシヲ以テ耕地ノ收益ハ十分ナリキ。

一九一〇年ニハ南洋産「コブラ」ノ價格ハ漢堡ニ於テ一噸四六〇乃至五六〇麻克ノ間ヲ上下シタリ、一九一一年ニハ第一ノ四半季ニ於テ三月ニ一噸四一五麻克迄下落シタレドモ爾後次第ニ騰貴シ九月ニハ五七五麻克ニ及ビ十月ニハ猶更ニ甚シキ高値ヲ保チ年末頃ニハ一噸四八五乃至四九五麻克ノ間ヲ上下シタリ、東阿産ノ「コブラ」ハ凡テ稍々價格劣レリ、一九一一年ニハ「ノエギネア」會社ノ年報ニヨレバ南洋ヨリノ輸入ハ略ボ前年度ニ於ケルト同一ノ數額ニ達スルナラン。

油椰子ノ生産物ノ價格引續キテ良好ナルニ刺撃セラレ「カメルン」ノ耕地ハ此椰子ノ栽培ニ益々多ク注意ヲ拂ヒタリ、一九一〇年ニハ二箇ノ新製造工場建設セラレ之ニヨリテ耕地ニ到ル所野生セル椰子ハ栽培會社ニ利用セラレタリ、然レドモ之ガ採取ヲ爲スハ容易ナラズ、唯特殊ノ熟練ヲ有セル勞働者之ヲ能クスルノミ、近來廣ク中間栽植トシテ「ゴム」「カカオ」及其苗木ヲ椰子ト共ニ栽植シ或ハ土壤ガ石交リナルガ爲メ「ゴム」「カカオ」等ニハ特ニ適セズト思料セラル、場所ニハ油椰子ノ苗木ガ栽培ケラル、ナリ、椰子ハ八年目ニ收穫シ得ラル、見込ナリ。

歐洲人ノ耕地ニ於テハ一九一〇年ノ初メニ一九、四〇〇本ノ椰子ヲ算シタルガ一九一一年ノ初メニハ一七五、〇四九本ヲ算スルニ至レリ、然レドモ此計數ニハ信ヲ措キ難シ何トナレバ耕地ノ多クハ野生トナリタル樹ヲ統計ニ示サバルヲ以テナリ

「カメルン」ヨリ輸出シタル數量及價額左ノ如シ。

	一九〇九年	一九一〇年
椰子油	三、三〇五、一四二 <small>キログラム</small>	三、一四〇、八九四 <small>キログラム</small>
椰子仁	一、〇九六、七三三 <small>キログラム</small>	一、二五九、九二〇 <small>キログラム</small>
	一三、二二四、〇六五	一三、六八九、〇六五
	二、六一一、四七八	三、五五三、四七九

「マネングバ」鐵道ニヨリテ廣大ナル椰子林ガ開發セラレタルヲ以テ後年非常ニ輸出ヲ増加スルナルベシ、獨逸ガ鉅額ノ椰子ヲ需用スルコトヲ顧ミレバ（一九一〇年ニハ二四二、四五四噸其價額八八、四百萬マルクヲ輸入シタリ）是レ大ニ歡迎スベキコトナリ、「カメルン」産椰子仁ノ漢堡相場ハ一噸三四〇麻克乃至三九四麻克ノ間ヲ上下シ一九一一年三月ニハ三二三麻克ニ下落シ暫クシテ昇騰シ十月ニハ三九〇麻克迄上リシガ年末ニハ三六〇麻克ノ相場トナリタリ。

「トウゴオ」ニ於テハ椰子ノ栽培ハ殆ド全ク土人ノ掌握スル所タリ、同地ニ於ケル強雨ハ一九一一年ノ收穫ニ甚ダ有利ニシテ輸出ハ甚ダ多カリキ（一九一〇年ニハ八、一九九噸ノ椰子仁及三、〇一九噸ノ椰子油ヲ輸出シタルニ一九一一年ニハ二、二四七噸ノ椰子仁及三、九六四噸ノ椰子油ヲ輸出シタリ）

東阿ニ於ケル珈琲栽培ハ再ビ將ニ増加セントス、「モシ」區及「ブコバ」區ニ於テハ頗ル良質ノ珈琲ヲ産シ相當ニ利潤ヲ收テ販賣スルコトヲ得タリ、故ニ土人ハ益々珈琲栽培ヲ廣ク擴張シタルノミナラズ又三箇所ノ小ナル歐洲人ノ耕地ガ一九一〇年ニ於テ「ブコバ」ニ新設セラレタリ、「ブコバ」稅關ヲ經タル輸出ハ一九〇九年ニ於ケル二八九噸ヨリ一九一〇年ニハ四一一噸ニ増加シ（其價額二二四、三九一麻克）（商工業報告第十六年第七卷一一二頁）以テ「タンガ」ノ輸出（五〇〇噸）ニ多ク劣ラザルニ至レリ、珈琲ハ此所ヨリ「ウガンタ」鐵道ヲ經テ「モンバサ」ニ送ラレ「モンバサ」ニテ歐洲行ノ船ニ積込マル、又

「ウザンバラ」ニ於ケル珈琲栽培ノ坪數ハ益々減少シ劣等ナル作物ハ拋棄セラレ最良ノモノノミ極力培養セラレタリ、一九一〇年ノ末及一九一一年ノ初ニ此地ニ蝗蟲多ク發生シ收穫高ヲ害シタルハ遺憾ナリ。

官廳ノ統計ニ依レバ大體ニ於テ一九一〇年ノ始ニ於テハ歐洲人ノ栽培地面積ハ一六一三「ヘクタール」ニシテ其樹數ハ三、五〇三、五一九本ナリシモノ一九一一年ニ於テハ栽培面積ハ三一二三「ヘクタール」(此中約一、〇〇〇「ヘクタール」ハ「モシ」區)ニ増加シタルモ樹數ハ却テ三、三三三、二八八本ヲ算シタルノミ、而モ世界市場ノ好況ハ東阿ノ耕地ニ對シテ頗ル好都合ナリキ、一九一〇年ニハ半「キログラム」ニ付キ四九乃至六五「ペンニツヒ」ノ間ヲ上下シタル「ウザンバラ」珈琲ノ漢堡相場ハ一九一一年ニハ六〇乃至七七「ペンニツヒ」ノ間ヲ移動シタリ。
其他ノ殖民地ニ於ケル珈琲栽培ハ云フニ足ルモノナシ。

「カカオ」

世界市場ニ於ケル「カカオ」價格ノ平準ハ一九一一年ニモ甚ダ低廉ノ儘ナリキ、第四〇二卷ニ於ケル「ゴルヂアン」ノ計算ニ依レバ最近三ヶ年間ニ於ケル世界ノ消費及生産額左ノ如シ。

世界ノ生産	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年
	二〇五、八二五	二二〇、九〇五	二四七、五〇〇

世界ノ消費額

一九四、八三五

二〇〇、七七九

二三〇、〇〇〇

此ニ依レバ世界ノ在庫額ハ引續キテ増加スルヲ以テ價格ノ大ナル増加ハ目下ノ所殆ンド期待スルコト能ハズ、又南米及葡萄牙ノ栽培者ノ價格釣上策モ殆ド效ヲ奏セザルナラン、珈琲ニ成功シタル經驗モ直チニ之ヲ「カカオ」ニ應用スルハ甚ダ危險ナリ、何トナレバ「カカオ」ハ久シク倉庫ニ貯藏スルトキハ著シク品質ヲ損スルヲ以テナリ又此價格釣上策ハ國家ノ補助ナクシテハ實行シ難カルベシ。

一九一〇年ニ漢堡ニテ「ツェントネル」ニ付キ四六、五〇乃至五二、〇〇〇麻克ノ價格ヲ有シタル「カメルン」産耕地「カカオ」ハ一九一一年ノ初ニハ五〇「キログラム」ニ付キ五三乃至五四麻克ノ價格トナリタリ、價格ハ初メノ月ハ稍下落シタレドモ五月ヨリ再ビ昂騰シ九月ニハ六〇麻克ノ相場ニ達シ而テ年末頃ニハ又約四五麻克ニ下落シタリ、即チ大體ニ於テ價格ノ平準ハ前年ヨリ稍高カリキ、南洋産「カカオ」モ亦同様ニ其價額ハ品質ノ如何ニヨリ五五乃至六四麻克及六五乃至七〇麻克ノ間ヲ上下シタリ我國殖民地ニ於ケル「カカオ」栽培ノ發達ハ左表ニヨリテ明カナルベシ。

栽培面積

總計本數

獨逸東阿	一九一〇年ノ初	一九一一年ノ初	一九一〇年ノ初	一九一一年ノ初
	九三	一一〇	五九、一二七	五〇、〇〇〇
「カメルン」	八、四一〇	九、五八三	四、六二五、五〇〇	五、三三三、三二〇

「トウゴオ」	一四四	—	一〇二、八五三
「ノエギネア」 及「島嶼地」	三三四	四一八	一五三、一六八
「サモア」	二、一三三	二、一四一	一、一六八、六二一
			一、二二五、九七九

之ニ依レバ著大ナル栽培ノ増加ハ唯「カメルン」ニ於テ之ヲ見ルノミ、收穫能力アル樹數ハ「カメルン」ニ於テ約四六二、〇〇〇本「ノエギネア」ニ於テ約五四、〇〇〇本「サモア」ニ於テ約二三、〇〇〇本文ケ増加シタリ。

輸出額及其價額左ノ如シ。

	一九一〇年	一九〇九年
獨乙東阿	七、六三五	三、一九〇
カメルン	三、四三一、〇五八	三、三二二、八〇八
トウゴオ	一三七、〇四五	一三三、六一七
ノエギネア	四〇、一七九	六、七九六
サモア	五〇四、六〇〇	三八六、八三六
計	四、一二〇、五一七	三、八五三、二四七

「カメルン」産「カカオ」ノ大部分ハ栽培「カ、オ」ニシテ(三、四三一噸ノ總輸出額中二、九四七噸)其過

半ハ漢堡ニテ販賣セラレ獨逸ニ殘レルモノハ一、〇二一噸ノミ殘餘ノ二、四〇〇噸ハ外國ニ賣捌ケタリ、一九一一年ニハ「カメルン」産「カカオ」ハ益々進デ之ヲ買フ者アリタルガ、西阿「グイクトリア」耕地會社ガ報ズルガ如シバ外國ヨリ甚ダ有望ナリト認メラレタルガ爲メニヤ此會社ハ毎々「カカオ」ノ大注問ニ接シタリ即チ此會社ハ多クノ世界の外國商店ヨリ全一年ノ産額ヲ買入ル、旨ノ注問ヲサヘ受ケタルコトアリト云フ、一九一一年「カメルン」ニ於ケル收穫ハ非常ノ強雨ノ爲メニ大損害ヲ被リタルハ遺憾ナリ。

「サモア」ニ於テハ銳意樹皮病ヲ撲滅セントシタレドモ勞働者ノ缺乏ニヨリ太シク困難ヲ感ジタリ、反之「ノエギネア」ハ好況ニシテ收納ヲ増加シタリ。

「カメルン」「トオゴオ」及「ノエギネア」ニ於テハ肥料ノ施用ニツキ頗ル佳良ナル結果ヲ得タリ施肥ノ必要ハ益々認メラレ(ツエルラー氏ノ「カメルン」ニ於ケル熱帶植物ノ施肥問題云云、一九一一年、三四五頁以下比較參照)「カメルン」ニ於ケル人造肥料ノ輸入ハ一九〇七年乃至一九一〇年ニ二二、五噸ヨリ一四八噸四六〇噸及七七噸ニ増加シタリ、低廉ナル世界市價ニ顧ミ施肥ニヨリテ生産ヲ低廉ナラシメ以テ高率ノ利益ヲ收メントカムルハ望マシキコトナリ。

シザール麻

「シザール」栽培ハ其栽培地面積ヨリ見レバ「ゴム」ノ次ニ位スル重要ノ栽培タリ、之ガ栽培ハ一九一〇

年ニハ一層ノ擴大ヲナシタリ、即チ耕地面積ハ一九一〇年ノ初メニ於テハ一七、一四一「ヘクタール」(四五、二七四、二三二株ノ「アガープ」蘭ヲ有セル)ナリシモノ一九一一年ノ初メニハ一九、〇五〇「ヘクタール」(四七、四一四、三〇〇株リ「アガープ」蘭ヲ有セル)ニ増加シタリ、切採リ得ル迄ニ成熟セル植物ノ數ハ同期間内ニ八、三七七、五七〇株ヨリ一七、七五八、七五〇株ニ増加シタリ。

東阿産「シザール」麻ハ殆ド其大半ハ漢堡市上ニ來ルト雖モ唯其中極メテ少量ノモノガ獨逸領内ニ入ルノミ。

獨逸東阿ヨリノ輸出額漢堡港ニ於ケル輸入漢及漢堡ニ於テ精選セル最上等品ノ價格(漢堡エル、リーボー氏ノ年報ニ依ル)ハ左ノ如シ。

年次	獨逸東阿ヨリ輸出額	漢堡ヘノ輸入額	價格 <small>一捆即五十基瓦ニ付</small>
一九三七	二、八〇三	二、五八一	三〇—四八
一九〇八	三、八九六	三、七八八	二七—三五
一九〇九	五、二八四	四、六一四	二七—三二
一九一〇	七、二二八	六、四五四	二四—二九、五
一九一一	?	約一〇、〇〇〇	二三、五—二六、五

即チ價格ハ「マニラ」麻ノ價格低廉ナルニ應ジテ前年ニ於ケルヨリモ低廉ナリキ(相場ハ一九一〇年ニ於ケル一九磅乃至二六磅一〇志ナルニ比シ一九一一年ニハ一八磅五志乃至二二磅五志ナリキ)、其賣行ハ東阿「シザール」ノ品質良好ナルヲ以テ殊ニ下半年期ニ於テ良好ナリキ、正當ニ設備セラレ良好ニ管理セラレル大耕地ハ價格低廉ナリト雖モ猶相當ノ利益ヲ收メ得ベシ、何トナレバ引合ノ率ノ最低限ハ前年本章ニ「ゲハイムラート、ストウルマン」氏ガ數字ヲ掲ゲテ説明シタルガ如ク又諸年報例ヘバ獨逸東阿會社ノ年報ヨリ容易ニ算出シ得ルガ如ク猶遙カニ從來實際ニ取引セラレタル賣値ヨリ以下ニ位スレバナリ。

小規模ノ耕地ニ於テハ「シザール」栽培ハ高キ生産費(機械ノ設備耕地軌道等)ノ爲メニ收支相償ハズ此コトニ付キテハ官廳又ハ非官廳ノ側ヨリ已ニ種々注意ヲ喚起セラレタリ。

「トウゴオ」ニ於ケル試験的栽培ハ大ナル見込ナカリキ、或ル耕地ニ於テハ「トウゴオ」ノ海岸ニ於ケル瘠地ニ於テハ「アガープ」蘭ノ生存期ガ東阿ニ於ケルヨリモ短小ナリト斷ズベキ旨ヲ記セリ、「ノエギホア」ニ於テハ此植物ノ試培ハ更ニ擴張セラレタリ(前年ニハ一六六、八一五株ノ「アガープ」ヲ有セル七八「ヘクタール」ノ栽培面積ナリシニ一九一一年ノ初ニハ三二四、九〇〇株ヲ有セル九七「ヘクタール」ニ増加シタリ)

綿花

一九一〇年ニ歐洲人カ東阿[○]ニ於テ棉花ヲ栽培セル面積ハ官ノ記念書^{デシクリフト}(一九〇乃至一一年ニ於ケル獨逸保護領云々ト題ス)ニ依レバ其從來ノ廣サノ二倍迄ハ行カザリキ、即チ一九一〇年ノ初メニ七、八〇六「ヘクタール」ナリシモノ一九一一年ノ初ニハ一四、二一一「ヘクタール」トナレリ、合計一六五箇所ノ耕地中八、八二四「ヘクタール」ハ純栽培トシテ五、五八七「ヘクタール」ハ中間栽培トシテ栽培セラレタリ。(此數ハ官ノ記念書「棉花問題」ニ掲ケタルソレト一致セズ)

輸出額ハ左ノ如シ

一九〇八年	二七〇、一四九	キログラム	其價格	二四九、四三八
一九〇九年	五一九、一八二		同	四四〇、四六一
一九一〇年	六二二、七一二		同	七五一、二九九

此數字中ニハ實ニ殖民地經濟委員會ニヨリ分配セラレタル種苗ニヨリテ同様ニ甚タ著シキ擴張ヲナシ得タル土人ノ生産ヲモ包含セリ、土人ノ生産ハ常ニ總生産ノ過半ヲ成セリ、一九一一年ノ秋殖民地經濟委員會ハ一九一〇年一一年ニ於ケル耕地ノ收穫ヲ豫想シテ約三、八〇〇梱即チ九五〇、〇〇〇「キログラム」ヲ見積リタレドモ各區殊ニ歐洲人ノ耕地ニ於テハ大ニ捲縮病ノ害ヲ被リタルヲ以テ(前記一〇八頁參照)此額ニ達シ能ハザルベシ。

東阿產棉花ノ相場ハ一九一一年ニハ前年ニ於ケルヨリ甚ダ低廉ナリキ、一九一〇年十一月乃至一九一

一年四月ノ間ニ東阿「アバツシー」棉花ハ平均半「キログラム」八九「ペンニツヒ」「ミタヒヒ」棉花ハ八二「ペンニツヒ」ノ相場ニシテ一九一一年ノ五月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ「アバツシー」ハ八〇「ミタヒヒ」ハ七五「ペンニツヒ」ノ平均相場ナリキ、十一月及十二月ニ於テハ、七二乃至七五、ペンニツヒノ價格ヲ保チタリ。

其土地ノ一般特有栽培トシテ東阿ニ於ケル棉花栽培ハ恐クバ將來有望ナラン、人民ヲ系統的ニ教育シテ棉花栽培ヲ普及セシムルコトハ大ニ好果アルベシ、例ヘバ「リンヂ」區ニ於テハ後年三、〇〇〇乃至四、〇〇〇梱(二五〇「キログラム」宛)ノ收穫ニ達セコントヲ期待セラル。

歐洲人ノ耕地ニ於テ此栽培ガ果シテ繼續シテ適當スルヤ否ヤハ最近年ノ不作ノ結果(降雨及捲縮病ニヨル一九一〇年ノ不作及捲縮病ニ因ル一九一一年ノ不作)復タ疑ハシクナリタルガ如シ、尙ホ未ダ試驗時代ニ在ルモノト見ザルベカラズ。

種々ノ方面ヨリ從來使用セラレタル(埃及ノ)種苗ヨリ得ラル、棉花ハ第一ニ纖維ガ均齊ナラズ且ツ後ニ至リテ短縮ステフ(殖民地經濟、棉花委員會、一九一一年一月二七日議事參照)面白カラザル經驗上ノ結果ヲ示シタリ、捲縮病ノ有效ナル撲滅方法ハ未ダ發見セラレズ、最モ抵抗力ニ富ミ且ツ收穫ノ多キ種類ハ各地方ニ對シテ永キ經驗ニ徴シテ初メテ決定セラレ得ベキモノナリ、「カラブオニカ」棉花ハ害蟲ヲ生ズルコト多キヲ以テ之ヲ栽培スルモノ漸次減少セリ。

「ガボック」ヨリ紡績ヲ製造スルコトハ「ヘムニッツ」紡績會社支配人タル「コムメルチエンラート」スタルク氏ノ云フ所ニ依レバ已ニ試驗ノ時代ヲ過ギタリ（一九一一年一月二七日棉花委員會議事七七頁）、「カボック」ヨリ作りタル燃絲ハ光澤ニ富ミ柔軟ナルヲ以テ特殊ノ貨物ヲ造ルニ用キラル、從來「カボック」栽培ノ大部分ハ唯東阿弗利加ニ於ケル歐洲人ノ手ニ存セルノミ、耕作セラレタル土地ハ一九一〇年ノ初ニハ五二一「ヘクタール」ナリシガ一九一一年ノ初メニ六九五「ヘクタール」ニ増加シタリ、「トウゴオ」ニ於テハ政廳ハ多大ノ面積ニ殖林シ且ツ公道ニ沿フテ此樹ヲ栽植シタリ。

「ゴム」

我國殖民地ニ於ケル「ゴム」耕地ノ將來ノ見込ニ付テハ已ニ詳述シタリ、茲ニ猶附加シテ云フベキモノハ唯昨年ノ發達ニツキテノ一覽ノミ、許多ノ新會社ノ創立ノ後ハ當然豫期シ得ベキガ如ク「ゴム」ヲ栽培スル面積ハ非常ニ増加シタリ、即チ我國ノ總殖民地ニ於テ一九一〇年ノ當初合計二三、五八七「ヘクタール」ヨリ一九一一年ノ初メ迄ニ三五、四一四「ヘクタール」即チ一一、八二七「ヘクタール」ヲ増加シタリ、次ニ掲グル表ニヨリテ明カナルガ如ク此等ノ増加ハ主トシテ獨逸東阿ニ屬シ小部分ハ又「カメルン」ニ屬セリ。

東阿ニ於テハ一九一一年ノ初ニハ其前年ヨリモ九、二四三「ヘクタール」多ク而シテ全然「マニホット、

グラチオヴイ」種ヲ栽培シタリ（氣候ノ關係上他ノ種類ノ栽培ハ問題トナラズ）、許多ノ樹木ハ漸次收穫ヲ生ズル時期ニ達シタリ、栽培セラレタル總計二千萬本中一九一〇年中ニ四百萬本ヨリ少ナカラザル樹ガ液汁ヲ採取スルニ適セル程ニ盛熟シタリ、故ニ八百五十萬本ノ收穫能力アル作物ヲ以テ一九一一年ヲ迎ヘ得タリ、故ニ已ニ一九一〇年ニ於テ四一四噸此價額三百三十萬麻克ニ（前年ノ二一八噸）其價百十萬圓ニ對シテ）上リタル東阿產耕地「ゴム」ノ輸出額ハ一九一一年ニ於テハ猶著大ノ増加ヲナスコトヲ得ベシ。

「カメルン」ニ於テハ官ノ統計ニ依レバ「キツクシア、エラスチカ」種ノ栽培ハ一九一〇年ノ間ニ約一、二〇〇「ヘクタール」丈ケ擴張セラレタリト云フ、實際更ニ多クノ數ガ能ク精密ナル統計ヨリ説明シ得ラルベシ（紀念書五六五頁）、從來「キツクシア」ヲ栽培シ成績好カラザリシヲ以テ之ヲ棄テテ益々栽培者ハ之ヨリモ手數ヲ要スルコト少ク而シテ中間栽植トシテ甚ダ恰適ノ「ヘベア、ブラジリエンス」種ヲ栽培スルニ至レリ、紀念書ガ特言セルガ如クンバ就中一九一二年一三年ニハ「ヘベヤ」ノ非常ニ擴張シタル栽培ヲナス豫定ナリト云フ、其時ハ十分「カメルン」產ノ苗木及栽培ノ材料ヲ調達シ得ンコトヲ望ム、然ルニ今日迄ハ苗木ハ其大部分ヲ印度ヨリ取寄セザルヲ得ザリキ、從來唯僅カノ「ヘクタール」ガ收穫ヲ得ラル、程度ニ成熟セルノミナルヲ以テ「カメルン」並其他ノ殖民地ヨリハ當分唯僅シノ耕地「ゴム」ヲ輸出シ得ルノミ。

區分	耕作面積		樹ノ總數		收穫能力アル樹數	
	一九〇年初	一九二年初	一九〇年初	一九二年初	一九〇年初	一九二年初
獨領東阿 マニホツトグラチオザイ	ヘクタール 一六二二	ヘクタール 二五四八	一四四二五五二六	二〇二九七七九	三四九七三六七	八五四一六六
	キツクシア 一八	一	一五九九	一三三	—	—
	カスチロア 四七	六	二〇五三	三六〇	七五〇	—
	ヘベア —	—	—	—	—	—
	ヒークス 一六二七	二五五〇	一四四六六五八	二〇三九一六二	三四九八二七	八五四一六六
	計	—	—	—	—	—
	カメルン	—	—	—	—	—
	キツクシア 三〇〇五	四九〇	二〇〇七〇〇	四九一五六五	一八七二	約六〇〇〇
	ヘベア 九八八	二八九	三〇〇〇〇	七六二七〇	—	—
	ヒークス 二七	六二	七〇〇〇	一六六八六	—	—
カスチロア —	—	—	—	—	—	
マニホツト 四〇八	六七〇	二二六八〇	五七四〇七四八	一八七二	約六〇〇〇	
計	—	—	—	—	—	
トウゴオ	—	—	—	—	—	
マニホツト 一三	—	—	一三四八七	—	—	
キツクシア 一七	—	—	一七五九	—	—	
ヘベア —	—	—	—	—	—	
ヒークス 二	—	—	—	—	—	
計	—	—	—	—	—	

ノエギネア及島嶼地	計		計		計		計	
	一九〇年初	一九二年初	一九〇年初	一九二年初	一九〇年初	一九二年初	一九〇年初	一九二年初
ヒークス	一五〇	一六九五	三五四三〇	三八八五四二	四六九〇〇	九七六一	—	—
ヘベア	六二七	四六〇	一五〇一〇	三二七〇〇	一九六八	五九〇七	—	—
カスチロア	二二	二五六	一三四一	一四八四六	三六六三	一〇一四一	—	—
キツクシア	七	一六	四九〇	五二六	—	—	—	—
マニホツト	二	一	一〇八	八三〇	—	—	—	—
計	二五七	二四一八	六二四九三	七六五五四	八五五〇	一〇一〇九	—	—
サモア	—	—	—	—	—	—	—	—
ヒークス	二二	二四	九八六〇	一七二四	—	—	—	—
ヘベア	七五三	七六〇	四〇三六九	四三〇〇〇	七三三〇	七四〇〇	—	—
カスチロア	六五	六五	三六四三	三五八一	六四一七	六四〇〇	—	—
キツクシア	八	三	六九〇〇	六七〇〇	—	—	—	—
マニホツト	二	—	四六九	三三四	—	—	—	—
計	八五一	八五二	四八四〇三	四九五〇九	一四〇一	一四一四	—	—

「ゴム」ノ價格ハ一九一一年ニハ概シテ前年度ヨリ甚シク低廉ナリキ、一九一〇年ニハ一時二七麻克以上ノ價值アリシ「キログラム」ノ「バラ、ハード、キユア、ファイン」印ハ已ニ同年ノ末頃ニハ唯一二二麻克八〇「ペンニツヒ」ノ相場トナリタリ、價格ハ一九一一年ノ最初ノ月ニハ騰貴シタレドモ又再ビ少シク低落シ次ニ五六月ニハ九麻克餘ニ下リ、下半期ニ於テ相場ハ稍持直シ九月ニ一一麻克ニ達シタレ

ドモ次ニ二回目ノ下落ニ遭ヒ以テ歲末ニ及ビ「キログラム」ノ「バラ、ゴム」ニ對シテ十麻克迄ハ出サ
 ヲル程ニ到リタリ、南亞細亞産ノ「ゴム」ハ已ニ市場ニ現ハレテ市價ヲ低下セシメ初メタリ、東阿産「マ
 ニホット、ゴム」ハ大體ニ於テ比較的甚ダ好キ價格ヲ保チタリ、遺憾ナガラ統一的ノ値段ヲ附スルコ
 トハ今日モ猶殆ド各耕地ガ品質ノ各異レル品物ヲ市場ニ出スヲ以テ不可能ナリトス、然レドモ益々良
 質ノモノヲ多ク供給シ且ツ最良質ノ「マニホット」ト「バラ、ゴム」トノ間ノ價格ノ差異ヲシテ益々僅少
 ナラシムルコトヲ看取シ得ベシ、是レ箇々ノ種類ノ製造業例ヘバ自動車「タイヤ」製造ニ於テ「マニホ
 ット」ヲ用ユルニ比シテ「バラ、ゴム」ヲ用ユレバ其高キ價額丈ケノ割合ニハ行カズテフ意見ヲ抱クニ
 至リシニ因レリ、一九一二年二月ニ於テハ上等ノ耕地「マニホット」ハ「バラ、ゴム」ノ價格ニ達シタリ、
 「マニホット」相ハ「キログラム」ニ付キ一九一一年ニハ五、二〇乃至七麻克ノ相場ナリキ。

各種ノ栽培

「バナナ」ハ獨逸ニ於テ漸次一般國民ノ食用ニ供セラル、ニ至リ其輸入ハ一九〇九年ニハ一四、九〇一
 噸ナリシガ一九一〇年ニハ二五、五五二噸ニ増加シタリ、此ノ如ク益々増加スル消費ニ因リテ我國殖
 民地ガ利益ヲ收ムルコトハ甚ダ喜ブベシ、世人ニ知ラル、モノハ從來唯手廣ク「バナナ」輸出ヲ營ム
 「カメルン」ノ一會社ニ過ギズ、若シ新鮮ナル「バナナ」ノ輸出ガ收支償ハズトスレバ次ニハ猶乾燥セル
 「バナナ」(ファイゲン)ノ輸出ヲ工夫シ見ルベシ、漢堡ノ二商店ガ同様ニ予ニ報知セル處ニ依レバ今日

ハ乾燥セル食用「バナナ」ノ益々増加スル需用ニ應ズルコト能ハザルヲ以テ其價格猶甚ダ不廉ニシテ漢
 堡著一噸ニ付キ五九〇乃至六七〇麻克ノ價格ナリト云フ(乾「バナナ」ニ付キテノ詳細ハ「ツアゴロズキ
 」氏ノ「バナナ」及其食用品トシテノ利用、熱帶植物、附録四、一九一一年參照)

東阿ニ於テ近來歐洲人ガ僅少ノ面積ニ玉蜀黍(五七九「ヘクター」)及米(四二「ヘクター」)ヲ栽培シ
 タリ、加特力ノ宣教師等ハ「アレキシス、ハーフェン」ニ於テ米ノ栽培ヲ「ノエギネア」ニ土著セシメン
 トスル興味アル試驗ヲ爲シタリ、二〇「ヘクター」ニ水稻ヲ作り且ツ灌溉ノ裝置ヲ設ケタリ、從來南
 洋ニ於ケル我國殖民地ハ亞細亞ヨリ鉅額ノ米ノ輸入ヲ仰ガザルベカラザリシコトヲ顧ミレバ此試驗ガ
 成功スルトセバ甚ダ歡迎スベキナリ。

「カメルン」ニ於ケル或ル栽培者ハ覆葉ニ恰適セル良質ノ煙草ヲ得ルコトニツキ成功シタリ、此甚ダ重
 要ニシテ且ツ喜ブベキ成功ガ多クノ葎ノ企業ヲ起サシムル動機ヲ與ヘタリ。

東阿ナル「バンガニター」ニ於ケル甘蔗栽培ハ復タ將ニ繁榮ニ赴カントス、甘蔗ヲ主トシテ栽培シ幼
 穉ナル機械ニテ製造セル一歐洲人ハ一九一〇年ニ一三二、八〇〇「キログラム」ノ砂糖及副産物ヲ得タ
 リ、將ニ創立セラレントスル或ル一會社ハ製糖ヲ營ム見込ニテ以前拋棄セラレタル砂糖製造所ヲ「バ
 ンガニー」ニ於テ新タニ設備シタリ。

我國ノ熱帶殖民地ハ一九一一年一月一日「マロッコ、コンゴ」協約ニヨリ著シク増大シタリ、
 「カメルン」ニ於テハ從來ノ廣袤ノ約半分丈ケ擴大セラレ、東方及南方ニ於テ内部阿弗利加ノ大交渉脈
 管タル「コンゴ」河ニ接觸スルコトナリタリ、新領域ニ歐洲人ノ耕地存在スルヤ、否ヤハ目下尙ホ
 不明ナリ、併シ是アリト聞ケリ、其領域ハ北緯七度迄達シ而シテ從來「ゴム」採取ノ獨占權ヲ有シタル
 佛國ノ特許會社ハ其「ゴム」生産ニヨリテ消滅ニ歸セシメタル植物ノ代リニ補償的栽植ヲナシ之ヲ維持
 スル義務ヲ負フコトナレリ、濫伐ハ廣ク行ハレ居リシナルベク從テ廣キ「ゴム」耕地ガ存在セザルベ
 カラザル筈ナリ、帳簿上ニテハ諸會社ハ多ク耕地ヲ有スレドモ實際猶之ヲ明確ニスル必要アルガ如シ。

(註)

其領域ガ全部或ハ一部獨逸ノモノトナリタル特許會社

ハ(南ヨリ北ニ數ヘテ左ノ如シ)

商	號	特許領域ノ見當	此中獨逸領トナレルモノ
一	ンゴゴ、サンカ會社	四八、〇〇〇	約五分ノ四
二	オーグーエ高地ノ農商工會社	一〇八、〇〇〇	甚ダ狭小ナル一條ノ地
三	コンゴ高地ノ佛國會社	五〇、〇〇〇	狭小ナル一條ノ地

四	熱帶サンガ會社	五、五〇〇	全部
五	サンガ、ウバンキイ森林會社	一七〇、〇〇〇	約五分ノ三
六	マンベールレサンガ商業及拓殖會社	五〇〇	全部
七	佛國コンゴ殖民地商業會社	一二、四〇〇	同上
八	ウーハメ及ナナ佛國會社	四四、〇〇〇	約半分

第七 獨逸殖民地ノ衛生狀況

「カメルン」駐屯軍々醫監 フオン、フリッブ、クーン

一、獨領東阿弗利加 人類ノ疾病

一九一〇乃至一一年中殖民地病院ニ於テ治療シタル疾病ハ、報告ニ依レバ四〇、三五五件ニシテ此内歐
 洲人三、九三六件有色人三二六、四一九件ナリ、殖民地ノ衛生狀況ハ概シテ前年度ト異ラザリキ、
 「マラリヤ」ハ稍流行シ殊ニ殖民地ノ北部ニ於テ流行シタリ、是レ降雨ノ夥多ナリシコト及鐵道建設ノ
 爲メニ傳播ノ危険ヲ一層大ナラシメタルトニ因レリ、「キリマンチャロ」及「メル」ニ於ケル移民地モ
 亦等シク該疾病ノ襲フ所トナリタリ。
 「痘瘡」ハ種痘ニヨリテ益々之ガ撲滅ニカメタリ、一九一〇乃至一一年ニ於テ八十萬人餘ニ種痘ヲ施

シタリシモ、「ダーレスザラム」「マヘンガ」「タボラキ」「リマチンデ」「バンガニ」「ムアンサ」ニ於ケル僅少ノ發生ヲ免レ得ザリキ、罹病一三九件中二八名ノ死亡者ヲ見タリ。

「ベスト」ハ一九一〇年ニ再ビ海岸地方殊ニ「リンチ」ニ發生シタルガ之ヲ發生地ニノミ限局スルコトニ成功シタリ、患者三名中二名ハ遂ニ死亡シタリ、「ベスト」ノ危険ハ海岸地方ニ於テハ常ニ大ニ注意ヲナスヲ必要トス、其他該病ハ「グイクトリア」湖畔ナル「ムアンサ」ニ於テモ亦發生シ其一六名ノ患者中一三名ハ死亡シタレドモ此地ニテハ其蔓延ヲ喰止ムルコトヲ得タリ、「ムアンサ」及其附近ニ於テ六〇、七〇九疋ノ鼠ヲ驅除シタリ、同時ニ「鼠ベスト」ハ「グイクトリア」湖畔ニ於ケル英國領ノ各所殊ニ「ネラ」ニ於テ發生シ「人類ベスト」ハ猶「ボート、フロレンス」及「ナイロビ」ニ於テ發生シタリ。癩病、新タナル癩病患者收容部落ヲ「リンチ」「イリンガ」及「マヘンゲ」ノ各區ニ設ケタリ。窒扶斯、ハ「モロゴロ」區ニ於テ有色人並ニ歐洲人中ニ發生シタルガ其性質緩和ニシテ死亡シタル者ナカリキ。

睡眠病、ハ「グイクトリア」湖畔ノミナラズ、「タンガンイカ」湖畔ニ於テモ亦其撲滅ニ成功シタリ、主トシテ伐木ニ全力ヲ盡シ以テ其撲滅ヲ圖リタリ、而テ此疾病ハ何處ニモ減退ヲ見タリ。腸虫病、ハ引續キ撲滅ニ力ヲ盡シタルヲ以テ從來發生シタル各區ニ於テモ漸次減少シタリ。痢病及回歸熱、ハ何所ニモ發生セザリキ。

家畜ノ疾病

「カタール熱」ハ土人中ニ大損害ヲ與ヘタリ。
「海岸熱」ハ隔離方法ヲ採リ以テ此風土病ヲ流行ノ焦點ニ限局スルコトヲ得タリ（「ランゲンブルヒ」、「ルアンダ」、「マンガチ」其他）、此各區ニ於テハ未ダ系統的ノ撲滅方法ヲ實行シ難シ、此土地ニテ生成シタル動物ハ免疫性ヲ有シ此疫病ヲ蔓延セシメザルヲ以テ之ヲ疫病ニ襲ハレタル地方ニ於テ運送ニ使用スルコトヲ許容シタリ。
「ツエツエ病」（毒蠅螫毒病）ノ治療法ハ依然トシテ進歩ヲ見ズト雖モ、其流行地ハ詳細ナル調査ニヨリテ今ヤ稍精密ニ之ヲ知ルコトヲ得タリ。
馬殺病、モ亦當報告年度ニ於テ損害ヲ與ヘ政府ノ獸醫ハ八人ニ増員セラレタリ。

二、南西阿弗利加

人類ノ疾病

「マラリア」ハ一九一〇乃至一一年ニ降雨少カリシ爲メ白人ニモ黑人ニモ新患者少カリキ、然レドモ該病ニテ「オマル」、「ゴバビス」及「クムバツド」區ニ於テ各白人一名宛、「グロート、フオンタイン」區ニ於テ白人四名死亡シ、其他一名ノ白人ハ「黒水病」ニ罹リテ死亡シタリ、幾那ノ配布ハ當年ニ於テハ諸官衙及警察交番所ニハ實費ヲ以テ、白人及黑人ノ希望者ニハ無代ヲ以テ之ヲナシタリ。

室扶斯、ハ「リユデリツブフト」^{スワコブムンド}及「ウインドツク」ニ於テ一時猖獗ヲ極メタリ。
 痢病、ハ前記ノ兩海岸地方ニ於テ、諸種ノ疾病中最モ患者ノ多キ疾病ニ屬シ殊ニ我國人ノ小兒ヲシテ
 犠牲タラシム、此兩地方ニテハ未ダ衛生方法行届カズ、即チ「リユデリツブフト」ハ一九一〇年ニ至リ
 テモ猶衛生的ニシテ且ツ便利ナル住宅ノ不足ニ苦ミ、安價ナル用水ニ缺乏セルヲ以テ住民ニ清潔ヲ保
 タシムルコト困難ナリキ、「スワコブムンド」ニ於テハ飲料水ハ其化學的性質上特ニ不良ナリ、兩地方
 ニ於テハ桶式ヲ採ルヲ以テ排泄物ノ除去ヲ困難ナラシム、「スワコブムンド」ニ於テハ浮式溝渠^{フロエンムカナリヤサ}
 ガ設ケラルベシト云フ、土人ニ於テモ亦痢病及痢病的「腸カタル」ハ相當ノ死亡者ヲ出セリ。
 壞血病、ハ土人ノ間ニハ大ニ減退シタリト雖モ猶「ダイヤモンド」採掘地ニ於ケル勞働者ニ對シ猖獗ヲ
 極メツ、アリ。
 肺炎、ハ土人並ニ英領南阿弗利加ニ於ケル住民ニシテ之ニ罹ルモノ益々多ク、英領南阿弗利加ニ於テ
 ハ此病氣ニ罹ル原因ヲ探討スル爲メニ特別ノ委員ヲシテ研究セシメツ、アリ。
 「インフルエンザ」ハ白人及黒人間ニ之ヲ見ルコトアリ。
 肺結核、ハ内地及沿岸ノ各地ニ於テ多少之ニ罹ルモノアリ。
 花柳病、ハ未ダ減退ヲ示サズ、有色人ニ出産數ノ少キコト及哺乳兒ノ死亡數多キコトハ其原因大半花
 柳病ニ在リ。

家畜ノ疾病

馬殺病、ハ一九一〇乃至一一年ニ流行シ極南ノ地方マデ發生シタルモ、馬匹ニ豫防接種シテ實效アリ
 タリ。
 馬鼻疽、ハ「マルタ、ヘー」區ニ發生シ五頭ヲ斃シタリ。
 肺病、壞疽、痺臟炎、黃疸病、「ラムチークテ」、「ステイフチークテ」及植物中毒ハ少數ノ牛ノ死因ヲ
 ナシタリ。
 東海岸熱、ハ爾來猶未ダ終熄セズ、一九一〇年十月十二日ノ命令ニヨリテ各種ノ牛、皮革、角及爪並
 ニ蕪秣ハ之ヲ南阿弗利加ノ聯合國「ベチユアナランド」、「ローデシア」及「アングラ」ヨリ輸入スルコトヲ
 禁止セラレタリ。
 「カタル熱」ハ二三ノ綿羊群ニ損失ヲ與ヘタリ。
 羊痘、ハ一九一〇乃至一一年ニ猶約九〇〇頭ノ肉羊ト五九頭ノ綿羊トヲ斃シタリシガ「ギベオン」區
 ニ發生セシヲ最後トシテ終熄シタリ、羊ニハ此他猶胃病及腸硬結腫病ヲ死因トシテ擧グルコトヲ得
 ベシ。

三、「カメルン」

人類ノ疾病

白人ノ衛生状態ハ益々改善セラレタリ、主ナル疾病ハ「マラリア」「黒水病」「赤痢」ナリ、腸窒扶斯ノ罹病モ亦二三件アリキ、痘瘡ハ依然トシテ流行シタリ、癩病ハ癩病部落ヲ設立シ以テ其撲滅ヲ圖リタリ、癩病部落ハ「ドウアラ」「エボロワ」「ウイクトリア」「ヤウンデ」「ガルア」ニ在リ。

睡眠病ハ此際「ニオング」河畔及「ドウメ」區ニ於テ簡單ナル睡眠病院ヲ設クル必要ヲ感ジタリシ程甚シク蔓延シタリ、最初ノ病院ハ「ニオング」河畔ナル「アコノリソング」ニ設ケラレタリ、殖民地ニ疫病ガ侵入シ且ツ其頑強ニ留存スル危險ハ當時主トシテ醫師ノ講究スベキ問題タリ、新タニ我國ニ歸屬スルコトトナリタル「サンガ」地方ハ北方「カルノー」附近迄睡眠病ノ爲メニ荒ラサレタリ、吾人ノ責務ハ先ツ舊「カメルン」及新取得地方ニ於ケル睡眠病蔓延ノ程度ヲ精細ニ調査シ而シテ極力之ガ撲滅手段ヲ講ズルニ在リ、然レドモ罹病地方ノ原始森林ノ妨グル所トナリテ其效果ヲ擧グルニ困難ナルベシ、腸蟲病、ハ平生一般ニ流行セリ、痢病ハ各所ニ流行シ以テ南方ノ「バメンダ」區ニ於テ之ガ爲メニ斃レタルモノ約九〇〇乃至一、〇〇〇名アリキ。

家畜ノ疾病

肺疫病、ハ「ガルア」ニ流行シタリ、「クリビ」ニ於テハ「豚、豚、豚」發生シ此疫病ハ終熄シタリ、毒螫蠅、ノ螫毒ヨリ起ル疫病ニ罹ル場所ノ調査ハ進捗シタリ。

四、「トオゴオ」

人類ノ疾病

一九一〇乃至一一年ニ政府ノ醫師ガ歐洲人ニ治療ヲ加ヘタルモノ七八六件ナリキ、「ロオメ」ノ衛生状態ノ不良ナリシハ其原因異常ナル雨量及無害ナル水ノ不足ニ在リ、死亡シタル四名ノ歐洲人中二人ハ腹膜炎他ノ一名ハ「マラリヤ」殘ル一名ハ赤痢ニ罹リタリ、土人ニ對シ最モ危険ナル疾病ハ痘瘡ニシテ睡眠病、項部「カタール」及癩病ニ比スレバ更ニ惡シ、睡眠病ノ撲滅手段ハ經濟上甚シキ損害ヲ隨伴スルヲ免レズト雖モ猶從來ノ方法ニテ引續キ施行セラレタリ、「チハムバ」「サンズグ」(ソコデ區)及「ボーグマング區」ニ於ケル癩病部落竣成シタリ。

家畜ノ疾病

「ソコデ」及「マング」區ノ牛ハ肺結核及瘰癧炎ニ罹リタリ。

五、獨領「ノエギネア」及「ビスマルク」群島

殖民地全體ニ於ケル衛生状態ハ白人ニ就キテモ土人ニ就キテモ不良ナラザリキ、脚氣病ニ對シテ患者ニ「カチャンギチオー豆」ヲ副食物トシテ與フルコトハ種々ノ程度ニ效驗ヲ奏シタリ。

六、「カロリネ」「マリアネ」「マルシヤル」諸島

白人ノ衛生状態ハ到ル所良好ナリシモ、土人ノ衛生状態ハ猶改善ヲ望ムベキ點ナキニアラズ土人ノ増加ハ僅少ナリキ。

「サモア」ノ衛生状態ハ十分良好ナリキ、從來「トラホーム」トセラレタル、「トラホーム」類似ノ結膜疾患ハ一種別異ノモノナルコト判明シタリ、腸蟲病ハ此所ニモ亦廣ク流行シタリ。

一九一〇年乃至一九一一年 獨逸殖民地狀況一斑 終

大正二年三月廿五日印刷ヲ以テ謄寫ニ代ユ

1421
267

大正二年三月廿五日印刷
大正二年三月廿五日印刷

1421
267

終

